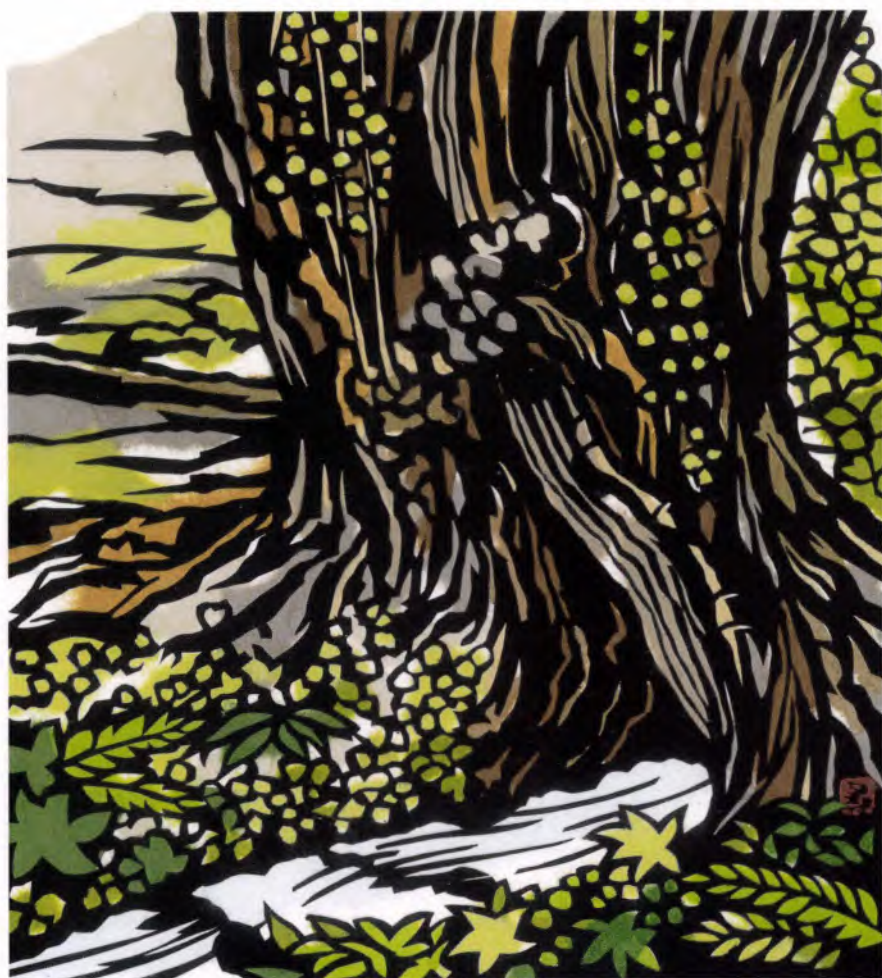


川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一四四号



日川協加盟

No. 1144

九月号

第28回 川柳塔まつり

と き 2022年(令和4年)10月1日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

と ころ ホテル アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2021年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2022年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞
おはなし 「光を失って手にした五七五」

RP-net 川柳会「もやい傘」代表 山 本 進 氏

兼 題 「楽しみ」	川 柳 塔 社 上 田 ひとみ 選
「とける」	川 柳 塔 社 藤 井 宏 造 選
「再 び」	川 柳 塔 社 伊 達 郁 夫 選
「 味 」	川 柳 塔 社 居 谷 真理子 選
「 点 」	川 柳 展 望 社 天 根 夢 草 選
「自由吟」(8月31日必着)	川 柳 塔 社 小 島 蘭 幸 選

(出席者に限る)

◎ 各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます。

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定)

※ 各題の「天」位に賞呈

◎ 会 費 2,000円(当日いただきます)

昼食は各自でお済ませください。

◎ 呈 記念品

主 催 川 柳 塔 社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201号室

TEL・FAX 06-6779-3490

百試千改

小島 蘭 幸

「何度も試して直す。なんばいけんかってもそこを見つけて直す。わしゃあ負けんど」明治時代、日本で初めて吟醸酒を作った三浦仙三郎の「百試千改」の精神、モノづくりの魂は脈々と今に受け継がれています。

映画「吟ずる者たち」は、吟醸酒の父、三浦仙三郎の杜氏の末裔が継いだ酒蔵の物語です。竹原出身の映画監督、油谷誠至は……この映画「吟ずる者たち」を制作することは長年の夢でした。初めて三浦仙三郎のことを知ったのはもう30年以上も前、同級生の藤井酒造の藤井善文君から聞いた話でした。いつかはきつとこの郷土の偉人の話を映画にしたいと思いつつ30年の歳月が流れてしまいました。18歳で竹原を出て長く東京で暮らしていますが、竹原そして安芸の芸南地方のことは片時も忘れることなく、今回やっと念願の故郷の映画を作ることが出来まし

た……と舒懷しています。

映画は令和の主人公、永峰明日香（比嘉愛未）が東京で夢破れ、呉線の安芸津駅に下り立つところから始まります。目標を失っていた明日香は、父、永峰亮治（大和田獏）が突然病気で倒れたことで、父の酒蔵の杜氏になることを決意します。そして父の夢である新酒「追花心」完成に向けて邁進するのです。明治の主人公、三浦仙三郎は中村俊介、妻イヨは広島出身の戸田菜穂が演じています。

私は映画に夢中になっていて撮影場所を確認することが出来ませんでした、広島県内の各地でロケがされています。竹原では、松阪邸、森川邸、頼惟清邸、照蓮寺、藤井酒造、水儀、竹原マリンでロケが行われました。

森川邸は、私が16歳で初めて川柳大会に出席した第6回近県川柳大会の会場でした。

よう釣れますなあとだんだん竿が寄り

小島 和幸

三浦仙三郎の「百試千改」の精神は、川柳にも相通ずるところがあると思います。私もこれから更に精進して、一句を遺したいと思っています。

座右の句

勲章が欲しい七才七十才

(橘高 薫風)

私の句

昭七で賛成戦後民主主義

仁部 四郎

川柳塔 九月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「和知の湧水大カツラ」

■巻頭言 百試千改

もう一人の私

小島 蘭 幸 ……(1)
川上 大 輪 ……(2)

川柳塔 (同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

■エッセイ (水府に戻り 路郎に帰ろう)

木津 川 計 ……(35)

自選集

内 海 幸 生 ……(39)

句集の森

温故知新 ……(39)

橘高薫風句集『肉眼』

吉村 侑 久 代 ……(41)

英語 de Senryu ㊟

木本 朱 夏 選 ……(42)

水煙抄

木本 朱 夏 ……(59)

■追悼文 (内海幸生さん)

俳風柳多留 一三篇研究 25

もう一人の私

川上 大 輪

川柳って何、短歌や俳句とも違う。今は亡き妻富湖の父、大矢十郎に句を見せてもらったり聞かされたりする度に、「成る程面白くてうまいことを言ってるなあ、これなら私にも出来るかも知れない。」と何も分からぬまま軽い気持ちで始めた川柳。

寝たふりで聞けば妻子は父思い 十郎
向こうでも受話器を包む深い仲 〃
安売りの字は下手なほど安く見え 〃
達筆にやや責任もあり誤植 〃
順々に嫁くそれだけを羨まれ 〃

十郎は日常の出来事を句にまとめて口にするのが得意であった。思えば日常会話そのものが川柳だった。

カルチャーも無く、川柳塔誌も64頁であった時代。良く怠け、偶に頑張った時もあったような気もするが、気がつけば半世紀以上も過ぎてしまっている。

川柳という文芸名は初代柄井川柳に因ん

愛染帖		新家完司選	(62)
檸檬抄「劇」		江島谷勝弘・永見心咲共選	(66)
一路集「もたもた」		酒井健二選	(70)
「折る」		多久和敬子選	(71)
初歩教室「塩」		高瀬霜石	(72)
川柳塔鑑賞		早川遡行	(74)
水煙抄鑑賞		斉尾くにこ	(76)
せんりゆう飛行船 ^④		新家完司	(77)
インスピレーション・ナビ 印象吟		大西泰世	(78)
八月本社句会			(80)
各地柳壇（佳句地十選／栗田忠士・藤井寿代）			(85)
九月各地句会案内			(98)
柳界展望			(100)
■編集後記（ひとこと／川崎ひかり）		道夫・眞澄・憲彦	(102)

座右の句

恋人の膝は檸檬のまるさかな

（橋高 薫風）

私の句

書きすぎぬように大事なひとに書く 八木千代

だ名称であることを知ったのは、それから暫く経ってからの事であった。

川柳に難しい約束事はない。あるのは五七五のリズムに乗せて詠む、ただそれだけ。

麻生路郎は「句はその人の心であり、姿であり、呼吸である。」と残している。

句は「もう一人の私」です。句の中で思いを解き放ち、自由に遊ばせることが出来るのが川柳です。

句帳に残された数々の句は、人生史そのもの。句を生み出す作業は人によって異なると思いますが、川柳とは関わりのない全く別の世界でふっと生まれてくる安産もあり、大変な時間や労力を費やしても完成しない難産の時もある。

句にはその時代の思い出や出来事等が凝縮され、見るたびに懐かしさや情景が浮かんでくる。いずれにしても、どの句もみんな大切な「もう一人の私」であり、人生の記録なのです。

一度しかない人生ですが、「もう一人の私」には、家族や多くの仲間の心の中で永遠に生き続けていってほしいものです。



小島蘭幸選

笠岡市 藤井智史

コレクシヨンニンマリ眺め独りきり

ボロボロボロ白蟻だらけの令和

住みやすい温度を保つ夫婦愛

周波数合わせて出逢う愛でした

暫くは君の迷宮にて遊ぶ

遊び方知らぬ働き蟻である

松江市 石橋芳山

脳天を貫く炎天の剣

ママチャリを飛ばす龍馬の危機である

陸奥湾の蓋だし竜飛岬だし

波頭碎けて傷口が痛い

煮こぼれたジャズが沁み込む22時

しとやかに笑えエルニーニョラニーニャ

松山市 柳田かおる

ユーミンの元気に日常を忘れ

もやもやヘギユツと檸檬を効かせるの

握りつぶした夢思ったより重い

にぎり拳を黙らせているポツケ

ふつうでいい普通がいいと楕円形

答えなんて出ないふらふら着地点

堺市 乗原道夫

恋人よ溺れそうです天の川

週末は八行の音を多用する

風鈴に責任を追及しても

蟬しぐれ止んで固体として墜ちる

教室の褪せた文庫の漂流記

向日葵と張り合っていた少年期

大阪市 津村志華子

生きた生きた三万四千五百日

百歳を目差すのかいな長寿箸

蛸焼と麦茶で済ます昼の膳

貯めてますエンマに渡す袖の下

終焉は満天の星父母に逢う

過去は過去今終章の身づくろい

西予市 西田 美恵子

間違つた恋も恋です曼珠沙華
幸せは内税憎しみは外税

月は哀しく戦の後を照らし出す

朝顔の野心か蔓はまだ延びる

後悔は欠席に丸つけた事

受けて立つそんな昔もありました

倉吉市 牧野 芳光

対岸へ鳥になりたい時がある

鮎釣りはよそう川鵜が立つている

昼寝する頭に蜘蛛が巣をつくる

私の背中私にわからない

ニアミスにならないようになるように

私の頭の中に花畑

堺市 内藤 憲彦

雨天決行リアル句会2年ぶり

老いてなお学ぶことありカタツムリ

脳のサビ落としに大和川散歩

言つたでしょ妻にあつさり捌かれる

母の背のどこが痛いからへん

甘えてくるしケンカを売るし母愛し

大阪市 谷口 義

ぶつかることはない逃げたらええねん

見事に老いた烏賊の一夜干し

おばあさんにも旬の時代があつた

おばあさんも経験不足でけつまずき
はつたりの効果も薄れ日向ぼ
そこそここのところでおばあさんらしくする

藤井寺市 鈴木 いさお

なけなしのお金叩いて句集編む

大勢のパワーをお借りして上梓

大丈夫そうに見えるがステージⅡ

帽子脱ぎ靴脱ぎマスク脱ぎわが家

知らぬ間に戦力外になつていた

カラフルに生きよう終のその日まで

神戸市 上田 和宏

平均寿命越えて妻には逆らわず

ひと休みしながら生きる年の功

生きているのが趣味になったと笑つとく

セピヤ色になれば過去みな美しい

お茶とチョコ持つてパソコンオンにする

幸か不幸か終活をする暇がない

松江市 藤井 寿代

柿ピーとビール片手にカーブ戦

打ち水に母の匂いが溢れ出す

ボチにまで試されている認知症

ひまわりは咲いたミサイル飛んで来た

罪と罰 人間は賢いはずだった

窒息するほど地球は病んでいる

尼崎市 山田耕治

図書券がいいなと百点を見せる
クリニツク今朝も母似の人と会う
おはようと言って仏間を通り抜け
安否確認メール忘れて寝てしまう
義姉さんの後ろで経をあげている
もう寝なさいと猫が机の上へ来る

枚方市 栃尾奏子

わた菓子でさえ持っているしたたかさ
ケイタイを落として僕が透けはじめ
嫁という称号妻という権利
真実は僕だけが知る四畳半
竜胆の誘惑秋を匂わせて
人間に愛を与えた神の罪

鳥取市 福西茶子

何やかや言って幸せそうな顔
六波七波独りぼっちと戦中
私が乗るとシーソー下りたまま
バラ色かピンクか惹無い余生
大丈夫まだ針穴は狙えます
愛想笑いつくれば猿の顔に似る

唐津市 坂本蜂朗

父と兄の歳越え未知の域に入る
病院で会う友人も老いている
妻がいるので我慢して飲む薬

母の意志妻が無言で継いでいる
髭剃りはまだらコロナの後遺症
厨房を引き受け知った独り酒

藤井寺市 太田扶美代

目を瞑るいつか何処かで逢えそうで
病状を尋ねてくれぬ花ばかり
一途さでいつか此方を振り向かず
小吉をとっても大事にして夫婦
この街で何かを捨てたのは確か
自閉症のわたしによく効く夕陽

越谷市 久保田千代

救急車輸送とうとう世話になる
主人入院部屋も頭も空っぽに
これからの介護生活覚悟する
恙なく過ぎた一日傘閉じる
紫陽花の道はあの日に続く道
いよいよの出番わたしの決心度

貝塚市 石田ひろ子

家族葬DNAが畏まる
タブレットで遊ぶ静かな夏休み
何時からか指輪が抜けぬまま独り
消しゴムに笑われている誤字脱字
手の届く範囲で足りる暮らし振り
居て欲しい聞いて欲しいと遺影見る

塩竈市 木田比呂朗

名月に清酒のマツチする九月

ジョッキから猪口へのリズム整わず

締め切りに頼みの辞書の電池切れ

明日へのヒント浮かんでいる湯船

セブンでもアンラッキーな第七波

男鹿市 伊藤のぶよし

嗚呼夫婦一人暮らしの特訓中

マスク無しではありえない恋だった

蹶いて知る他はない実年齢

命綱なら水空気電波です

ヒタヒタと迫り来るのは何だろな

弘前市 稲見則彦

四季折々昭和の風が懐かしい

抜き足も差し足も無理津軽夏

T字路は悩むY字路では迷う

夕焼けとカラス不思議によく馴染む

とりあえずスパーへ行く明日は雨

弘前市 今愁女

笛太鼓胸ときめかすりハーサル

三年ぶりのネプタ祭りに津軽衆

女とて肌もあらわに太鼓に跨り

大太鼓むち打つ姿勇ましく

世界に響けコロナをも負かすのだ

東京都 川本真理子

物忘れの隙間にミサイルの名など

素にもどり薄暗い中米を研ぐ

ばんやりと探すこの世に生きる意味

夏の子が立っている鏡の中に

悲しいのはそれでも地球回ること

八王子市 川名洋子

恋を食べ命も食べて終章へ

愛憎をいくつも重ね日が暮れる

目分量という私の味加減

ドラマ見て箸の持ち方気にかかる

交差点酷暑にゆらり人の群れ

横浜市 川島良子

日本の悲劇誰が予想できたか

プーチンはどう考える安倍氏暗殺

「継続は力」猛暑に負けていられない

「卒業式にはきてね」と孫のメッセージ

焼肉の食べ放題ならまだいける

横浜市 菊地政勝

留守にした庭にトマトが熟れて待つ

留守電に他人行儀な妻が居る

美人の湯あきらめて行く長寿の湯

アルバムに遺影写真を探す日日

踏まれない場所で雑草花をつけ

朝霞市 前田 洋子

犬山市 関 本 かつ子

金塊を入れているよなランドセル

中流から総貧困の国となる

氣候変動争っている時じゃない

友の声聞きたくになると電話鳴る

なみなみと酌ぐに勿体ない名酒

愛知県 早川 遡行

世界中で安倍晋三を悼む声

我儘に生きた命を振り返る

こうなったら頼るしかないサブリ

当たらないから止められぬ宝クジ

足元から生きる元気が失せていく

名古屋市 山本 三樹夫

答弁を原稿読みで無責任

プーチンの罠に嵌まらぬウクライナ

雨の日は昭和の歌でカラオケを

万華鏡政治の裏がここかしこ

物価高風通し良い冷蔵庫

大山市 金子 美千代

たぎる湯を待たせ採れたての枝豆

昭和を残すわが家畳に聚楽壁

群青の空続く水無月の怪

依存症だった眠剤やと切れ

五千円の補助に乗っかるバスツアー

遺言を書いて夫は空の旅

宝くじ三年振りの列に付き

怒りからため息になるウクライナ

二十歳から投票だけは欠かさない

流儀には無縁な花が生き生きと

可見市 板山 まみ子

梅雨明けも嬉しくない長い夏

猛暑ではお刺身食べる気になれぬ

玄米で脳を活性化したい顎

十年後どうなるのだろ八十四

三食を作る役目がまだ続く

奈良県 安福 和夫

サッチモでハモった仲間みな鬼籍

パティーペイジ聴き惚れ涙したことも

想い出の名曲呼び出すユーチューブ

それ以上進化は無用八十路坂

程ほどの進化を尊ぶ世を望む

奈良県 谷川 憲

いつの世も戦争止まぬ青い星

万葉の歌碑を尋ねて地元知る

コロナ禍に皆が願うほの明かり

政治家の声が空虚に響いてる

コロナ禍の休み癖止め再起動

奈良県 中原 比呂志

欲望の電車脱線して暴走

非常時にウルトラマンは現れず

小さくなり値上がりばかり抜ける空

野仏に絶えない花で誰だろう

令和では野口雨情の雨でなし

奈良県 中堀 優

明日はきつと良き日になると思い生き

孫達が嫁もらうまで生きなくちゃ

除いても取り除いても妻の棘

わが迷い昨日も今日も霧の中

見てる星きつと父さん母さんだ

奈良県 長谷川 崇明

梅雨明けて宮の大樹に蟬時雨

好きだから選び悔いないボランテア

生きてきて今はお返しボランテア

青い地球奪うヒト科の深い罪

残り火に命を燃やす第二章

奈良県 渡辺 富子

身も凍る犯行起こる奈良の街

第三次世界大戦めくコロナ

人の世のおぼろで愛をたしかめる

想い出をたどれば優しい風が吹く

ころろ澄ませ自分と対話する散歩

奈良市 宇賀 史郎

死してまた危機が問われる民主主義

奈良在住故にメールの来る事件

第七波誌上句会になるおそれ

円原油相場知らずの物価高

誕生日余命で貯金割り不安

奈良市 大久保 眞澄

ほかほかで眠れぬ夏の布団干し

掌握したって誰もいない廃墟

物忘れするたびボケたかと思う

足に根が生えてオバちゃん立ち話

ヤングケアラー今まで気付かずにごめん

奈良市 加藤 江里子

ウクライナの歴史学んでみたくなり

言葉に出来ぬ涙も流れぬ哀しさ

十年目ドラセナの花咲きました

羽ばたいても誰も気付いてくれぬ日も

チアダンスセンターに居る九十歳

奈良市 高橋 敬子

クーラーの外機を吐く猛暑の日

半世紀無事に返した免許証

後の疲れ忘れ無理してまた悔やむ

健康寿命体は本音隠さない

スニーカー横のサンダル忘れられ

奈良市 辻 内 げんえい

香芝市 大 内 朝 子

卒寿夫婦とお茶して元氣貰う喜寿夫婦

雨なら棄權選挙への期待その程度

選ぶ人ならいるが党氣に入らぬ

断捨離でボクの痕跡減っていく

濃いものは食べぬ主治医のお言い付け

奈良市 山 本 昌 代

追っかける母のシャベルに四季の花

ことごと煮物幸せ沁みてくる

注意しいや軋けんときやと孫のTEL

エアコンの威力熱波をみじん切り

凶行のニュース画面を睨み付け

奈良市 米 田 恭 昌

凶弾の地深い侍りの人の列

自民圧勝半旗掲げた選挙戦

ヤングケアラー心優しい子の育ち

起死回生古文書からの村興し

雑学の趣味が高じてクイズ狂

生駒市 飛 永 ふりこ

解せないが寝言ではよく怒るとか

ブランコの小さな涼に励まされ

集中力なくてポイントずれてくる

透き通るバリの海ならもう一度

朝の風新たな今日が開きます

投票を済ませ国民自覚する

突然の狙撃に唾然白昼夢

共生をせねばならぬのかコロナ

沖繩の海に悲しい青がある

百歳を思えばわたしまだ若い

香芝市 山 下 じゅん子

メダリストらコロナ蹴散らすアイスショー(スケートショー3句)

結クンのおへソがちらり息をのむ

ひまわりで哀愁を舞う静香さん

君想う窓を開ければ寝待ち月

山頂で天空からの風を抱く

和歌山市 上 田 紀 子

時どきは手抜きしながら行く猛暑

花火師の苦労大輪花咲かす

主義主張捨てて気楽な回遊魚

無理せずに自分の歩幅衣食住

月下美人一夜限りの香を放つ

和歌山市 柏 原 夕 胡

花柄のマスクでコロナ楽しもう

コンビ二に集う子の瞳が死んでいる

道を訊くにも警戒をする世相

迷惑を掛けかけられて支え合う

雑草に生まれ花束にはなれぬ

海南市 小谷小雪

再会のささゆりが立ち止まらせる

満天の星の下でのソロキャン

音程は外れていてもわらべ歌

無理むりと思う心に負けている

七夕の夜に寄り添う父と母

橋本市 石田隆彦

真夜中の時計が憎い不眠症

職退いて男は孤独散歩する

デジタルへ老いの頭も模様替え

ことば遣い命令調になる長女

地味ながら元気に生きる里暮らし

京都市 清水英旺

老けたねと会うこと久し笑い合う

雨の夜心に沁みいるベラフォンテ

人の皮かぶったサタン跋扈する

こりゃ旨い褒める一言忘れない

歩幅小さくなればなる程遠くなる

京都市 藤井文代

切り返す言葉浮かばず痛む喉

階段に手摺りを捜す八十路です

箸を持つ手のふるえるもこれ八十路

美辞麗句時と場合で逆効果

星の国行くにも要るかバスポート

長岡京市 山田葉子

ずっと消えずつとやさしい人のまま

後期ばかり現金レジに並んでる

犬こわがるところが何だか可愛いね

好きな人時空を越えて会いに行く

用ないのに電話の音が聞きたくて

大阪府 米澤俣子

フライングか一足跳びに來た猛暑

よくやったと思える日々がいと嬉しい

もう一度逢つてもみたい遠い過去

記憶にはないと上手に呆けておく

もしももしやが往きつ戻りつ夢の中

大阪市 石田孝純

暑さ指数加算乗算蟬の声

三十五度暑さが体蛇行する

猛暑凌ぐ雑草午後の死んだふり

冷コー飲み時空を散歩純喫茶

冷奴二丁で夏が気化をする

大阪市 磯島福貴子

痛いですに加齢ですねで済ます医師

手持ち花火幼き昔亡弟と

黒電話公衆電話掛け方指南

虐待で命落とす子後絶たず

凶弾に倒れた安倍氏さぞ無念

大阪市 井 丸 昌 紀

守られて敵に回した父が近く
父さんの駄洒落笑ってあげ平和
気合い入れ夕餉と対峙休肝日
夕食ができたようだなチンと鳴る
独り住み律儀にノックしてトイレ

大阪市 岩 崎 公 誠

物価高買わない知恵も一手なり
転けてから近いとこでも杖を持つ
介護ロボ覚えた技でできばきと
訳ありのみかん結果は高くつき
残念見えじたばたしたら見苦しい

大阪市 岩 崎 玲 子

便利グッズ使いすぎてか思考ゼロ
生きるコツわかりかけてはかくれんぼ
叱られてもいい亡母の声聞きたいよ
断捨離は空しなるから止めている
長雨がうっとりさせるカキツバタ

大阪市 内 田 志 津 子

真つすぐに進んだ道だ誉めてやる
九回満塁ヒーローになる時が来た
夕散歩斜陽ギラギラ背にうけて
釣果ゼロビール一本足してやる
深刻にならず真剣になれと父

大阪市 宇 都 満 知 子

口数も減る暑さただ水を飲む
太陽も人目も避けている日傘
笑顔とてマスクの中で蒸れている
幸不幸時の流れの交差点
いとしさを沸点にする孫を抱く

大阪市 江 島 谷 勝 弘

リベラル派なんで減るのかわからない
爺婆がしつかり日本守る時
老いふたり三十本も傘がある
去年より五日も早い蟬しぐれ
シャッター街に輪をかけましたコロナ様

大阪市 榎 本 舞 夢

世界的猛暑に耐える卒寿です
無理せずにその日その日を大切に
朝の風どこかが違うクーラーと
近頃は主人と一緒に出かけてる
七月はまつり事あり忙しい

大阪市 大 川 桃 花

鉢植えに見知らぬ蝶蝶孫が追う
お天気には勝てぬと農家あつからかん
病み上がり部屋のくすみに目を瞑る
個人情報絵馬に隠さず書いてある
お車越しでもお見かけしたい上皇后

大阪市 奥村五月

高齢者刺激も無いが金も無い
苦しいが他人事で無いウクライナ
好き嫌い言っておれないケアの女
あの世には句会するほど友がいる
楽しみは僅か苦勞で生きている

大阪市 小野雅美

君からの視線目尻で受け止める
人の裏ばかり読む目を休ませる
引き返すつもりが橋が崩れゆく
後ろ指は見えない図太く生きてみる
大輪を咲かせるまずは土選び

大阪市 笠嶋恵美

旧友より電話少女に戻る幸
ゆつくりと老いを楽しみ歌にする
手の平をながめて感謝なでなでも
長生きは旧家の生まれ何かある
ゆつたりと静かに生きる息遣い

大阪市 川端一步

ああ夕陽人間小さいなと思う
耳掃除しつかりとしてカンツォーネ
藤井五冠の棋譜を並べて気を貰う
年金減またまた文化遠くなる
浮きうきとひ孫の浴衣縫っている

大阪市 古今堂蕉子

含羞を含んだ顔になった孫
「惜別」の記事はさすがの生きつぶり
個人情報詰めたスマホは落とせない
平和健康頼む五円の重いこと
伯山の講談元氣の源

大阪市 近藤正

武器商人笑い止まらぬ長期戦
争いに9条いかし話し合い
論戦は平和と暮らし夏の陣
消費減税こそ百薬の長である
どん底から這い上がる党百年目

大阪市 坂裕之

何もかもスマホで出来る怖い世だ
手作りのトマト可愛い食べづらい
何しても上手くない暑い日は
てにをはを少し変えれば遠慮がち
水撒いて少し涼しい気になった

大阪市 高杉力

振り出しに戻りたくって賽を振る
軸足がどちらだったか分からない
プチプチをつぶす言いたいことがある
背伸びする癖がとれないまだ元氣
言い訳が想定内でつまらない

大阪市 高 杉 千 歩

大阪市 中 井 萌

美しく枯れたく朝の化粧水

迷い道曲がり道での良き出会い

ハイと答えて介護士さんは来てくれぬ

守られて守るものなし車椅子

郵便の来ない日はかり慣れました

大阪市 田 中 廣 子

代替わり引き継ぐことのむつかしさ

コロナ禍でタブーとされる事多く

湯上がりの素顔がとても美しい

水茄子が届いて暑い夏が来る

空梅雨でダメーじ受けたメロンたち

大阪市 田 中 ゆ み 子

側に居るとどんな結果になろうとも

折半を大切にしてお老夫婦

占いは最下位わたしの誕生日

大声の人に加担をしてしまう

夾竹桃真つ赤敗戦忌が巡る

大阪市 寺 本 実

支援金終り閉店決めました

連敗を雨天中止で切り抜ける

貧乏でヒマもたつぷりあるのです

盃にあふれるほどの薬飲む

値上げせず量を減らして知らぬ顔

今もまだ諦めてない逆上がり

マスクにも隠せなかった泣きボクロ

セクシーの意味も分からずエルヴィスを

生き抜いて見られた孫の彼女

甘くなれ期待背負っているメロン

大阪市 原 田 す み 子

ただいまって言うって言われる幸を知る

わが家の味二人の舌で出来あがり

エアコンつけると否応無く一緒

冷凍のコーナー辺り長居する

普段着に慣れた目鼻が締まらない

大阪市 平 井 美 智 子

また一人欠けて独りの息の音

鎮魂歌だろうか雨が降り続く

てにをはの辺りで水が漏れている

頼みごと下手で両手の大荷物

果てしない痛みを抱いている夕日

大阪市 平 賀 国 和

三年振り祭り太鼓の音響く

旧友四人北海道へ小旅行

函館で明治維新に思い馳せ

ウクライナあまたの人が待つ平和

凶弾に悪夢がよぎる民主主義

大阪市 降 幡 弘 美

おしゃべりが弾んで冷めてゆくランチ
久々のヒール翌朝つつた足

解除され人の波にはまだ慣れぬ
メルカリでいい値で売れた引き出物
リモコンを持って昼寝をするジイちゃん

大阪市 宮 崎 シマ子

人だからお札が言えるありがとう
自分史の七色今だから胸に抱く
娘も古希ホームへの訪問重荷だろ
言い訳はほどほどに本音がぼろり
ホームの中で一日一善なんて出来ぬ

大阪市 山 本 加お里

辛くても父母よりましな良き時代
呆けないよう脳トレ五年気は達者
信号がピカピカしてるあわてない
病んでみておまけの余生楽しもう
幸せは自分で決めて光りだす

大阪市 横 山 里 子

髪切ってハンサム婆さんと呼ばれ
ふいに来て諭吉さらって帰る孫
娘も同じ高血圧の薬飲む
LINEから色褪せた恋削除中
遠雷に洗濯物の薄湿り

大阪市 若 本 安 代

運を天に委ね気楽に生きている
誤作動があつて楽しい二人旅
二人旅喋りたいのにもう寝息
京扇子はんなり香る風がくる
天の川きれいに見えた山の宿

堺市 今 井 万紗子

そこそこの人生だった夫婦著
この命大事に生きていく覚悟
青空を味方に一歩また一歩
無理を承知で好きな事して生きてます
子等のエールあればこの世も頑張れる

堺市 柿 花 和 夫

コロナお手柄定着させた家族葬
紫も上がりも死語の回る寿司
口答えせずに口笛孫大人
侵略の過去には触れぬ日本人
国境が毎日変わる世界地図

堺市 源 田 八千代

レモン供え檸檬の文字をインブット
脈ありそう初恋の人にアタック
暑さ対策朝一番に外回り
日中は涼しい部屋に籠ります
猛暑見舞電話ないから掛けたげる

堺市坂上淳司

斜に構えた輩がまたも大事件
凶弾でモリカケサクラ闇の中
投げ打ち走る三刀流の翔タイム
搞ち上げに張り手相撲は格闘技
扇子両手に裸踊りをした昭和

堺市澤井敏治

過疎だけどぼたるに惹かれ孫が来る
難問を解いた顔だね夕茜
見習い主夫水道代を跳ねあげる
汗かいて母娘の眠る猛暑午後
秋の海波もなかなか演出家

池田市太田省三

トイレからスマホがあると叫び声
手を上げてラジオ体操車いす
途切れないラッシュアワーのアナウンス
緋目高が大きく泳ぐ金魚鉢
風鈴の短冊めがけ猫パンチ

河内長野市大島ともこ

生きてさえいれば何とかなるものさ
余命数える独り暮らしの悪い癖
何だかなギョツとして欲し雨さなか
落ちそうで落ちない彼の綱渡り
古民家を未来へ向けて色直し

河内長野市梶原弘光

自分史を見れば威張れたもんやない
頂き物美味いモンだけ御裾分け
隅っこで唱えるネバーギブアップ
腹括る生老病死世の習い
ここんどこ東欧の地図空覚え

河内長野市木見谷孝代

のびる子の夢よ叶えと旗を振る
待つ人の笑顔浮かべて絵筆とる
コーラスの仲間明るくよく喋る
やっと知る亡夫の日記にある思い
独り居の自由時間がまだ足りぬ

河内長野市辻村ヒロ

草むしり愚痴も聞いてと墓まいり
一人暮らし掃除の手抜き多くなる
締め切り日いつも諦めポストまで
おだやかに見える顔して複雑だ
自分のことばかりを聞いてほしい友

河内長野市中島一彌

家の味母から妻へコンピニへ
一日のリセットをする仕舞風呂
町中華壁にジヨッキの水着美女
雑草が権利を主張する空き家
暑中見舞い生きているかと軽くジャブ

河内長野市 藤塚 克三

見よう見まね親父の後ろ盆踊り

足つねりあくび堪えて聴く法話

年金で鰻重妻に感謝状

クラス会費で隠れたやんちゃ顔

気付かない地味なあいつの誠実さ

河内長野市 村上 直樹

ポコポコポコだいぶ減ったな老いた脳

びつたりと酒をやめたらきつと死ぬ

ハンドルを握るトップの肩の凝り

地味でいい心籠った家族葬

二人して逆縁に哭く写真帖

河内長野市 森田 旅人

こっそりと母さん泣いたいだいどころ

しがらみを捨てて翼の生えた母

居なくとも貴方にと買うサクランボ

トップガン感動語り合うライン

いつせいに鳴きだす蟬のカレンダー

岸和田市 岩佐 ダン吉

病院を探し泣いている救急車

正論はいいが話が進まない

粉ものの街を直撃する戦

筋を吐く人隅っこにただひとり

風などは読まず付度などしない

吹田市 太田 昭

毒舌も吐けなくなつて老いてゆく

二度と来ぬチャンスの風に乗り遅れ

幸せを少し残して老いてゆく

親切にされてチャンスを失う

軸足を替えて強気になる案山子

高槻市 片山 かずお

子や孫が支えて威張らせてくれる

明日の米があるので良しとする暮らし

スタイルがいいとユニホームも映える

ご近所がみな凡人で仲が良い

電話すると長くなるので打つメール

高槻市 島田 千鶴子

樟の香を醸して仏彫る夫

梅雨明けて靴買いに行く老夫婦

つゆ草が見上げる空は深い青

人生は片道切符まだ途中

お互いの存在があり老い楽し

高槻市 初代 正彦

棄てようとしたら邪魔する影法師

指南役爺も夢中の独楽まわし

壁紙のごとヒトもじわじわ褪せるのか

抗老化腕立て伏せに汗をかく

八千歩ペースなんとかまだキープ

高槻市 富田 保子

頼られる内が花よと生きてます

どきどきの心写さぬ心電図

青空に洗濯物がある平和

ゆっくりが過ぎて次にも乗り遅れ

木を削る音もなくして家が建つ

高槻市 松岡 篤

スーパールに行く度値段上がってる

コロナ禍を知ってるだろかうちの猫

第七波夏祭りへの黒い雲

電力が寒暖計にビビってる

通信故障忘れぬうちにやって来る

豊中市 池田 純子

バアバにも育児手当が欲しい夏

ケイタイを忘れ私は自由の身

兄ちゃんにプラスアルファすれば父

朝はパンお昼は麺で夜お米

信じてた平和の中にあつた闇

豊中市 きとう こみつ

爪研いで飛びたつチャンス待っている

英国女王あなたまだまだ美しい

人の肌まだ刺し慣れぬ五月の蚊

自己責任でお金増やせという政府

インバウンドでまた密になる戎橋

豊中市 藤井 則彦

ビザ無し私の我が物顔で来る黄砂

年金日近いと猫も落ち着かず

ムシヤクシヤには大地を蹴ってまず歩く

百歳まで生きるに一人馬鹿笑い

プラスアルファの我欲が透けているお辞儀

豊中市 松尾 美智代

花に水やって一日動きだす

ひよろひよろと紫苑どっしりと蒲公英

集中力欠けてテレビもすぐ飽きる

クーラーに助けられて暮らし向き

清方の美人画に酔う目の保養

豊中市 水野 黒兔

子供らは天使に羽を借りて飛ぶ

遠景に富士を映して旅は吉

即決をして怖い独裁者

民主主義仲々議事が進まない

怪しげな人も当選する選挙

富田林市 中村 恵

無償の汗が光る命の水に

一瞬に家族を繋ぐ母の声

切り取った笑顔ほのほの満ちてくる

御破算ですっきりとした一行詩

柵がいっぱい秋の旅籠

富田林市 山野寿之

靴紐を結び直して始発駅

フル稼働田植えわくわく耕運機

休耕田挟んで青は早苗の田

表題で買って頓挫の文庫本

妻入院音が淋しい洗濯機

寝屋川市 川本信子

五十音いつも蹟くらあたり

神様はいつも私を試してる

第三のビールを供えリン鳴らす

捨て猫とパントマイムで会話する

教科書になかった愛の消去法

寝屋川市 伊達郁夫

温かい友を見つけてバラが咲く

晩酌の一合ほどの夢を見る

焼酎の湯割りは誰も任せない

故郷に戻る覚悟の帽子買う

あの人が逝って地球が軽くなる

寝屋川市 富山ルイ子

ミニトマト沢山成って朝配る

ピーマンもぼつぼつ取れて役に立つ

始めてのジャガイモ取れてジャガバタに

まだ一人出掛けることは止められる

ねやがわ句会止められ一寸顔を見せ

寝屋川市 平松かすみ

ありがとう長寿してます細い足

ゴーヤ苗スタンプリリーして四本

窓ごしに巻き付くゴーヤ日日楽し

ダメージの野菜も並ぶ道の駅

ライバルの会社のビール飲みません

羽曳野市 磯本洋一

朝夕の散歩待つてる犬と杖

父母の居て幸せな帰省かな

下ろし金買って大根買い忘れ

梅干も塩抜きされて粥の上

ジーパンは破れた方が高値なり

羽曳野市 宇都宮ちづる

負けまいぞハイビスカスと向日葵に

猛暑日の隙間を埋める雨台風

冷凍野菜円安猛暑で幅利かす

白寿まで生きるつもりでインプラント

軽自動車買える値段の歯科治療

羽曳野市 徳山みつこ

仏壇に鰻届いた父の日よ

政教分離ご存じでしよネお歴々

友や子ら私思ってくれる声

雲にのるごと二十二時の布団へ

各停の窓と訛を楽しまん

羽曳野市 藤原大子

東大阪市 佐々木満作

うぬばれも鈍さもあつて生きている

幸せと氣付くおいしい朝ごはん

余生とて緩めすぎずに締めすぎず

忘れっぽくなって夫婦のかばい合い

進化するコロナ後追いつけるヒト科

羽曳野市 三好専平

ブーチンを演じさせたいチャップリン

愚痴ひとつ絆ともなる夫婦仲

おとなりのこともわからず生きている

法律で性のアレコレ解けるのか

鎧が子より犬へと変わりゆく

羽曳野市 吉村久仁雄

免許返納もうハンドルを泣かさない

目立たぬが揺るぐことない母の愛

これ以上軽くなったら僕がない

慰めを言わない友の深い情

ハイハイの途中で孫は眠りこけ

東大阪市 北村賢子

窓オーブン命を誇る蟬しぐれ

命あるベツトは飼えぬ老いふたり

呼びかけヘナニヨーとなくうちの猫

しみじみ思う今その先が解らない

元総理の訃報世界中が悼む

通信の障害災害といえる

母の日は絵日傘父の日は絵文字

どの局もCFタイム合わせてる

喜怒哀楽乗り越えてきた喜寿傘寿

訃報聞く明日は我が身と受け止める

東大阪市 西村哲夫

年長少年 還暦なんてすぐに来る

人生苦持てば大人の仲間入り

ウクライナ軍国主義の過去を見る

冷淡は乳母日傘の独裁者

申し訳ありませんねと朝ご飯

枚方市 谷英也

ズバリ言う欲を捨てたら肩軽い

雨来たと蛙の声で和む心

柳作十年指一本で消滅す

川柳の認知予防と友が言う

マスク顔声かけられて覗き込み

枚方市 藤田武人

向日葵に負けじといっぱいの笑顔

塩辛い汗もだんだん薄くなる

引き出しに眠るビキニを着てみせる

声色を変えておねだりしてみたい

プライドが邪魔してるのか敵ばかり

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

お返事不用思いの丈を送ります

紫の言葉が並ぶ別れです

太陽はいつでもひとつ風は千

真つ直ぐのつもりで歩いてる背中

シャーベットほどよく溶けて半分こ

箕面市 大浦 初音

会えばいつも愚痴を言う人苦手です

また辞書を覚えられないカタカナ語

衣服費は過去最低の自粛中

美しい人しかめっ面も美しい

老いのいいところ怒ったこともすぐ忘れ

箕面市 酒井 紀華

ほおずきが昭和の想い呼び起こす

風の色肌で感じるウォーキング

日によつて濃淡がある空の色

遺影とはケンカできない独りぼち

プライドを保つ苦しい厚化粧

箕面市 出口 セツ子

遠方より三年ぶりに友が来る

たわいない話昔を引き戻す

古き良き母校が変わるのも淋し

お互いに老いて分らぬ十年後

会える時わねば明日は分らない

箕面市 中山 春代

ワクチンを幾度打てば許される

知らぬ間に一万歩越す蚤の市

扇風機昭和が首を振っている

敗戦日写真の父はセピア色

推敲がすぎてのつべらぼうになる

箕面市 広島 巴子

青と黄の短冊多い笹飾り

天の川渡れば父母に会えますか

月下美人一夜限りは切ないな

宿題に学生気分シニア塾

解放も束の間コロナまた増加

八尾市 寺川 はじむ

プーチンの天罰祈願する世界

じたばたながら手を取り合つて五十年

慣れ過ぎて外せば寂しがるマスク

駄目押しはもういいコロナ去つてくれ

九条をじたばたさせる世の動き

八尾市 村上 ミツ子

エアコンつける節電もしろどうすれば

政治家銃撃 日本のことですか

安倍氏を悼みテロを憎んで一票を

杖ついで投票所まで遠いこと

パンザイも笑顔もなにもない勝利

神戸市 奥澤 洋次郎

玉虫が飛んだ梅雨明けなんだろう

どうせ捨てることになる物取っている

自浄力の無い権力による悲劇

上手い句だ泣きも笑いもしていない

スカートを娘穿かなくなっている

神戸市 輿水 弘

そうだなそうね氣遣い熟れた夫婦仲

強面が破顔一笑いい景色

じわじわ妥協いつのまにやら隅に映え

イケメンの介護士来れば紅をさし

マスク慣れ外す恥ずかし初対面

神戸市 近藤 勝正

戦争を仕掛け相手の所為にする

ブーチンもイメージ良かった頃もある

いいニュース探し紙面を這い回る

いいニュース何ひとつない暑い夏

死亡記事ばかりはショックみな若い

神戸市 斎藤 隆浩

ホイホイと言ってはおれぬ日々値上げ

味よりもインスタ映えのかき氷

悪ガキが今や有名芸能人

今日の無念明日のあつぱれ連れてくる

頑張って活字になれと送り出す

神戸市 敏森 廣光

楽しいね今日も美人と会えました

マスクはずし世間の風を確かめる

歳やからと小さく生きるのやめにしよ

頑張れと言われない日日送ってる

妻も僕も耳遠くなり具合良い

神戸市 富永 恭子

思い出に変わる日も来るミステイク

安易には勝たせぬと神試験の場

命日に猫の写真とおせんべい

友メール旅先からの写真付き

誕生日一歩前進二歩後退

神戸市 能勢 利子

庭先に猫と思えばアライグマ

可愛いが飼うには危険アライグマ

獐猛で元はペットが野良になる

保健所に目撃情報忘れてた

アライグマに好かれないよう庭手入れ

神戸市 松倉 正美

紫陽花が変化せぬまま梅雨明け

夏越祭茅の輪くぐって暑氣祓う

値上げラッシュユマस्कだけが値を下げる

脱マスク議論百出街の声

塗り立てのペンキが匂う海開き

神戸市 山 口 光 久

やりくりは上手いが貯金縁がない
珍しくはしゃいでいます初孫に
非常時もどっしり構え動じない
元氣ない時も髭だけよく伸びる
置物の一つで部屋が華やかに

神戸市 山 口 美 穂

向日葵の笑顔に元氣いだいて
朝顔が咲き初め子等の目覚めよく
リハ終えて帰途のドライブ青葉風
胡瓜もみ亡母のリズムを思いつつ
梅雨明けのはやさに戸惑う蟬の声

神戸市 山 崎 武 彦

じつくりと煮込んだ愛はほんまもん
うちの子に限ってなんて言えますか
生きている雑草だって僕だって
美しく生きてひとりの泣きぼくろ
煮え切らぬ男を叱るカンナの朱

明石市 梶 谷 和 郎

五〇音言えた子の眼は誇らしげ
オレンジを剥く付け爪をつけたまま
乗り継ぎの駅でのり弁ひとつ買う
改札をくぐり地元の顔になる
悪党も最後ボロリと吐く懺悔

尼崎市 永 田 紀 恵

良い人とレッテル貼られ生きにくい
三円のレジ袋にもある矜持
サブリでも信じて飲めば薬です
化粧よりマスクに頼るしみとしわ
「どうぞ」待ち優先席の前に立つ

尼崎市 羽 奈 和 子

産湯から死に水までのお世話さま
外にいる時だけ止んでほしい雨
ママの味肉じゃがじゃなくハンバーグ
葬儀社のイベントチラシにぎやかに
おっちゃん時代先取り日傘さす

尼崎市 藤 井 宏 造

受け入れ先しつこく探す救急車
初恋を天日干しする梅雨晴れ間
ホップステップまではよかった老いの足
情けないこころ一番が決められぬ
ズルズルと音を立てればうまい蕎麦

尼崎市 藤 田 雪 菜

富士山に会うと心が爽やかに
遠い日の川原で遊ぶ鬼蜻蛉
玄関の掃除をすると祖父思う
姉妹と旅の約束元氣出る
春秋は背筋伸ばして家事進む

尼崎市 山田 厚江

ピカピカの茄子マールになる猛暑

娘でも言いたい事は飲み込んで

アジサイがライトアップで浮遊する

関西弁聞けぬ所で落ち付かず

ゲルニカからまた叫び声が聞こえてる

加西市 山端 なつみ

参政権十八歳よ使ったか

日本の安全神話崩れた日

参院選勝利の薔薇は涙色

夕べには明日咲く苔もう準備

猛暑には冷し甘酒飲んで克つ

川西市 山口 不動

女学生銀輪飛ばし夏を切る

立ち位置はその他大勢気楽だね

お待たせとゆうゆうと来て歩き出す

コロナにも熱中症にも弱い歳

美女が来るすれ違うまで背を伸ばす

三田市 足立 つな子

きれいさっぱり忘れられない胸のちり

病み上り張り切りすぎてダウンする

あきさせぬ女の見せ場多種多様

事故るよりゆらりゆらりとマイペース

これしきのこと諦めはがゆいね

三田市 稲角 優子

石庭に美学が光る竜安寺

水無月の雨むらさきの色を抱く

希望とはこんな色かな柿若葉

盛り塩は母の祈りか明日は発つ

敬虔に国境はないピエタ像

三田市 上田 ひとみ

肩書きは三男一女母である

あなたにも私にもある出来ること

毎日はドラマなんかじゃありません

良かったねおいしく食べて笑い合う

シンプルに風に委ねている未来

三田市 大西 重男

衣替えしたよついでに断捨離も

指先の指紋磨り減りめくれない

ベッドより畳の上がよく寝れる

隠れて吸う麻薬じゃないよタバコです

身長が縮みその分腹が出る

三田市 尾崎 一子

動乱の世相ところが病んでいる

懸命に生きた命の手術台

まだ行きたいところの叫び祈り

自分の手で我が家ノックするよろこび

日本に衝撃安倍氏に銃弾

三田市 九村 義徳

折れそうな高い気位高い鼻
還暦は自分探しの始発駅
信じてるだから一緒にいる一途
一步引き狭い世間を広く見る
何気なくそっと寄り添う影がある

三田市 住吉 美和子

千羽鶴友を運んで天国へ
落し物やさしい人に拾われた
その笑顔どんなおほめの言葉より
この暑さ外で働く人折る
お騒がせな安倍さんの死もまたショック

三田市 多田 雅尚

熱中症かコロナで迷いマスクかけ
経費までCF募る法隆寺
減量と値上げ続けば買い控え
蟬よりも姦しいのは選挙カー
長生きはしたくないよとサブリ漬け

三田市 中山 昭美

電気代こわい猛暑の置きみやげ
紫陽花に逢いに行く日は雨でよし
ワクチンもこれで最後か四回目
本物の海で遊べた夏休み
自撮りではいつも口角上がつてる

三田市 野口 真桜子

ごちゃごちゃと尾鰭背鰭が付く神話
追い風に乗って忘れたセレナーデ
モザイクがついて本気になった愛
食べ放題牛の国籍問いません
ここからは神の領域お静かに

三田市 堀 正和

世代間交流の邪魔デジタル化
冷房がよく効いている昼のバス
じっくりとメニユー見てからザルソバと
年金の顔が揃って昼の風呂
寝酒だとナイトアーあてに吞んでいる

三田市 村田 博

猛暑日に爛酒を呑む天の邪鬼
帰宅して先ず靴下を脱ぐ至福
カタカナ語多い男は信じない
使えない五百円玉貯めている
迷彩色と玉虫色の隠れん坊

高砂市 松尾 柳右子

一日の感謝夕焼け神々し
短冊を3枚使う願いごと
欄干の朱塗りへ鳩の糞続く
コロナには負けぬカラオケ健康法
つらい日も早起き体操ボケ防止

宝塚市 丸山 孔一

「お若い」と言われ老けたなと悟る
ベランダで飛行機見上げ日向ぼこ
何しても時間がかかる昨日今日
きつとやる明日になればきつとやる
つぶやけば翼が欲しい歌になる

丹波篠山市 酒井 健二

人の世は恐いがおもしろい事もある
悲しいね少しのカネに縛られる
掛け流し神の振る舞い受けている
リセットが出来ない人が多すぎる
身の恥を話しこの場を盛り上げる

丹波篠山市 長谷川 善輔

夏の猫見ているだけで暑さ増し
昔はねうちわ一つで耐えた夏
砲弾に追われる人もいる世界
暑いのは生きてる証拠と居直って
友にTEL今朝も聞いたと返される

西宮市 緒方 美津子

銃の事件七月号の緑泣く
ありがたや春夏秋冬清い水
清い心あって素直に出る涙
羊かんの端とゆつくり日向ぼこ
髭剃って気合いを入れていざ国会

西宮市 亀岡 哲子

ご両親に感謝なさいと言う歯科医
肉鰻鮓食べよと言う主治医
日に一度嫁が来るからこざっぱり
とりあえず元気な振りで夏越える
くちなしの白く香ってごみ出し場

西宮市 西口 いわゑ

温もりをくれた一羽の紙の鶴
七夕へ思いを込めたのは昔
打出の小槌今こそ欲しいウクライナ
ウインドーの赤いヒールが笑みかける
ぼっかりの雲よ只今思考ゼロ

西宮市 福島 弘子

生き様を教えてくれた大往生
反抗期選挙は行くと驚かせ
鎖骨折り上げ膳据え膳有難う
ミニマト支柱はるかにプラントー
スイッチはリモン頼み薬を決め

西宮市 福田 正彦

墓参り無理をするなと石が言う
夏木立空蟬か聞く蟬しぐれ
臆病の脱却術は逃げぬこと
蹴られても蹴られても今がある
救急車乗心地での覚え無い

南あわじ市 萩原 狸月

雑踏を抜けてマスクを外す帰路

シャッターの開く音久しコロナ明け

地球の狭さ家計簿に飛ぶ戦火

タニマチが人を殺せと武器援助

わたし幸せらしい友が言うから

岡山県 高岡 茂子

音楽家目指した母の子は音痴

下戸の息子は飲兵衛孫の親である

遺伝子に物申したい日々くらす

面会させぬ病院からの骨を抱く

90までは後四年急がねば

岡山県 田中 恵

楽しみがたまにあるからほっとする

蛙の子に蛙のシートが高すぎる

遠い日の夢がまどろむ合歓の花

成り行きをじつと見守る母の猫

前向きに生きる八十路の膝小僧

岡山県 藤澤 照代

マンネリの暮らしヘレモンひと絞り

派手な傘さして華やぐ雨の午後

コマネズミみたいに動く梅雨晴れ間

濃淡が確と生きてる遺墨展

平和願いされど暮らしは日々戦

岡山市 大石 洋子

目覚しが律儀に鳴って目を覚ます

グーチョキパー朝の強張り解きほぐす

すつくと立つ向日葵におはようおはよう

立葵天へ天へと花開く

空爆の火柱に見ゆ大夕焼け

岡山市 工藤 千代子

指先に風が生まれる幕掃除

灰汁抜きをします姉と長電話

叫んでいるようにヒマワリが咲いている

そういえばハエをしばらく見えていない

ストレスが取れて大きな声になる

岡山市 丹下 凱夫

マスクした顔にぞっこん惚れました

断捨離も出来ずますます強欲に

一大事には違いない酒がない

玉葱が欲しかったのに茄子くれる

命日を忘れたのかと鴉鳴く

岡山市 永見 心咲

直撃の怖さ放物線のまよい

唐突に闇を歩いてしまうなり

母だってもろいその子はなお脆い

ああいつか君が悔いたら肩を抱く

七月の異変報じる供養花

岡山市 前田 恵美子

散歩道弾みをつけて遠回り
五十年手にした宝「家族達」
トマト食べ水分補給する畑
猫のクロ自由気儘に生きなさい
平成の世に帰りたい昭和人

広島市 岸 本 清

ラニーニヤかエルニーニョかで変わる夏
好物のサシミを避けるアニサキス
トウキビを食べるハモニカ吹くように
老友に杖を持つ人また一人
口先の元氣足先にもほしい

三原市 鴨 田 昭 紀

チャン付けで呼ばれ親愛に触れる
べんちゃらやお世辞は映さない鏡
幸せを独り占めするひとりっ子
見栄えよく羽根を広げる自尊心
大丈夫ですと他人の無責任

三原市 笹 重 耕 三

太陽の恵みでしようか玉の汗
向き不向きあって人間でいいさ
百均に肉も野菜も欲しい主婦
土砂降りの値上げに出ない避難指示
コロナ禍と戦で衰える地球

岩国市 上 村 夢 香

長谷の径紫陽花の波ゆらゆらと
早朝の空気に触れて聴く法話
清方をたずねたずねて鎌倉へ
北斎の滝の切手は暑氣払い
キティちゃんのこだまで帰る山の里

防府市 坂 本 加 代

不戦の誓い防衛力は怠らず
微動だにせず酷暑の昼下がりが
もがきつつ終わりの見えぬ道を行く
何回も測って決める血圧値
あきらめが早くストレス溜まらない

鳥取県 門 村 幸 子

呼ぶ声に弾む返事で返す朝
古い忘れ豊かな時間ページ繰る
断捨離の記憶うやむや服探す
独り酒ホロリ演歌がなじむ夜
大らかに生きて病を遠ざける

鳥取県 斉 尾 くにこ

海側の窓辺に夏の避難場所
きれぎれに言葉のある絵かいてます
一歩出れば黄みどり深みどり
朝顔とアガパンサスと雨を待つ
新じゃがのコロツケ八個今日は完

鳥取県 竹 信 照 彦

早朝に除草作業で畑守る
雑草が目にも毒屈み草むしる
広々と碁会所のどか風涼し
畑ではトマトピーマン茄子踊る
円安に日銀総裁大丈夫

鳥取県 細 田 裕 花

猛暑日はだらだらごろり気が弛む
細胞がしっかり見える自家野菜
締切りへ切れ味冴えぬペンネーム
淡淡と過ぐす日々にもゴミ溜まる
働き蜂クルーズ船にあこがれる

鳥取県 本 庄 ひろし

乞うご期待田舎芝居の名セリフ
新顧客ナビを頼りに探し当て
横やりを入れた割には知らぬ顔
猛暑での特効薬は生ビール
追ヒレ付き内緒の話よく漏れる

鳥取県 山 下 節 子

出世など考えた事ない自営
新人賞先ずは出世の足がかり
何故かしらよろこびの後涙出る
梅雨空にあじさい達の自己主張
ぶらぶらが性に合わない私です

鳥取市 池 澤 大 鯨

下戸なので気持ちいい酔い知りません
そもそも私の居場所ここじゃない
お人好し自分のせいと諦める
ネクタイが曲がついていても気にならぬ
核のスイッチプーチンが押すかもよ

鳥取市 奥 田 由 美

兄妹の記憶が違う母の癖
一強の議員を守る地元愛
カタログが錯覚させるスリム服
またねって笑顔が続く亡友の夢
坂道のテッペンにある村ポスト

鳥取市 加 藤 茶 人

あれあれで思い出すのに暇がいり
出世から見える物などたかが知れ
ああすればこれを忘れた二度の時間
次の次読んで酔わせる甘い水
三日前筋肉痛はああこれだ

鳥取市 岸 本 宏 章

県境で微妙に違う国なまり
おしゃべりにかけ放題のスマホ買う
家業継ぎ地域支えるのも出世
発言の撤回私ならしない
近海にロシア軍艦いて不気味

鳥取市 岸 本 孝 子

仏壇のお下がり待っているメロン
自家製をみんな喜ぶ梅らつきよ
早寝早起き体内時計狂わない
バラ色の老後の夢もあせてきた
しみ皺は消えることない隠すだけ

鳥取市 倉 益 一 瑤

寂しくてあのねアノネを繰り返す
艶話入れて自分史盛り上げる
行くとこもなく町内ふた回り
土踏まず地球の叫び声を聞く
思い出のベンチに鱗二三枚

鳥取市 田 賀 八 千 代

今想えばドラマのような恋でした
戻れたら蛹になって出会いたい
あの頃を語れば光り出す瞳
褒められて頑張っている蟻の列
孫増える度に漲る底力

鳥取市 棚 田 大

池の鯉こいのぼり見て跳ね上がる
出世せよそう言う方の声弱い
猛暑日に厳寒の冬浮かべてる
あちこちの棚田おいらに活入れる
おかしいぞよろこぶ奴の声弱い

鳥取市 谷 口 回 春 子

今日もまた暑いですねと合言葉
ジャングルの様な木になるミニトマト
夕焼け小焼けBGMで孫家路
ウォーキング今日は東に明日は西
散髪をしても心は晴れません

鳥取市 中 村 金 祥

連日の猛暑にめげず句を捻る
表情が見えぬ對話が囁み合わず
二人三脚重ね生きてる老夫婦
汗だくになれば人間強くなる
トンネルの出口に見えた花畑

鳥取市 永 原 昌 鼓

東大出出世頭と人は言う
大谷の勝利届いて国が湧く
戦争の好きな族がいて困る
いいニュース届けと耳の掃除する
ふる里に錦を飾るすべもない

鳥取市 山 下 凱 柳

暗いニュース続く社会にうんざりだ
世界平和心待ちする千羽鶴
優等生だった卵価も上がりだし
止めどなく過疎化の進む我が郷里
今日の日を妻の支えで生かされる

鳥取市 吉田 孔美子

尖ってるだの丸いだの山は山です

サア早く尖ってるのは十秒よ

遥かなり孫もサブリもおんなじだ

腰揚げをしようと姑は癌を病む

歩くのも修行だったの五十分

鳥取市 吉田 弘子

私の定命神よ知らないか

囲まれて孫が合わせる周波数

腹みせて好きと言ってる犬や猫

頭下げ小走りの横断歩道

選挙区で落ちても待ってる比例区

倉吉市 大羽 雄大

埋め合せながら二人で一人前

弟が追い抜いてゆく背の丈

嬉しいと悔しいとまた飲んでいる

腰に手を当て一杯の朝の水

輪くぐりさん何度も潜り厄払う

境港市 藤原 久直

長い旅ダイヤ婚まであと二年

妻は留守ビール枝豆カップ麺

お悔やみ欄気になる歳になってきた

歳重ね心も顔も穏やかに

しゃべりが苦手でも川柳は詠める

米子市 池田 美穂

スーパーマジックチラシ税抜きだ

戦いは水鉄砲にしませんか

真夏日はそうめん以外浮かばない

「よし」と「さあ」かけ声ばかり草むしり

草むしり日影を追って移動する

米子市 伊塚 美枝子

日本一暑いとニュース聞きダウン

神様の木陰の下でひと休み

我が家にも氷室が欲しいこの時節

初収穫ドキドキ西瓜切ってみる

アベノマスク今では宝出してみる

米子市 後藤 宏之

うきうきを我慢しながら料理待つ

両方は無理だやさしさたくましさ

枝ぶりにだまされ本物をにがす

がつがつとせず暦に休みやる

忙しい暦身体が泣き出した

米子市 後藤 美恵子

温暖化季の掛け軸に誤差生じ

やっと向く法の日ヤングケアラーに

主婦の腕日時の炊事は目分量

夫の墓前ほつと鎧を脱ぎ捨てる

三途の川渡る舟賃貯まらない

米子市 竹村 紀の治

湿布貼るときは悲しいひとり者
黙食の張り紙睨み蕎麦すする
コンビニは夜の灯台ホツとする
点したら消すに消せない原子の火
入選のコメント用意しています

米子市 中原 章子

アナログが消える寂しさ増すばかり
水不足なくて嬉しい朝がくる
家事済ませ午後の気楽なあのしみが
これからの事は分からぬ今生きる
明日に向く足をしっかりと踏みしめる

米子市 野川 宣子

日本国コロナ0の日いつ来るの
白髪染めしても老いまで隠せない
居眠りの出来る椅子席密ですよ
重鎮の椅子もいよいよ代替わり
汗かいて動ける今に感謝です

松江市 松本 知恵子

採りながらつまむさわやかミニトマト
スイッチオン夏になったらもどり梅雨
早起きのにいにい蝉と夏になる
キナ臭い夏で嫌です令和四年
雨よ降れ降れダム貯水率高くなれ

出雲市 伊藤 玲峰

暑氣中りラジオ歌謡に蘇る
坂道は杖のかわりの君の腕
美術館心のおしゃれ若がえる
もう少しこの世で遊び土産嘶
婆の元氣は文字遊び楽しいね

出雲市 岸 桂子

日めくりの一枚ごとにいくさ
急がねば地球が冷えた石になる
どの道も約束ばかり多すぎる
月見草虫にロマンの宿を貸す
海鳴りを遠く近くに聞く句会

阿南市 小畑 定弘

朝が来た一人芝居のト書きよむ
先生と他人行儀でボクを呼ぶ
恋の句に恥ずかしそうなペンネーム
八日目の蝉が辞世の句をひねる
喜寿ですが咲かせてみたい恋の花

東かがわ市 川崎 ひかり

うっかりを笑いの種に輪が和む
寝た切りへ風鈴吊す梅雨の明け
廊下にも子供溢れていた昭和
健康のご褒美ウナギ半匹買う
レジ袋有料プラゴミ減ったのか

赤い点つなぐと罪の形です

松山市 大内 せつ子

いい勝負だったと飼犬が笑う

ネモフィラのむらさき遠い日のあの子

ホチキスで留めるくらいね君の乱

笑っているね尻尾の揺れがとまらない

松山市 栗田 忠士

草いきれの中に可憐な葛の花

線香花火みんなサンダル履きだった

いける口だが一合と決めている

父の日に子から届いたサクランボ

肩の荷というストレスで生きている

松山市 古手川 光

殺し合うヒト科を喰うシーラカンス

気温までも上がり下がったのは気力

猛暑の次攻めてくるのは台風か

次は誰ぼっかり穴があく名簿

大国もいろいろ何処か揺れている

松山市 宮尾 みのり

CMはスルー録画で観るテレビ

元々が美人サブリの効で無し

留守電の確かな人とだけ話す

いい人にされると困る自我を持ち

パステルカラーにしてはあちゃんの恋話

紫陽花のお色直しは雨の中

西予市 黒田 茂代

窓開けてくちなしの香へ深呼吸

巣づくりの燕に贈る応援歌

コロナ禍にも空には小鳥 庭に花

ショートカット耳の裏まで日焼け止め

土佐清水市 辻内 次根

起きようか眠るかさてと午前二時

澄み切った朝にくしゃみが止まらない

何処からも音の聞こえぬ午後の二時

体調は何時もお腹が空いている

踏み場ない部屋で下五を練り直す

唐津市 山口 高明

靖国の砂利は軍靴の音がする

清張の長編一気秋夜長

喪の女に黒衣似合うと言えもせず

天成のお人好しです御曹司

天からの授かりものが手に負えず

熊本市 杉野 羅天

晩節に無上の至福あるを知る

桔梗揺れる五弁花揺らす細い首

新型コロナ老人淘汰する如し

丸椅子の温もり欲しく手離せず

プーチンの理屈四島は還さず

北九州市 小松紀子

少しずつ荷を軽くする八十路

欠点もシワも受け入れ鏡ふく

健康不安大丈夫呪文かけ

老いるとはあそこが痛いここ痛い

平凡な日々ありがたいことです

(前月分) 高知県 小澤幸泉

あの山の向う故里戻れない

イースター亡父母兄妹にまた会える

泣きながらふるさと遠い夏の山

天国へつづく山脈五月晴れ

自分史をつづる時々止まるベン

(前月分) 松山市 古手川光

夏ばてへ元氣を出せと蟬しぐれ

ピンシャンコロリ蟬に肖りたいその日

性善説が通用しない恐い世に

「知床旅情」しみじみ聴いている夜更け

遠からず片道切符の旅に出る

(前月分) 米子市 後藤美恵子

何の為誰が為にする戦争か

失敗は忘れず暮らす糧にする

雑草が過保護な花を攻めまくる

忍耐力母に一目置いている

コロナ恨むじつくり余生楽しみぬ

(前月分) 鳥取県 竹信照彦

遅くなるとコンビニ弁当買ってくる

苗植えて最初に食えるのは胡瓜

ゴーヤの蔓どんどん伸びて実は遅い

茄子ピーマン秋まで採れる夏野菜

苗物は娘が農家貰っちゃう

(前月分) 倉吉市 牧野芳光

このままで良いか花占い続く

ケチャップにお日様が閉じ込めてある

腰痛に耐えてクラブを振っている

諦めた方がいいよと鳥が鳴く

黒と白国境線が熱くなる

第3回 太宰府天満宮秋の川柳まつり
第22回 福岡県ねりんスポーツ・文化祭 川柳交流大会

日時 令和4年11月13日(日) 9時30分開場
会場 太宰府天満宮 余香殿 12時30分開会
会費 1500円(発表誌呈)

課題と選者(各題2句) 11時30分投句締切
「キヤッチ」 真島久美子 選
「点」 黒川 孤遊 選
「揃う」 木本 朱夏 選
「さばさば」 間瀬田紋章 選
「癖」 大西 泰世 選
「うん」 梅崎 流青 選
「包む」 森中恵美子 選
(天満宮特別課題)
「知恵」 古谷龍太郎 選

【欠席投句】
用紙 4cm×21cm
(16枚・無記名・右上に課題明記)
締切 令和4年11月3日
投句料 1000円
投句先 〒812-0041 福岡市博多区吉塚2-18-20
(問い合わせ) TEL 092-611-2942

※ご希望の方のみ終了後懇親会を予定しています。
会場 余香殿 15時45分～ 会費 2000円
主催 太宰府天満宮
福岡県ねりんスポーツ・文化祭実行委員会
主 管 福岡県川柳協会
後 援 全日本川柳協会・西日本新聞社

水府に戻り 路郎に帰ろう

木津川 計

大阪は東京よりはるかに川柳の盛んな都市である。ひとえに「番傘」の岸本水府、「川柳雑誌」の麻生路郎（没後に「川柳塔」に改題）、この二人の尽力、奮戦に負っている。

「番傘」は大正二年、「川柳雑誌」は同一三年に水府、路郎の手で創刊された。以来、水府は川柳の文芸性を高めんと、「人間諷詠詩」としての川柳を生涯唱えた。

路郎は「命ある句を創れ」「一句を遺せ」と終生説き、川柳の社会的評価の向上に奮戦したのである。

過般、大阪で「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇〇号記念大会」が五〇〇人の参加をみて盛大に開かれた。席上、機会を与えられ、「路郎と薫風―牽引者の火と継承者の灯」と題していくらかを話した。

路郎は有能な門人を多く育てた。中でも橘高薫風は句柄の高い句で師の衣鉢をよく継いだのである。

かつて大阪の作家・藤沢桓夫が「水府

には柔道の柔らかさがあるが、路郎には剣道のきびしさがある」と評して的確だった。その伝で言うなら、薫風には朝青龍以前の相撲の品格があった。

路郎の遺した一句を挙げるとするなら、次の句であろう。

二階を降りてどこへ行く身ぞ

何気ない起居を人生の命運と結びつける視座は只事ではない。実際、私たちは毎日二階やエレベーターを降り、不安や混迷や難しい世を迷いながら懸命に生きているのである。

路郎門下の逸材だった薫風も命ある次の一句を遺した。

人の世や 嗚呼に始まる広辞苑

人生とは何かを言い尽くして間然するところがない。しかも句柄の高さである。

いうならば麻生路郎は「川柳雑誌」のエクステリア（外観）とインテリア（内装）に生涯を費やし、橘高薫風は川柳という建物のメインテナンスとクオリティー・オブ・ライフ、即ち川柳の質に腐心したのである。

近代川柳から今日までおよそ一〇〇年、同じ五七五の詩型ながら俳句に比べ、川柳の社会的評価は低い。二年前、二五〇〇人を擁する日本文藝家協会に川

柳家は一人もいなかったのである。

田辺聖子さんは憤懣やるかたなく、水府の生涯を書いた大著『道頓堀の雨に別れて以来なり』のあとがきでこう嘆かねばならなかった。

「現代ほど（川柳）が誤解され、貶められているときはない。（中略）柳誌は多く、川柳人口も多いのに、川柳の社会的、文学的権威はいっこう高まらない」と。

なぜ「誤解され、貶められ」るのか。田辺さんはこう指摘する。

「彼ら（水府や路郎ら）の守ったのは（中略）昨今、ちまたに氾濫する頓智教室のような、語呂合せのような、狂句のような、幕末衰微期の下ネタ風バレ句の如き川柳ではなかった」

言い尽くされている。なぜ、文芸としての川柳観が定着しないのか。多くの公募川柳が安上がりな川柳を利用して功利を得ようとしているからである。

他方、功利的風潮に迎合する川柳界の志の低さもある。一〇〇年を経て「いまだ、水府に戻り、路郎に帰ろう」と私は呼びかけて拙話を結んだ。

『上方芸能』No.178 平成22年12月10日発行

（都合により川柳塔の川柳讃歌は休載）

自選集

小島 蘭 幸

あつけらかんと初めての通信簿
水分補給しながら少年野球観る
うな重は食べたしサブリ飲んでるし
令和四年マスクが好きになつてきた
シーソーは妻と水平線遙か

竹 治 ちかし

今日も又スマホに左右され暮らす
免許返納最近見えぬ柳友の顔
天下取る相と言われて只の人
縁あつて同じ空気の下に居る
満月に性善説を論される

津 守 柳 伸

先輩に習う6B買い足して
朝顔は準備待てずに蔓伸ばす
毎日の血圧体重脳に活
えらいこと跡継ぎできた締め括り
窓開けて入るリッチに露天風呂

西 出 楓 楽

電池切れしてきたらしいわが五体
存在は化石物言えば老害
骨折れぬよう気をつけてするくしやみ
ジェンダーレスくんは廃止になるような
朝食時戦のニュースやめて欲し

仁 部 四 郎

毎月の没句供養に2合ビン
缶ビール納骨堂で見本市
晩酌のタネをテレビに拾つてる
マルクスもスミスもお酒飲んだはず
晩酌を杖に卒寿の丘に立つ

平 田 実 男

素顔でも美人やっぱり美しい
亡父母に逢いたい時は目をつむる
嬉しくて流す涙は暖かい
お隣もそのお隣も老い二人
褒め言葉杖に柱にして卒寿

福 士 慕 情

無い袖は振れぬが趣味に甘い金
金になる仕事探してたぞがれる
黄昏の空にも光る星がある
星一つ数え荒野へ子を放つ
放された弓矢は元へ戻らない

藤村 亜成

よもやまさかも悪い予感よう当たる
はしくれの癌でも一応覚悟する
アバウトでよいと医者に聴く余命
まだ絞り足りぬ洗濯した命
洗い直して乾かせば出直せる

松本文子

いろいろあつて帰りにたくない時もある
ニユース見ればのんびりと茶も飲めず
辛い世の中夕日が微笑んでくれた
煩しいから一人で飲んでいるビール
遺言のように書いている日記

三浦 強一

義父母には仕え父母には年一度
ふる里の道熊の道鹿の道
薬にもならぬ失敗繰り返す
卒寿ですそりや色々とありました
鉛筆もハッピーエンド書きたがり

三宅 保州

宇宙から見れば地球という小石
戦争は棒切れだけでしませんか
名刺まで角張っている初対面
スーパリーの野菜は土の香がしない
決行か中止か空をにらみつけ

村上 玄也

制裁の返り血浴びている日本
巢ごもりが続く句想が広がらず
動くのが億劫考えることも
弱っていく自分を自覚し始める
節電と熱中症の挟み撃ち

森山 盛桜

月はもう性善説の貌じゃない
俗物が混じって落ちぬ油漉し
さんざめく銚山ガールの熱気
ここまで来たのに魚道が見当たらぬ
善人が叫ぶ防音壁の中

八木 千代

ほろほろと萩 秋風を出迎える
ひっそりといつでも塀の内側に
「待ってくれたか」「生きてくれたか」風は言う
お昼寝の萩あどけない いじらしい
姉たちも通って去った萩の道

山本 希久子

たなごころに載せる夫もウィルスも
欲捨てた心身風が吹き抜ける
生きた欲味の追求怠らぬ
僅かな未来へ靴前向きに揃えとく
ワクチン注射にも慣れました四回目

居谷 真理子

大好きな笑顔が黒枠の中に

手を伸べてくれたら出来るひとまたぎ

太陽も泣くことあつて日向雨

虹は七色黒白は胸の内

追いかける追いかける自分の尻尾

川上 大輪

目玉焼き今日は私が睨まれる

深呼吸しに古里へ帰ろうか

笑うしかないか話が噛み合わぬ

ぬらりひょんそんな暮らしもいいかもね

40度ハイビスカスも燃えている

北野 哲男

川柳も余白で思い語らせる

茅屋根が残るあたりがあたたかい

パンザイを二唱のままで卒寿越す

マドンナもよいしよの掛け声出る句会

歳ごとに坂一度ずつ急になる

木本 朱夏

コロナ禍の象よしつかり食べてるか

ボス猿の背に黄昏を視てしまう

雑種とは言えど由緒のありそうな

時々抱かせてやると猫が来る

仰け反って風をつかんでいる骸

新家 完司

ゴキブリも二センチまではかわいいね

餓鬼大将だったヤンチャが認知症

迷宮の襷の臭いの臍の胡麻

疲れたらサウナで鼻を膨らます

グリーン車に乗ろうもうすぐ終着だ

高瀬 霜石

悪友もぼくもそれぞれ規格外

もうこれが最後だろうなフルコース

バスに乗るもうそれだけで旅気分

商店街はもはや商店街じゃない

苦労話を肴に酒は終わらない

「川雑」語録 ②

川柳の畑

林田馬行 はやし だ ば こう

短篇小説を一句にしたやうな川柳を生まんとして

私は苦しむ、そしてそれが徒労に終る事が多い、

斯うした時私を励まし、私を慰むるものは、

太平洋に面して僕は莫迦でした 路郎

の句である。

（「川柳雑誌」大正14年3月）

森の句集



『川柳雑誌・川柳塔』

創刊90周年記念句集』

内^{うち}海^み幸^{こう}生^{せい}

忠実な鏡にすこしも罪は無い
穏やかに今日も暮れたり幸せか
遠花火 株が暴落したそうなの
何も彼もうまくいったら憎まれる
一遍は怒鳴って妻の言う通り
両掌からそれぞれ今がこぼれるよ
一枚のハガキに貰う走馬灯
吞めぬなら死んだがましと言った筈
足踏みをして遮断機自若たり
神具買ひ値切る人がありますか
浮雲を眺めて飽きず考えず
昔むかし空気はタダで吸えました
額縁がすこし歪んでいる安堵
何のため生きているのと聞かれても
仏教のところに遠く陽が沈む

(平成26年7月1日発行、川柳塔社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

潤色をしても自分史貧しすぎ
モンローと同じ口紅つけたとて
落ち椿失うものは何もなし
未知の国ここは躍るパスポート
赤トンボ少年の日は暮れやすし
無印が怖くてバツジつけている
植木屋は無口で植木よく売れる
保育所に入った孫のよい返事
寄せ書きに存在感のある癖字
鯨追う男のロマン消えた海
遠泳の海 少年の日のロマン
沖へ沖へ沖へと泳ぐ少年の海
鉄棒を忘れた鬼もいる平和
裸婦よりも肌あらわなり夏衣
信念は曲げない父のモンブラン
前列に笑わぬ客がいて困る
時流には乗るつもりない蝸牛

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

弱きわればかり出てくる 夢の中
一人去り一人去る 聖堂にして

子の頭虱のごとし 可愛ゆし 黒し

われに過ぎたり 絢爛と死ねる歳

鼻先をつんつん歩く好きな人

富士見えていよいよ華麗 食堂車

草の芽が出たぞ おしっこさせながら

子を抱けば必ず花と向い合い

大国主命の国の春の雲

嘘をつく人間ばかり しゃれこうべ

子と握手 今日春立つ日なりけり

消防車 火よりも赤く銅ぶるい

犬吠埼 二句

波のしぶき逃れて小雨降っている

灯台は灯の入る瞬時差らいぬ
おしゃれな子のでるてる坊主までおしゃれ

水郷 五句

水郷の微風から雨に移る候

水郷の鯉のぼりこそ泣かまほし

柳 ポプラ 柳 ポプラ 水郷よ

水郷の胸の高さに続く水

音のみの世界またよし 水の上

山川阿茶さんへ

古稀清しや 一輪挿しのたたずまい

緑衣脱ぎ捨ててもみどりなるは女

天国に節穴一つ 豆秋忌

蚊帳の隅は故郷よりも晦く遠し

路郎忌に炸裂したるカンナの朱

蓮の花は一茎一花 恩師の忌

路郎忌や むかし僧俊寛の霊

路郎忌のビールの泡はあふれしめ

路郎忌に言葉を飾る人ばかり

鐘の音 ささらに身のかきどころなし

英語 de Senryu ⑫

麻生霞乃 『福寿草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

ちよぼちよぼちよぼちよぼちよぼと咲く女郎花

dot, dot, dot,

dot and dot

Ominaeshi flower blooming

揚花火散った姿の曼珠沙華

rising fire display

looks like a figure of

scattered Manjushage

dot 点 *bloom* 咲く *rising* 揚がる *fire display* 花火 (空に上がる花火、ちなみに 線香花火など庭先などでする花火は *sparkling firework* という)

looks like ~ のように見える *figure* 姿 形 *scattered* 散った 散らばった

～リバーウィローのため息～ ㊟ 海の彼方の詩人デミタール・アナキエフと
連作 (RENSAKU)

海の彼方で俳句に興味を持つ詩人の多くは、連歌、連句、俳文にも関心を向けます。日本の短詩の伝統である 5-7-5、7-7 長短二種の組み合わせや繋がり方が、共同制作を生み出します。そしてそれらの作品の予想を超える出会いや、独立しつつも共鳴し合う繋がりを楽しみます。私自身、数多くの連句や連詩を、また学生向けのネットレス連句なども制作しました。スロベニアのハイク詩人、デミタール・アナキエフ (Demitar Anakiev) から連作 (RENKAKU) の誘いが舞い込みました。連作は日本の連句のようなルールはなく、語彙やイメージをつなげていきます。例として以下のような連作の一部を紹介します。

- 1 *On small knot/in a beech stump—/so many questions (Dimitar)*
樺の切り株に 小さな結び目 なんだろうこれは
- 2 *At the door/knotwork made by grandma/ talks to the moon (Ikuyo)*
玄関に祖母の作った結び目細工 お月様とお話
- 3 *There is no moon./Some statue sings to the fortress, sings to the river. (D)*
無月 彫像が砦に向かって 河に向かって歌う
- 4 *Young backpacker/walks along the stone wall/humming lullaby (I)*
バックパッカー石壁に添って歩く 子守歌をハミング



木 本 朱 夏 選

河内長野市 坂野 澄子

鉛筆の芯を失らす今日の意地

雨あがり空を翔びたい青蛙

青空に憂さという字を放り投げ

親不孝詫びる便りを書いて夏

耳朶が覚えていますあの台詞

一日を使い切ったら風が止み

貝塚市 吉道 あかね

蟬しぐれ二年目越えて来たいのち

しつかりと生きているかと傷に問う

大丈夫ハグしてくれた人がいる

ジョークですへっちゃらですと胸の傷

長所にも短所にもなるきれいい好き

今 今 今 幸せと知る現在地

神戸市 城戸 誓子

褪せてゆく花に感謝の散歩道

雨の日も楽しむ傘はポップ柄

ああ無情烏啞える生きた蟬

おじさん化仰向けで掻くカンガルー

渡り鳥練習無しのマスゲーム

タマよりも綺麗に食べる魚好き

大阪市 大沢 のり子

口下手の父に冷や酒含ませる

くたびれた胃にばあちゃんの梅酒効く

スタミナの維持にんにくは丸焼きに

信号の赤も寝坊の妻のせい

美しい日本語出ない脳回路

カモミール飲んで女に戻ります

青森県 月波 与生

嘘つかず笑ってるのも退屈で

お手本をなぞって遺書を書いてみる

家族写真それは都合のいい記憶

父らしいところを分度器で測る

もう風になったか夜の墓参り

名を変えたと苦勞人からの手紙

大阪市 岡田恵子

公園のベンチに涙置いてきた
とりあえず夢の話は冷蔵庫

胸の奥に本音隠してよく喋る

幸せの欠片集めてモザイク画

もしかしてここらあたりがパラダイス

真夏日に負けるもんかとカンナの朱

大洲市 花岡順子

灰汁抜いて味も素っ気もなくなつた

右向けば済むと母さん生きてきた

さばさばと生きて笑顔絶やさない

坂道を歩け偏平足が言う

大会中止脳は休みにしています

衣装替えマネキンのオフ忙しい

尾道市 村上和子

白寿と二歳同じ目線でみる絵本

絵本めくれば幼の頃がよみがえる

転ぶたびやさしくなつてゆくころ

転んだらいけんよ老いの合言葉

また薬増えたと自慢老い仲間

ありがとうが増えて母が老いてゆく

神戸市 米田利恵子

戦争を知らぬ昨日までの私

ミサイルは似合わぬひまわりの畑

近未来の武器が集合したような

退屈な日は幸せと言ひ聞かず

毎日のルーティン冷房と換気

カレーライスカレーうどんと家ごもり

生駒市 饗庭風鈴

旅が好き木もわたくしも紙風船

地図スマホなくし原始の夜がくる

魂を運ぶ小舟が島に着く

紙風船落ちてはまたも舞い上がる

嗤われて笑い返せばボクの勝ち

苦み走つたいい男ただの不機嫌

岐阜県 喜多村正儀

生ゴミが語るひと日の息遣い

巣立つ子を送つて高い鯉のぼり

思ひ出に嘯まれて上げている悲鳴

逆転の一打は運か実力か

許そうか慌てて縫ったあとがある

そのままでいい屋久杉の佇まい

尾道市 小川道子

のほり坂くだり坂にもある御縁

八十路にもあると信じる未来地図

逆境を力に変えてきた旅路

ゆつくりと明日へ繋げる策を練る

積み重ね努力次第という褒美

ポケットの小さな夢が相棒だ

神戸市 田 本 古 鈴

七月の青空の下戦火あり
まあだだよ死神サマとかくれんぼ
意気地無し夢がつぶれたことくらい
どちらかと問えば負け組 でも生きよ
幸せはふっと気づいたその日から
夕べ見た夢のアリスは私です

神戸市 山 根 弘 華

元氣かとやさしい文字の子の便り
正座して心清める法話きく
清らかに咲いた白百合こぼれ種
老いの身にムチ打ちながら生き上手
プラス思考明日あしたの風にのる
梅雨あけて今日の私は七変化

和歌山市 倉 橋 悦 子

駆足で去ってほしいと思う夏
八合目まだ咲かせたい花がある
来た道の過酷なまでの棒グラフ
持て余す居所悪い腹の虫
衣食住足りて元気でまだ何か
赤信号そんな気がする肩の凝り

松山市 郷 田 み や

こんな日はちょっとゴミ箱蹴ってみる
ゼリーの中に金魚一ぴき泳がせる
交替を知らされ振り出しに戻る

トッピング無くていいのかき水
慌ててもゴールの位置は変わらない
大ざっぱな人の隣でする昼寝

佐賀県 真 島 久美子

悪口を白熱させるトンカツ屋
わたくしの中に小さな滝がある
真つ白い壁と慰め合っている
アタシって少し捻れているみたい
ただの虹なのに意味付け定義付け
波音を散らかしているだけの部屋

米子市 川 本 美津子

独身のアルバムを見て若返る
計画を立てても体反抗期
初泳ぎ孫の誕生こいのほり
母の日に孫からもらう感謝状
巣作りの鳥を見習う夫婦仲
散歩道夕やけ空を道連れに

鳥取市 吾 郷 天 遊

生きてきた回り舞台の明と暗
無駄遣いするなと天の声がする
声までもおしゃれしている初対面
吉備団子食べたらずもいなくなる
夕焼け小焼け亡母を小さく呼んでみる
雨季乾季あって自分史まだ未完

神戸市 槇田次郎

芦屋市 荒牧孝子

母さんが居る場所そこが僕の家
風満ちて捨てた野心が蘇る
神宿る細部こだわるプロの技
銀河系よく似た二人口喧嘩
平凡に耐えきれないでついた嘘

神戸市 みぎわはな

生涯を本音で通し素っぴんで
書くほどの肩書も無し名刺無し
脇道を歩くたのしさ草の花
生き下手にそれなり波長合う友と
息してる限り指折る五七五

神戸市 村松久江

後戻り出来ない言葉つい口に
静いの真ん中に居て石になる
雨上がり心の内も天日干し
マジックのように消え行くあれやこれ
あやふやなラジオ体操しています

明石市 瀬島流れ星

ど忘れの漢字訊けずにそつと辞書
頭脳線ないが川柳線ならおます
老残へ時の刻みは二倍速
嘘つきの舌がころころ銭稼ぐ
指鉄砲撃たれ演技をする浪速

日々値上げストレス買いで憂さ晴らす
隣人の御機嫌わかるピアノの音
家ごもり飽きたがどこへ飛び立とう
伸びたかな川柳学び頭脳線
母の余命知った日は街ただ歩く

尼崎市 宗和夫

毎日休日気持ちまで錆つく
棚も無ければ無いで生きづらい
杭ひとつ緩い流れに立ててみる
コロナ禍のせいだと家に閉じ籠もる
元総理撃たれ忘れた歯の予約

尼崎市 八木幸彦

マスクする忍耐マスク取る勇氣
しくじった後もころころは南向き
二度寝して心の憂さが晴れました
帰途の駅「ビッグイシュー」に止まる足
プーチンが抜いた刀の鞘探す

尼崎市 山本百合

僧の声朗朗亡母を抱いて座す
仏前に食べたかと聞く律義な子
父の日の父を知らない子の惑い
遠のいた墓参コロナに謝らせ
独り言天につながる会話らし

伊丹市 延寿庵 野鶴

ラベンダー香りがさそう途中下車

鳥獣戯画墨絵の中にあるドラマ

宇宙よりもっと知りたいヒトゲノム

四季愛でる豊かな国の息遣い

すり減った心を癒すみつをの詩

三田市 生田 えい子

喜寿夫婦荒波越えて青天日

酒の当て手抜きで作る喧嘩あと

綴じ糸を解かず着せる母の葬

行くあてなく余所行き着て家の中

穴明く程眺めて唸る預金帳

三田市 幸田 厚子

天井の染みなぜかブーチンに似てきた

柔らかい口調に乗って騙された

蛸が好き歯の治療済み半夏生

遮断器の上がらぬような参観日

朱印帳残る五ヶ所はのんびりと

三田市 馬場 貴美江

一雨で酷暑解消うれしい日

候補者は声のみ落し走り去る

候補者の顔がみえない激戦区

スマホには世界のニュース詰まってる

アナログは優しい居場所卒寿です

たつの市 江尻 房子

縁日のフランクフルト思う夏

いいねって はつなつの麻のスカート

午後五時の西日オレンジトシボ玉

朝靄の向こう戦がひたひたと

父逝って長男の肩厚くなる

丹波篠山市 澤 良子

老犬もひとり寂しや甘え寄る

そろそろと口紅塗って御洒落しよ

人生も残り三十年と決めました

百歳まで趣味のビジョン考える

ヒマワリの新芽を鹿がご馳走さま

西宮市 高橋 千賀子

雨降りにはズボンの裾を折り曲げる

缶詰の出番が多い物価高

鯖缶を猫と分け合う独り者

やわらかな脳と心を取り柄です

のんびりと余生過ごせる今が華

西宮市 藤原 みよし

この暑さ脱いだり着たり早替わり

余裕かなこの元氣なら卒寿まで

探し物二つも出て来い買った

恩返し身内に出来ずボランティア

この時節余り安いと疑って

奈良県 室田 行久

おじいちゃん呼ぶ孫にある下心

奇抜さを競う読めない前衛書

真実を言つて友達去つて行く

守るため組織一丸嘘も吐く

三枚目すっかり板に助演賞

生駒市 永田 美美子

栄光も汚名も突如「千の風」

焼け跡が原風景のゲンを読む

雨上がり虹にみとれて傘忘れ

雨やどりちよつと隣の暖簾へと

心にもないこと言つて寝つかれず

和歌山県 三枝 眞智子

ヒロインになつて余韻の帰路に着く

伝説の映画世紀を越えて観る

犠牲者を出してようやく捜査する

よく笑う女で回り打ち解ける

ありがとう木霊が響く善意の輪

和歌山県 北原 昭枝

のんびりと流れる時間花飾る

だんだんと切れ味鈍る思考力

嫌味かな小言きいてる遠い耳

踏ん張つてみたけど齢に勝てません

いつまでの命と思う雲の峰

和歌山県 定松 宏枝

生きるのに忙しかった父と母

雨の日は思考回路をオフにする

エアコンはついていいるかと耳に膀胱

守秘義務があると子供の反抗期

運動のつもりで朝の草むしり

和歌山県 佐藤 まき

到来のエチオピア産モカコーヒー

シバの女王愛したという香を愛でる

燃えているまだ六月の梅雨明けに

雑草とのイタチごっこは休戦中

意気地なさ見透かす草を蔓延らす

和歌山県 鍋嶋 澄子

緑嬉嬉と夏一直線走り梅雨

歩道渡るわたし気遣うガードマン

許せない狭いところを持て余す

友来たりお喋り主役お家カフェ

夏癒す井戸の回りの朱い花

和歌山県 まつもと もとこ

時間がないそれは言いたくないのです

金がないそれも言いたくないのです

理想だけ語つていてもやるせない

体力が空回りする続かない

幸せに終わりが無いと信じよう

鳥取市 上山 一平

しゃんしゃんと揃う浴衣の傘踊り

傘踊り指に勲章豆二つ

真夏日の手抜きが見えるお品書

噂呼ぶ微妙な風の吹きだまり

三密を避けてマスクの秋まつり

鳥取市 大前 安子

譲り合い親子の境行き来する

闇に舞う蛍火は何想うのか

八十迎えジグゾーパズル新しく

名水を汲む丸い背イキイキと

来た道のパッチワークを八十路継ぐ

倉吉市 宮田 風露

プーチンは悪夢から目が覚めぬのか

日本でも元総理の死悪夢だね

短い梅雨今年の水は電力は

汗汗汗今日も三度のお召し替え

素麺を吸る日多く今日もまた

倉吉市 若松 由紀子

マスク美人まんざら捨てたもんじゃあない

二度とない今日をだから無駄遣い

寄り道し友と笑ってよい老後

コロナ禍を知らず路傍に立つ地蔵

風向きが悪くて今日は言い出せぬ

米子市 妹能 令位子

思い出を真ん中にして老夫婦

思い出を暖めているクラス会

朝焼けをひとりじめして畑仕事

一升瓶供え亡夫の月命日

好きだけどうまくならない流行歌

松江市 中筋 弘充

踏切のバーが威張って通せん坊

来客が好きな扇はすぐ開く

両成敗ダムがあつたらなかったら

鼻の穴円周率は3でいい

わけありと書かれた胡瓜うれしそう

安来市 原 徳利

泡を吹く前に経口補水液

オアシスに宇治金時のカキ水

糖度十二度幸せ太りした西瓜

灰色に塗りたいなまくらの頭

炎天の鳥取砂丘砂地獄

鳥取県 田中 重忠

ササユリを活けると和むケアハウス

老い生きる人の情けがあたたかい

小さな幸みつめましたよケアハウス

川柳が遊んでくれるケアハウス

ありがとう妻の形見の杖のいて

美作市 岡 本 余 光

正常の証迷いも反省も

緊張感緩みうたた寝する不覚

熱中症予防居間にて唐詩選

珈琲の苦み幸せ感じつつ

大雑把値上げに気付くのが遅い

広島市 田 桑 恵 子

花メール待ち受け載せる香ものせて

手が滑り薔を摘んで詫びを言う

草茂り呼吸してない家ポツン

聞き上手話上手の友がいる

ちよつと一息やっぱり来たか第七波

広島市 松 尾 信 彦

父の知恵孫のスマホに押し切られ

ソップ形軽い無差別国技館

母よりもマドンナ今も夢に立ち

出る杭も仲間の酒でガスが抜け

ボケたらと今生つづる日記帳

広島市 森 田 博 之

緑児の瞳に醒めるパパの酔い

ノーマスクヘトイレの振りで外す席

芸事に達者な腕で家事不得手

意味のない仕草に惚れて恋になる

この一番靴脱ぎ捨てた徒競走

竹原市 土 井 輝 恵

もういいかいそつとマスクを置いてみる

六十年成れの果てですワッハッハ

呆けますよ電話来客妻任せ

遺される子孫の為に投票す

梅雨明けて蟬の鳴き声聞かぬ夏

山口市 兼 崎 徳 子

表情を変えずに育つ子が増える

更年期さらに重なる倦怠期

子の胸に希望の種を植えつける

後悔を野仏だけが知っている

口紅がくつきりさせる恋心

山口市 中 前 幸 子

微罪一つ乾いたままでパレットに

両手いっぱいのお愛を夕焼けから貰う

火を抱いた日から乱れた旋律で

喝采の中湧いてくる孤独感

ぼつんぼつんと民話の郷の夕餉の灯

府中市 岸 田 武

梅雨明けになつても膝は治らない

問答無用振りかざす軍事力

国のため死ぬ覚悟とは凄いいこと

台風は期待の雨を少しだけ

原点に戻りロボット指示を待つ

今治市 安野 かか志

飼い犬になつた自分を持て余す
数数の緑が初夏の登山道
俗世には離れぼつと一軒家
ごり押しに正義の旗が破れそう
気が回る面倒臭い妻である

高知市 三谷 松太郎

ライオンのタテガミ伸びて我無口
影法師 人懐っこい影だった
三界に家なきという働き手
九回裏二死満塁で雨が止む
輪転機くるくる回し国太る

福岡県 本田 さくら

シュレッダーにかけたい過去のいやなこと
わたくしの良いところ悪いところ知る鏡
ロシア民謡大好きだったその昔
カマキリの坊や両手をふりかざす
朝と夜血圧薬友とする

宮崎県 恵利 菊 江

父ははを若返らせる古日記
少年の飛躍くすぐる豆の蔓
土砂降りが新たなドラマ持ち帰る
沈む日があしたを予約して別れ
母老いてやんちゃ坊主を抱き締める

宮崎県 黒木 栄子

母さんの魂やどる胸の奥
ジョギングのおかげ足腰つよくなる
ちよいと出てひよいと戻つて来る夫
魂のぬくもり消える都市砂漠
このところ声も老いたと自覚する

沖縄県 宮 すみれ

青空の真下に住んで私達
公園のハブの絵文字に二度見する
旅立ちにはんの気持の祝い金
ぞろぞろと知ったか振りに囲まれる
伏し目していやなあいつに手を振った

白河市 鈴木 たけし

体重は減り体感が増す重さ
兄弟の絆を結ぶ母の指
次々と昭和を消していく宅地
子育ての終わつたらしい街暮れる
算盤の珠のリズムが懐かしく

弘前市 小山内 真由美

ひっそりと消えてしまったラーメン屋
傷跡はまだまだ続くコロナ余波
そしてまた銃を手にした人の闇
額紫陽花きれいに咲いた〇ひとつ
サラサラと流れる時間蟬の声

黒石市 石澤 はる子

この町に僕の孤独が落ちている
肝心な時に良心眠る癖

足腰に戦力外の赤ランプ

「お互いさま」友に幾度も救われる

梅雨晴れ間気合いが入る洗濯機

黒石市 北山 まみどり

何度目の復活だろう水しぶき

速乾の素材のシャツに助けられ

びしょ濡れになって気づいた痛みなど

不自由を逆手にとつてすり抜ける

どこまでもマイペースです楽天家

富士見市 中島 通則

男二人育てた母のプチ自慢

人並みの人生だった諒とする

生きる糧探し出合った一行詩

大人でも時に感動する絵本

肉体も脳もそろそろ要修理

東京都 宮田 栄子

清らかな風が嬉しい龍宝寺

里山が優しく私抱きしめる

笹百合の香にときめいた里の山

両親へ無沙汰を詫げる里の墓

立葵 色鮮やかに夏が来た

横浜市 巖田 かず枝

日本もえっと驚く銃被害

マスク生活どんな顔だったかな

赤ちゃんもマスクしないとだめですか

笑い声絶えぬ外科医の待ち時間

猛暑だが蚊取線香出番なし

横浜市 加藤 佳子

紫陽花が終了告げる早い夏

立葵参院選を出迎える

二重苦が迫る熱中症の夏

早朝の散歩でマスク解き放つ

ウクライナ思えば不満言えぬ夏

小田原市 虎澤 昭久

水たまりに歩幅が合わず靴濡らす

午前四時二度寝できない永い朝

身も蓋もない浴槽の栓忘れ

雨の砂利道に昭和が匂い立つ

やけにしつこいハエ監視ドローンか

豊橋市 小松 くみ子

梅雨明けはセミに軍配上げましょう

近頃の蚊羽音も立てず吸って行く

突然に故人の顔が浮かぶ夏

Ｌサイズに拒否ししがほくそ笑む

オニユリが高い所で笑ってる

八幡市 武田悦寛

入道雲すだれの向こう夏景色
色違い靴下老いが履きこなす
今日一人コーヒータムクラシック
幸せを朝の小鳥に教えられ
僕の乱安く治まる缶ビール

大阪府 奥野健一郎

ほどほどが良いと言いつつ高望み
生き字引居るのも知らず長講釈
その意見素面のときに言つてくれ
さりげなくジョークにわさび利かされる
胆力を鍛えてくれる瘦せ我慢

大阪府 高木道子

蝶番外れたらしい愚痴漏れる
思う様に動かん手足の擦過傷
難聴のように計報を聞き逃し
待たすより待つ身ゆとりの大欠伸
風鈴の南部の音色で論される

大阪市 東敏郎

おばちゃんに貰った鮎が喋り出す
金ピカのボタン遺して逝った妻
終活は思い出語る地を巡る
オミクロン名前だけなら怖くない
野暮用は暖簾潜れば済む話

大阪市 今村和男

予報では午後から雨の雲が見え
陽の光雨戸全開深呼吸
朝顔のやつと支柱に手が届き
梅雨明けの傘からポトリ滴たれ
麻のシャツ引っぱり出せば皺だらけ

大阪府 大浦福子

報われぬ百も承知の恋でした
巢ごもりにお洒落を忘れ夢忘れ
抱きしめて濡れた翼が乾くまで
アイラインきりり悪女になるつもり
くよくよを捨てて来ました旅の宿

大阪府 折田あきこ

渦まいた葛藤といて飲む洪茶
人生ドラマ空に描いて雨あがる
沈黙を共有してる白い花
遠い日の記憶を抱いて墓仕舞い
かつら着け今日はしつかり跳んでみる

大阪市 阪井恵子

茹で卵つるりと剥けて今日は吉
バタバタと巣立ちゆく子の背にエール
ルンルンと今朝は花柄ティーカップ
堂々と主役きゅうりのお漬物
待ちぼうけガリリと氷嚢み砕く

大阪市 白谷 よしみ

池田市 倉本 一 弥

ふたり傘私びしょ濡れ恋おわる
ささやかな日々君がいる贅沢
白内障犬といっしょの葉さす
きつつきに頼んでみよう君の壁
自然薯が都会で育ちあかぬける

大阪市 滝井 恵美子

日盛りを気弱になった母と歩む
数分もたたず舟漕ぐ帰路のバス
振り出しに戻るマス目がないゲーム
半休で妻の昼食見てしまう
飲み会でうかつに名前呼びすてて

大阪市 中村 峰子

食欲はないが何かを食べとこう
猫寝てる生きているかと声かける
胸はって空気よまないマイペース
若かった昭和以外はおまけです
がんばってまさかまさかを生きてきた

大阪市 宮本 千恵子

安倍さん悼み初めてつけたアベマス
ネットでも凶器作れる恐ろしさ
前歯抜かれて今日から私コメディアン
ゴーヤの苦み旨いと思う歳になり
亡母のパジャマ私の肌に馴染んでる

子や孫が妻を囲んだ誕生日
おにぎりは海苔なし具なし塩が好き
友の訃報老いるが怖くなってます
楽天家の僕お人好しだと言われます
高齢講習実車指導に胸騒ぎ

柏原市 神崎 江

傘をさす雨が降る日も晴れた日も
背の高いあなたの影の中にいる
ひまわりが切り花となり店に咲く
雨風よ彼乗る電車止めないで
短冊に素直に書けぬ願い事

交野市 山野 双葉

ワンピースの少女に戻る夏帰郷
あの頃の私に逢いにレコード店
亡き友も集うお盆の同窓会
星まつり西瓜提灯笹に揺れ
空箱を捨てられぬのも母譲り

門真市 坂本 星雨

嘘っぱい笑顔で候補者が並ぶ
大声で我欲を隠す選挙カー
目薬を差して投票所へ急ぐ
投票へ明日の青空期待する
照明が輝く当確の事務所

河内長野市 穂口 正子

伸び代も尽きて終活あれやこれ
諸共に老いて散歩の犬と夫
時系列無視の怒りに妻が酔う
診断のびっくり箱に不発弾
コロナより恐い独裁者の闊歩

吹田市 西沢 司郎

老い自覚進まぬベンに鈍る勘
ぐうの音も出ない結果に狼狽える
進言が意外な結果生む皮肉
飲みだすと意外な素顔見ってしまう
ロング傘いつか魔法の杖になる

高槻市 鳥居 宏

次々と忘れてしまう知人の名
脳萎縮これくらいならまあまあと
屋根の上鳥が鳴くよ気にかかる
最後まで食欲あつた姉が逝く
九十五美貌変らぬデスマスク

豊中市 貝塚 正子

おいしいと夫が言うから疑わし
老いた母も通ったでしよう道を今
自己愛が強くアホにはなれず老い
見ぬ振りが出来ぬ性分敵作る
腹の虫今日はゴジラのように吠え

豊中市 齋藤 奈津子

浜木綿咲いて三十年の亡夫の盆
亡き友にもらった苗に花が咲く
二世帯同居老いが伝える生きる知恵
キンチョウ蚊取たいて昭和の夕涼み
ドラマーですか木魚の上手いお坊さん

泉大津市 助川 和美

五七五に辞書とメガネが必需品
自転車の前に後ろに子を乗せて
病み明けの一步一步をかみしめる
まだ当てにされていたとは嬉しいね
トマト人参赤を頼って元気出す

豊中市 松田 蟻日路

胸を打つシーンどこからか鼾が
個人主義のヤンマ日影でホバリング
眠られぬ午前3時の鳩時計
散歩道肩寄せつなぐ手は介護
エプロンも意外似合うとおだてられ

八尾市 田邊 浩三

初夏に入りクーラー効かず大騒ぎ
選挙権だけをもらった成人式
ウクライナ敗戦日本思い出す
疎開地で自裁できずに今がある
我が歳を何度も妻に問い質す

西宮市 高瀬 照枝

スピードに欠けた私は弾きたい
バラは散りからだを解す雨の朝
天気図に相談してる外出日
もう少し生きて楽しい日を過ごす

寝屋川市 坂本 ミヨノ

宇治金時のど越し涼し汗も冷え
浴衣着て帯締め汗ですぐ脱いだ
うたた寝にエアコン切れて夢半ば
白御飯新生姜紫蘇食べ過ぎる

寝屋川市 長尾 千賀

朝食はブラックコーヒー 蟬のジャズ
俯くと見えない向日葵の笑顔
運命は悪戯わるさが好きで告知二度
風鈴の果てることなき愚痴を聞く

羽曳野市 黒木 ひとみ

幸せに生きる権利は皆平等
花を愛で鳥のさえずり平和な日
芙蓉花ひと日の命鮮やかに
床の間に木槿一輪涼しげに

神戸市 石川 克美

大輪のアガパンサスの競い咲き
ナンブレであつという間に時がすぎ
6月の暑さこの夏恐ろしい
見えにくいステルス値上げ横行し

芦屋市 新阜 義明

決めました寝てもエアコン水無月に
家族葬しつかりコラボ保険
妻が逝ききみまるCD泣き笑い
ヤクルトを飲むから強いセの一位

伊丹市 岡村 風琴

立ち直ることをくれた寂聴尼
駆け引きに付随メリットデメリット
ぶつかって人の心が通じ合い
連風が一喜一憂風孕み

三田市 木村 マユミ

親からの無償の愛を子に伝授
ストレッチ血管のばし日に二回
男性の節電へアー素敵です
断捨離で部屋スッキリと大の字に

三田市 辻 開子

夏野菜母の手引きで成果あげ
コロナ禍でウエストのゴムきつくなる
コロナ禍に老いの楽しみラジオ派に
内緒事フンフンフンの相槌で

三田市 松下 英秋

オンオフの切り替えてきぬ過労働
断捨離で残してあつた我が命
大胆な小鳥の恋が羨まし
ご近所と出会いの多いゴミ置き場

三田市 森 玲子

免許返納いやまだ元気まだ乗れる
暑いから時短手抜きで麺にする
今夜のメニュー冷蔵庫開け聞いてみる
ああ今朝も目覚しいらす鳥の声

丹波篠山市 河南 すみえ

さくらんぼリッチな気持ち味わって
生きている感謝で仰ぐ青い空
野も山も新陳代謝みどり色
あつという笑いと涙の一世紀

丹波篠山市 横溝 安子

ごきげんね声の調子でよくわかる
見て見ると孫のスキップ目をほそめ
傘寿坂若いつもりで背を伸ばす
眼鏡どこ頭の上ののつてるよ

和歌山市 福島 一雄

戦争で物価値上り目が泳ぐ
会えばすぐ飲みたい気分寂しがり
汗流す程度で変わる酒の糧
ありがたや八十路すぎても物覚え

鳥取県 橋谷 静江

熱さかな補聴器までもタダをこね
雨風の日あまり淋しすぎ
久しぶり出会った友と立話
コーヒーの香りで今日の元気出た

鳥取市 山野 すみれ

風船の行く先決める南風
低山を息を切らして登る足
ソーメンにキムチをのせてマシッソヨ
茄子の花蜂は上手に実に誘う

倉吉市 伊藤 嘉昭

テレビ消し読んだよ時代物十五冊
怒る者いなくて爺にハッ当り
生命保険八十満期の坂登る
気のきいたセリフが言えぬ見合い席

境港市 中井 虎尾

散歩にはブッシュユカー押し歩く朝
ダイに行くゆきもかえりも老の旅
巣ごもりはエアコンテレビ友にして
弱そうと猫なでしたらかまれ敗け

松江市 相見 柳歩

信じているひとにはやって来る来世
いつ使うお菓子の箱が崩れだす
指輪買う貯めていればの話です
線香の煙天国への便り

松江市 山根 邦代

何事もプラス志向で朗らかに
ガラケーもスマホも持たず令和行く
カタカナ語覚えられなく令和行く
毎日のコロナ数字にうんざりし

津山市 高橋 由紀女

天命とにらめっこして逝った父
確認を忘れて気付く誤字脱字
コロナ禍を友と昭和を巻き戻す
種蒔きの花はまだかと心待ち

三次市 伊藤 寿子

神さまが生かしてくれた四代目
120年の歴史を閉じてなるものか
コロナのせいだけではないがいばら道
女城主ってドラマが昔あったよね

沖縄県 禰 モモト

シルバーの人材募集でかでかと
下がり花一夜の恋に散る定め
夢を追う理想失う時老いに
戦争の記憶記録に体験者

石川県 堀本 のりひろ

この香り母の乳房は雲の上
八十路だが未だに浮かぶ母の胸
耳奥でそっと聞こえる子守歌
いくつになっても母のぬくもり宝物

東京都 高岡 弥生

夕暮れは日陰探して帰路に着く
飼い犬の介護始まる暑い夏
電磁波を浴びない時間あってもいい
省エネと暑さ予防どちら取る

京都府 北野 クニオ

おじぎ草触ってはしゃぐ子供達
時計草暑さに負けず花開く
空梅雨に影で泣いてる傘屋さん
旬のものを食べて長寿の糧とする

大阪市 澤田 節子

ほっとする行きつけの店同じ席
たそがれの花もきれいと古稀仲間
青畳じんわり踏んで今日入居
寂しくて恩師のいない家仰ぐ

大阪市 田原 康雄

隠岐フェリーゴロ寝し浮かぶ友の顔
老い二人腹六分目たまに肉
口喧嘩ごめんが言えずまずいメシ
人生をくねくね語るシェアハウス

大阪市 前川 善之

人助け出来る範囲で手を伸ばす
人生は思い通りにいかぬもの
八十二老いと闘い終りなし
危機迫る世界戦争起きるかも

大阪市 松田 聰

外交に勝る抑止が何故できぬ
防衛費増やせば平和守れるか
九条に守られ七十七年
関西人最後につける知らんけど

泉大津市 葛城隆雄

チャンバラはいまだに夢中昭和族

耳隠居何を言っても知らん顔

耳よりな話ですよは要注意

夏休みプール蟬捕り花火です

吹田市 岩口 のぞみ

早く来た夏の長さを思いやる

暑い日も湯船に浸かり息を吐く

かき氷体の中から熱を取る

だらだらと流れる汗もこちよし

高槻市 三谷 白黒

父の日はざんげしたいと思います

暑過ぎて火災報知器鳴りました

買ったままズボン三本眠ってた

ワイシャツを着つぶすために作業着に

(前月分) 生駒市 児玉 規雄

八十歳越えても人生四苦八苦

犬猫も保険医療で高齢化

三十年延びぬ賃金縮む国

コロナ禍で増えた直葬一日葬

(前月分) 鳥取県 下田 茂登子

忘れたこと忘れて医者に行っている

デイ様のお世話何とか生きている

今度こそ旅に出たいと思う

この体で実家の地には行けません

(前月分) 倉吉市 伊藤 嘉昭

「今日も幸」願って朝の仏鈴鳴らす

自信作あまい香りの夏野菜

人ごとでない悲しみのワルツウクライナ

花園で香りかくよとマスクとる

(前月分) 倉吉市 宮田 風露

この世から酒が消えるとうなるの

夕涼み縁台で飲み交す酒

芒を活け月見の酒でございます

百葉の長と聞いたら止められぬ

(前月分) 沖繩県 禰 モト

恥ずかしげ戸を締め替える五歳

自分史を読んでね友は終活へ

水中の魚目を閉じ浮き寝する

孫を呼ぶお喋りインコ家族です

「川雑」語録 ③

けはい

伊藤 藤愚陀

夏の終りとも秋の初めともつかぬとある日、彼は音もなく風とも云へぬ風がそよりと裸の背を触れて行くのを感じた。と同時に今読み終った彼女からの手紙にもはや秋の理性が鋭く突きさ、つてゐるのを見逃さなかつた。

(「川柳雑誌」昭和5年10月)



追悼

うつみ こうせい
内海幸生さん

木本 朱夏

「謹啓 父 内海幸雄 儀

かねてより闘病しておりましたところ、去る五月二日、九十二歳にて永眠いたしました。葬儀は故人の意向により、コロナ禍の時勢も考慮して近親者のみで執り行いました」と、幸生さんの御遺族からのお知らせを手に、しばらく肩の力が抜けました。

数年前から病床にあつた幸生さんとはメールでやり取りをしていたことがありました。コロナ禍の影響もあつて何時かメールも途絶え、幸生さんの体調を心配していました。

平成元年九月号巻頭言に西尾栗主幹は「この度、奇特な人の寄贈で、霊地の一区画を戴いた」と書かれました。また令和四年七月号巻頭言に蘭幸主幹が「私が墓域の匿名寄贈者が5月に逝去された内海幸生さんと知ったのは、川柳塔主幹になつてから」

と書かれています。

幸生さんは大阪府八尾市在住ということもあつて、同じく八尾出身の西尾栗主幹を大層尊敬されておられました。また常任理事として川柳塔に尽力もされました。

太陽のようにあたたかいお人柄そのままに、いつもニコニコと包容力のある幸生さんは決して出張らず、陰ながら川柳塔を支えてこられました。

川柳塔752号（平成2年1月号）「川柳塔碑の建立に思う」には中島小石さん、野田素身郎さん、小出智子さん、工藤甲吉さん、野村太茂津さんら寄稿者の中に、幸生さんの「頑張らなくちゃ」と題した文章も掲載されています。幸生さんを偲んで全文転載させて載きます。

：（平成元年十一月十二日、全国の柳人有志各位のご浄財を集めて、高野山大霊

園に川柳塔碑が建立され、その序幕開眼法要に参列させて頂く機会を得た。全

山紅葉に少し早かったとはいえ、快晴の中を式場に着き、正午少し過ぎから高野聖による開眼法要の読経と序幕が行われた。紅白のテープが引かれると、真新しい碑、川柳塔のシンボルマークと「川柳塔」の文字がクッキリ浮き上がる。一同、

思わず拍手！裏側には、栗主幹の名文で墨痕鮮やかな文字が刻まれ、霊標にあたる碑にも栗先生の達筆が見事に躍っている。目を閉じればすでに幽界に入られた柳界の諸先生方や諸先輩のにこやかな顔がはつきり浮かぶ。「これから、ここにお参りすればお会いできますね」「ウン、ウン」「私もここへ入れてもらえますか」「バカモン、君ら十年も二十年も早いわ。もっと修業を積んで出直せ」の厳しいお言葉に、「ハイ」と引き下がって目を開けた。

頑張らなくちゃ！：

幸生さん、あなたのお陰で「俱会一処」の碑が建立されました。そうして路郎師のもとに川柳塔の輪が大きく和やかに広がっていきます。有難うございました。やすらかに眠りください。

合掌

誹風柳多留一二三篇研究 25

細井龍夫・伊吹和男

高野範雄・山田昭夫

小栗清吾

清 博美

192 一國せいばいて息子ハかみ切れ

細井 一國成敗は吉原の廓内で公然と行われた一種の私刑で、馴染の遊女に無断で他の遊女を買ったりしたら、その性悪男(?)は、髪を切られるという掟があった。移り気などから息子が待ち伏せに捕らえられて、ご自慢の本多髻をブツリと切られてしまった。ざまあ見る。

法度た、しくさん切りにむす子され

安七松 4

わつきやつといふ内本へばたり落 傍 一 46

一ツ国せいばいかみゆひ手にあまり

安八仁 4

清 賛。遊廓の客を客とも思わぬ一方面的な仕

打ち。

193 生酔にまけて大屋ハあすの事

細井 大屋は今様に言えばアパートの管理人であるが、その住人の店子にとつては親同然。長屋に何事かあると、良きにつけ悪しきにつけ密接なかわりを持つ存在である。

ある日、店子の一人が生酔になつて何やらぐだぐだどくだを巻いていて始末に負えないので、取りあえず生酔いご本人を立てて「まあく」と宥めすかして、翌日改めて聞いてやることにして当座の収まりをつける。

生酔をたかよくとつれて行キ 安五松 5

生酔にあした切りやれと納メさせ 一三 38

生酔をいつそけいはくして寐かし 二四 9

伊吹 賛。大屋でも手におえない生酔。

高野 アパートの管理人とは、質、守備範囲において、全然違います。

山田 賛。「今様で言えば」ですから礎でもよいのでは?

清 賛。

194 かくべつな事琴かりるふみのぶん

細井 「ふみ」は女性あての手紙であらう。「御事」は「日国」④に「性行為、または性器をいう」とあるので、「御琴を御貸し下され」と書けばよいけれど「おんことおかしくだされ」と全文を仮名で書いたりと変な意味にとられることがあるので、琴を借りようとする際には、そうならないように漢字で書くとか格別な注意が必要だ。

気をつけてよめハおかしな御琴師

明五鶴 2

小栗 そういうことですか。変な句ですね。

清 どうもそういうことらしい。変な句だ。

別解があるかも知れぬ。

195 奈の内つみ草に出るせちからさ

細井 「松の内」は「注連の内」ともいうが、

江戸では元日から七日までのことで、七日には万病にかからぬようにと七種粥を食する慣例になっていた。セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロと全部揃えるのではなく、ナズナ一品だけで間に合わせていたらしい。六日の日にそのナズナを売り歩いたのは子供か老人が殆どで、一把一文の僅かな稼ぎのために松の内にナズナ採りに行くとは何ともせつない世の中だ。

この句の詠者の頭の何処かに、百人一首^⑮の「君がため春の野に出てわか葉つむわか衣手に雪はふりつつ」(光孝天皇)が引つ掛かっていたように思われる。

つミ艸もまつのうちのハかせきなり

天五花³

うぬがため春の野に出るなつなり

一六二

七けんで七文が売るなづなり 安七鶴²

伊吹 賛。百人一首は？ 商売人とも一般人とも考えられる。

高野 賛。作者は百人一首を意識していないように思う。

山田 賛。「せちからさ」をどう取るかですね。小栗 世智辛いは、①金銭にこまかい。勘定高い。しみつたれている。②抜けめがない。また世渡りのむずかしい形容。(「日国」)。

たった一文の摘草を買うことさえいやがつて、自分で摘草に出る人の句かと思つていたが、礎説のように、摘草(商品)の調達に出るといわれれば、そのような気もして来た。清 小生は売るためのつみ草と思う。「日国」の②説になろうか。

196 うぬがせるとはらをたゝいてこぞう辻

細井 元氣な幼児は窮屈な着物を脱がせると開放感一杯で喜び勇んで腹を叩いたり走りまわるので、なかなか捕まえられない、という微笑ましい情景。

はだかつ子はらをたゝいてにげるなり

一九二

はだかの子おもしろかつてにける也

九三九

男の子はだかにするとこまらず

三三三

清 賛。

197 しりつぽを引くなわをなつてゐる

細井 藁縄をなうのを見てると、次々と藁を足してなつて行くが、尻の下に敷いたなえたのを時々後へビッピッと引つ張り出しながらの作業で、あたかも尻尾を引つ張つて伸び

ているみたいで面白い。

伊吹 描写句賛。

清 賛。

198 はなしなよきやしやうよと逃じたく

細井 上5「はなしなよ」は「放しなよ」と「話なよ」と二重構造になっているようだ。その語感から町人の後家か下女であろう。「まあ、手を放しなよ。お話はちゃんと聞いてあげるから」とその実逃げ腰なのだ。

伊吹 賛。二重構造というより、放したら聞いてあげましよう、だと思ふ。

山田 同。この句は「川柳吉原志」の「無心と手管」の項にあり、柳雨先生はどうやら遊女に客が言っている場面とされているようですが、如何でしょうか。

小栗 私直感的には遊里句。何でも吉原にしてしまうのは危ないが、決め手のない句は、吉原にしておいた方が、ストーリーを作らなくてすむ。後家や下女では、話が深刻になつてしまふ。

清 小栗説、ごもつともなれど、主題句の「はなしなよ」「き、やしやうよ」という言葉が、女郎のそれとは考えられない。但し、どうい状況かははっきりしない。

愛染帖

新家 完司 選

(投句247名)

悲しい場所になってしまった西大寺
(評) 安倍元首相が銃撃されたのは、近鉄の
東大阪市 北村 賢子

大和西大寺駅前。由緒ある街の名前が悲しい
事件の場所として歴史に刻まれてしまった。
府中市 岸田 武

容疑者の家族の方も気にかかる
(評) 若者が凶悪犯の場合「親御さんやご兄
弟は大変だろう」と思う。被害者家族は勿論
だが、加害者の家族もまた被害者である。
広島市 松尾 信彦

出るたびに衣裳が派手になる識者
(評) そう、テレビ慣れしてだんだん芸能人
のようになってきた識者がいる。「学者は野
暮ったい方が似合う」というのは偏見か。
米子市 野川 宣子

じいちゃんはお菓子の袋歯で千切る
(評) とときとき変わったことをする爺ちゃん
に孫もビックリ! その程度なら良いが、散
歩中に立ちションなどはせぬように。
三田市 堀 正和

定年後お風呂の掃除上手くなる
(評) 第一線を離れてから拵抜けのようになっ
てしまう人もいるが、切磋琢磨して風呂掃除
の名人になる人もいる。見習いたし。
奈良県 渡辺 富子

待合室老いの百態見てあきず
(評) ほとんどが高齢者の病院の待合室。雑
誌を捲る人、俯いている人、咳き込む人、話
しかけてくる人等々、みんな生きている人。
松江市 石橋 芳山

捨てる場所なくて怒りを持ち歩く
(評) 怒りや憎しみや不安などネガティブな
感情をさつさと捨て去ることが出来れば達人
だが、なかなか捨てる場所が見つからない。
大山市 金子美千代

シンブルイズベスト家電も挨拶も
(評) ボタンがいつぱい付いている洗濯機な
ど説明書を読むのも面倒。また、乾杯前の祝
辞も自慢臭い話は省いて手短かに願いたい。
大田市 江島谷勝弘

文句言わずずっと買ってる宝くじ
(評) まるで趣味のように飽きずに買い続け
ている宝くじ。もちろん、自己責任は承知の
上なので外れ続きでも文句は言わない。
三田市 堀 正和

旨いもん食べ飽きてから灰になる
(評) ウナギもマグロも焼き肉も食べ飽きた。
三田市 堀 正和

キャビアもフオアグラもトリユフもゲップが
出るほど、になるまで長生きしよう。
大阪市 平井美智子

取り敢えず今日はやめとくダイエツト
高槻市 片山かずお

明日は土曜日それが嬉しい金曜日
尾道市 小川 道子

丸四角三角どれも個性的
横浜市 加藤 佳子

西村賢太逝って手に取る未完の書
明石市 梶谷 和郎

よく生きているなと自分褒めてやる
黒石市 北山まみどり

新鮮な輪ゴムでいたいストレッツチ
尼崎市 宗 和夫

遊歩道執事引き連れ犬が行く
河内長野市 穂口 正子

嫁入りの三点セット粗大ごみ
奈良市 大久保真澄

断捨離は業務外だというルンパ
東京都 川本真理子

落ち着けと人には言える微笑んで
米子市 竹村紀の治

ノックにはノックで返すトイレット
大阪市 大川 桃花

安静にしてると気力萎えてくる
三田市 北野 哲男

葬式とお墓の話よく弾む
三田市 北野 哲男

神戸市 敏森 廣光
背伸びして無理をするから肩がこる

倉吉市 大羽 雄大
腰伸ばし歩くだけでも草臥れる

神戸市 奥澤洋次郎
階段で滑ってからの絶不調

尼崎市 山田 耕治
元気で蹴蹴いたら転けまつせ

松山市 栗田 忠士
不細工でも歩けるだけでよしとする

和歌山市 まつもととこ
喉仏あなたは嘘が下手なのよ

大阪市 小野 雅美
紫陽花の青は酸っぱい雨の味

大阪市 小野 雅美
誘惑がいっぱい夏の冷蔵庫

松江市 中筋 弘充
苦手な人に会えば流れるイケズの血

自由形大掻きにする山育ち
松江市 中筋 弘充

佐賀県 真島久美子
限界集落 何が限界なのですか

岡山市 丹下 凱夫
メドレーの後半魔女になっっている

岡山市 丹下 凱夫
マザコンの列にも同じ雨が降る

6Bで書くわたくしのヨタヘロ期
岡山市 丹下 凱夫

死に方の練習だけはむずかしい
岡山市 丹下 凱夫

しなやかな足首だろう下駄の音
神戸市 居谷真理子

一日の灰汁沁み込んでいるマスク
神戸市 居谷真理子

和歌山市 柏原 夕胡
芋虫のためにバセリを植えました

東京都 宮田 栄子
初夏の風受けて新茶にほっとする

箕面市 中山 春代
炎天の街へでかける肝試し

神戸市 近藤 勝正
買物のメモにアイスト大文字で

寝屋川市 伊達 郁夫
節電にデパート巡りしています

大阪市 横山 里子
独り身の息子亡夫の歳を越え

大阪府 横山 里子
恐いものなんにもなくてスッピンで

鳥取県 齊尾くにこ
気合い入れ立ち上がる和のお手洗い

大阪市 高杉 力
正直な気持ち正直じゃない口

大阪市 高杉 力
ベストスコアだけをしっかりと覚えてる

眉描いて目尻の皺に笑われる
大阪市 高杉 力

可愛いと美味しいだけで世がまわる
大阪市 高杉 力

トラクターに轢かれた蛇のS字の死
岡山市 大石 洋子

魔線のむこうにカンナ咲いている
岡山市 大石 洋子

ゴング鳴り勝負師になるバイキング
神戸市 城戸 誓子

我が子より手塩にかけるミニトマト
神戸市 城戸 誓子

大阪市 高杉 千歩
お刺身は出ない施設の晩ご飯

鳥取県 門村 幸子
車椅子明日のことなど考えず

丹波篠山市 澤 良子
生きること自体が演歌涙雨

黒大豆植え付け終えてカラス追う
神戸市 松倉 正美

砂浜に喚声響く海開き
奈良県 長谷川崇明

温暖化日本見捨てず飛ぶツバメ
交野市 山野 双葉

夏草の蔓を跨いで散歩道
大洲市 花岡 順子

オフの日は散歩ついでの缶拾い
大阪市 坂 裕之

暑すぎるちよつと動くときまたシャワー
西宮市 高橋千賀子

風鈴まつり音に釣られてひとつ買う
鳥取市 岸本 孝子

ゴーヤなら馴れたメニューのチャンプルー
豊中市 松田蟻日路

酷暑などまるで他人事妻の胃は
香芝市 山下じゅん子

縁側でステテコだけの父の夏
沖繩県 宮 すみれ

クマゼミもサウンドなみにハモってる
沖繩県 宮 すみれ

鈴木いさお

スケジュール医者とか句会が聞き合う

三田市 上田ひとみ

リセットは鉛筆握るこの時間

鳥取市 山下 凱柳

時の経つのも忘れては指を折る

唐津市 仁部 四郎

川柳をほぐすと小説できますよ

熊本市 杉野 羅天

ブーチンに振り回されている地球

高槻市 初代 正彦

片時も忘れてならぬウクライナ

大阪市 田中ゆみ子

神さま教えて戦争を止める術

吹田市 西沢 司郎

投票日コロナで出向く気が失せる

堺市 坂上 淳司

べっぴんのポスター選ぶ浮動票

大阪市 宇都満知子

二年ぶりヒールの靴で足がつる

鳥取市 谷口回春子

微笑みはマスク越しでもお見通し

河内長野市 辻村 ヒロ

知らぬ間に痩せてしまった知恵袋

岡山県 田中 恵

度忘れて先ずはもと居た位置に立つ

神戸市 山口 光久

ご先祖に教えを乞うて今日も無事

鳥取市 福西 茶子

詐欺電話ハイ警察と出てやろう

堺市 村上 玄也

気休めにつけてるだけの歩数計

宝塚市 岸田 万彩

朝ドラで昔の愛車走ってる

黒石市 石澤はる子

越えられる高さで親は壁になる

堺市 内藤 憲彦

留守電が人手不足と逃げを打つ

西宮市 緒方美津子

謝罪の稽古しています次期社長

福井市 伊藤 良一

いろいろな泳法試し定年日

鳥取市 倉益 一瑤

負けん気のポーズで涙ふいている

三原市 鴨田 昭紀

隔てなく向き合う薔薇と月見草

松山市 柳田かおる

長生きもしたいし認知症はいやだし

三原市 笹重 耕三

長生きをすればボロだつて出るさ

松山市 郷田 みや

チャネルはどこでも突然の計報

弘前市 福士 慕情

仏壇の中で笑っている家族

横浜市 川島 良子

亡夫より素敵な人にまだ会えぬ

河内長野市 村上 直樹

ぶらぶらせずに手伝つてよと妻の檄

三田市 村田 博

助手席の煩い妻よ寝ておくれ

香芝市 大内 朝子

ふわふわとおまけの命風まかせ

大阪市 平賀 国和

前途には八十の壁そびえてる

枚方市 桝尾 奏子

すれちがいざまにキュンって音がした

生駒市 飛永ふりこ

あひるさんに今日のパワーをもらってる

弘前市 稲見 則彦

物心ついた頃からスワローズ

鳥取市 田賀八千代

アマゾン経由で焼き芋父の日に

河内長野市 梶原 弘光

百均の企業努力は半端ない

岡山県 藤澤 照代

サービスと書いてタダではないランチ

大阪市 石田 孝純

値札のゼロ三つまでならピンとくる

大阪市 大沢のり子

ハザードマップ赤く塗られた土地に住む

男鹿市 伊藤のおよし

活性化いい響きです今も過疎

松山市 大内せつ子

泣きベソに麦の香りが寄ってくる

八幡市 武田 悦寛
老いた猫ゆるくすり寄る老いた膝

弘前市 小山内真由美
銃持てず幸せそうに眠る猫

三田市 大西 重男
恋の字が脳の片隅離れない

八王子市 川名 洋子
近視眼じつと見つめて誤解され

池田市 倉本 一弥
地味な僕ちよつと派手目の君が好き

神戸市 米田利恵子
女子会が刻む男の二、三人

美作市 岡本 余光
内面を点検異状ないようだ

枚方市 谷 英也
今が匂五感ピカピカ八十路です

神戸市 みぎわはな
徘徊じゃないのよ 虹を探してる

貝塚市 吉道あかね
恥ずかしいことも話せる友がいる

鳥取市 岸本 宏章
プロ歌手の声にも歳が出てしまふ

津山市 高橋由紀女
ぐしゃぐしゃのスクラップでも読み返す

南あわじ市 萩原 狸月
押し通す私見もなくて輪に和む

広島市 羽城 裕子
雑草に等身大の夢がある

土佐清水市 辻内 次根
勝ち組が言いたいことを言っている

鳥取市 奥田 由美
肩書きとノルマ持たせてまたバート

和歌山市 三枝眞智子
無農薬土は正直生きかえる

米子市 池田 美穂
救世主になって下さいバイオマス

大阪市 岩崎 公誠
三猿の教えいまごろ噛みしめる

大阪市 滝井恵美子
「おはよう」がギリギリ親子保ってる

三田市 多田 雅尚
腓返り苦痛和らぐまで我慢

鳥取県 山下 節子
明日は雨体で気付く気象病

豊中市 水野 黒兎
昼メシは男ランチは女性客

大阪市 古今堂蕉子
現代つ子ドライな割に折れやすい

香南市 桑名 孝雄
一世紀隔てた曾孫との喃語

三田市 丹羽 美恵
何回も見たけどやはり空財布

寝屋川市 長尾 千賀
月当番の札ぶらぶらと今日も留守

米子市 後藤美恵子
二千万無くて長生き怖くなる

富士見市 中島 通則
夏が来るビールCM花盛り

大阪市 阪井 恵子
冷え冷えの麦酒あるよと冷蔵庫

鳥取市 山野すみれ
漢方を愛用しては向かう酒

池田市 太田 省三
大吟醸風味加わる江戸切子

羽曳野市 吉村久仁雄
三年古酒ひとりの夜も悪くない

奈良市 山本 昌代
にこにこ酔うております梅酒割り

大阪市 井丸 昌紀
赤提灯ぶらぶら今日も召し捕られ

笠岡市 藤井 智史
カクテルはワタシにとって砂糖水

三田市 野口真桜子
本心を混せて苦味の残る酒

堺市 澤井 敏治
叩いたら一滴は出る空徳利

豊橋市 八甲田さゆり
飲兵衛の愉快な嘘に騙される

弘前市 高瀬 霜石
集まっちゃ飲んでる写真ばつかりだ

橋本市 石田 隆彦
二日酔い臓器のノック無視の果て

高槻市 松岡 篤
酒減らす魔法を妻が探してる

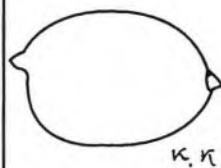
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句311名)



「劇」 江島谷 勝弘選

劇場型の最期を遂げた元総理
ロシア侵攻ドキュメンタリーのテレビ
トランプが今も続ける茶番劇
大谷劇場スゴイ連発アナウンサー
消費税なくせば劇的な変化
文化予算削られ劇団の悲鳴
暴力を美化してむず痒い劇画
劇的な豪雨に負けたマンホール
時代劇見させておけば好々爺
時代劇吉永小百合も若かった
時代劇見ながら夫の逝った夜
時代劇は妻俺は恋愛物
駅着けばテンション上がる宝塚
3時間酔いしれてきた宝塚
裏方も営業もする小劇場

藤井寺市	鈴木いさお
羽曳野市	徳山みつこ
神戸市	敏森 廣光
奈良県	安福 和夫
松江市	相見 柳歩
大阪市	川端 一步
大阪市	平井美智子
鳥取市	上山 一平
安来市	原 徳利
神戸市	斎藤 隆浩
たつの市	江尻 房子
大阪市	田原 康雄
尼崎市	羽奈 和子
大洲市	花岡 順子
三田市	松下 英秋

「劇」 永見心咲選

逆転劇期待はじめた浜の風
蟬時雨まだまだ続く無言劇
下町の長屋はみんな新喜劇
頬笑ましベツト役居るおままごと
昭恵さん私にも悲劇ありました
一年のドラマを作る四季の風
悲劇にも喜劇にもなる銭の音
幸せを演じた後の肩の凝り
好きな人を演じ続ける罪深さ
アメリカの歴史学んだ西部劇
今日もまた悲劇朝刊が重い
寸劇が終るよ自動ドアしまる
後期です一人で生きるト書き読む
この辺で周平ならば蟬しぐれ
気まぐれな風が結んでいくドラマ

堺市	澤井 敏治
尼崎市	藤井 宏造
枚方市	栃尾 奏子
西宮市	福島 弘子
米子市	妹能令位子
伊丹市	岡村 風琴
鳥取市	倉益 一瑤
大阪市	岡田 恵子
大阪市	阪井 恵子
鳥取市	岸本 宏章
大阪市	田中ゆみ子
出雲市	岸 桂子
阿南市	小畑 定弘
三田市	上田ひとみ
土佐清水市	辻内 次根

客席と会話している村芝居	大阪市	今村 和男
目薬をさして涙の狼芝居	三田市	村田 博
婆が好く大衆演劇泣き笑い	三田市	北野 哲男
百葉が劇業になる二日酔い	三田市	伊達 郁夫
ほろ酔いの友と寸劇エンドレス	奈良県	渡辺 富子
劇業になったら止めます酒タバコ	三田市	大西 重男
劇業と書いてる棚にある媚薬	黒石市	北山まみどり
劇業とラベルを貼って納う酒	大阪市	岩崎 公誠
おままごと皆かあさんやりたがる	神戸市	能勢 利子
昭和にはワクワク待った紙芝居	河内長野市	辻村 ヒロ
お遊戯のマスク外してあげたいな	和歌山市	柏原 夕胡
桃太郎赤ずきんちゃんみな端役	三田市	上田ひとみ
役者だな孫は得意の泣きおとし	大阪市	津村志華子
鶴岡を教えてくれた「蟬しぐれ」	大阪市	平賀 国和
ドラマチックは何と言っても蝶の羽化	男鹿市	伊藤のぶよし
オレオレにドラマ仕立ての技巧あり	宮崎市	押川 胡坐
劇的に増えました私の資産	豊中市	きとつこみつ
アリバイを素直に話せない悲劇	寝屋川市	長尾 千賀
お粗末な寸劇を見るコマーション	鳥取市	岸本 宏章
韓国のすったもんだの愛憎劇	東大阪市	北村 賢子
寸劇を見ているような立ち話	東大阪市	青木 隆一
劇場の通りで育ち映画好き	熊本市	杉野 羅天

ゴキブリが出ると始まるサスペンス	安楽市	原 徳利
ちよび髭があるから喜劇かも知れぬ	大阪市	高杉 力
オトウトハウサギワタシハオヒメサマ	神戸市	みぎわはな
着ぐるみを脱いで一服する楽屋	河内長野市	中島 一彌
全員を主役で創る子ども劇	宮崎市	押川 胡坐
幕の内食べる楽しみある歌舞伎	堺市	坂上 淳司
景勝地の故郷のロケのエキストラ	河内長野市	木見谷孝代
客席と会話している村芝居	大阪市	今村 和男
モノクロのリビング無言劇つづく	松江市	藤井 寿代
喜劇より笑いがおこるマイホーム	香芝市	山下じゅん子
三日目に入る夫婦の無言劇	三原市	鴨田 昭紀
ウクライナにも降るかもしれぬ黒い雨	弘前市	高瀬 霜石
惨劇の現場花束続々と	奈良市	宇賀 史郎
下手な芝居止めてと妻の鋭い目	河内長野市	大島ともこ
劇的な治療力婆の骨密度	鳥取県	門村 幸子
おもしろい劇始めよう老後です	大阪府	中村 峰子
また転けたん吉本喜劇みたいやな	大阪府	高木 道子
余計だったひと言無言劇を生む	堺市	村上 玄也
エアコンの温度をめぐる無言劇	神戸市	横田 次郎
初孫に劇変夫の赤ちゃん語	神戸市	城戸 誓子
客席へ劇中降りるのも演技	枚方市	藤村 亜成
劇的勝利PK戦の左足	寝屋川市	川本 信子

劇場は一番前の席が好き
冷房が開演中の子守歌

馬の脚アンコールでは顔も見せ

主役です人形劇の中ですが

舞台化粧落とせば老婆若返り

逝った者勝ちで仕舞いの二人劇

劇的な出会い運命線伸びる

劇的な治療力婆の骨密度

日替りの創作劇を泣き笑う

時時は喜劇にみえる物忘れ

劇痛に耐えて埴輪の顔でいる

悲劇にも喜劇にもなる銭の音

劇中で振った相手に惚れました

劇的な好転なんぞドラマだけ

ドラマのようにはいかない雨宿り

刺激的劇的でない平和な日

下町の長屋はみんな新喜劇

浄瑠璃に木偶の涙がほとばしる

劇薬の如く効く効く妻の愚痴

五十年我慢ガマンの夫婦劇

喜劇かと夫婦喧嘩を猫笑う

怒らせて妻は無言の劇の中

尼崎市 山田 厚江

西宮市 福田 正彦

神戸市 米田利恵子

大阪市 寺本 実

神戸市 みぎわはな

神戸市 奥澤洋次郎

奈良市 山本 昌代

鳥取県 門村 幸子

香芝市 大内 朝子

横浜市 菊池 政勝

海都市 小谷 小雪

鳥取市 倉益 一瑤

尼崎市 八木 幸彦

丹波篠山市 酒井 健二

尼崎市 藤井 宏造

三田市 稲角 優子

枚方市 枋尾 奏子

橿原市 居谷真理子

宝塚市 丸山 孔一

三田市 堀 正和

八王子市 川名 洋子

羽曳野市 藤原 大子

水戸黄門さあ印籠が出る時間

ひょうひょうと独り芝居の旅づく

アドリブをこなす浪速は皆役者

役者だな孫は得意の泣きおとし

劇薬に分類される妻の声

ネクタイを外して舞台降りた古希

カーテンコールも無いワタシの最期

文化予算削られ劇団の悲鳴

ああ夫婦無言劇には慣れたもの

朝ドラが時計がわりのご出勤

劇的効果君の笑顔で立ち直る

隠し味芝居も載せて夫婦膳

劇的な効果が欲しい美人の湯

劇場に入れば魔界ですキャッツ

長生きで喜劇にしよう胸の傷

喜劇って言われた悲劇とこゝろてん

無言劇やがて別れの鐘が鳴る

劇的な出会い運命線伸びる

手術前に行くストリップ劇場

日替りの創作劇を泣き笑う

劇痛に耐えて埴輪の顔でいる

人生なんて寸劇でしたバタフライ

豊中市 齋藤奈津子

米子市 竹村紀の治

明石市 瀬島流れ星

大阪市 津村志華子

倉吉市 牧野 芳光

大阪市 石田 孝純

笠岡市 藤井 智史

大阪市 川端 一步

弘前市 稲見 則彦

京都市 清水 英旺

黒石市 石澤はる子

河内長野市 森田 旅人

松江市 中筋 弘充

生駒市 飛永ふりこ

貝塚市 吉道あかね

鳥取県 斉尾くにこ

西予市 黒田 茂代

奈良市 山本 昌代

青森県 月波 与生

香芝市 大内 朝子

海都市 小谷 小雪

松山市 柳田かおる

無言劇ようやく慣れた三回忌

第二幕高齢者編始まった

ひとり芝居の幕はホームの一室で

独り言独り芝居の独居人

男性の一人芝居はすぐへたる

泣き笑い母と共演介護劇

天寿全うヘルパーさんの手助けで

目覚めれば私主役の劇開始

誰もが主役人生という名のドラマ

主人公は私悪役も私

何もかも劇と思って腹立てず

筆書きの恋文劇業に指定

君が去るまでは涙は零さない

毎日を志村喬を演じてる

あつさりとお茶漬けにした離婚劇

生きている人生劇場まだ飽きず

悲劇のヒロイン何故だか美しい

一幕のドラマだったと知るこの世

秀句

逆転劇するよりされるタイガース

ブーチン劇場拍手のない楽日

みな喜劇この世のことはこの世にて

東かがわ市

米子市

松山市

岡山市

西宮市

福井市

弘前市

米子市

高槻市

大阪市

大阪市

佐賀県

大阪市

川西市

大阪市

大阪市

尾道市

貝塚市

川崎ひかり

池田 美穂

宮尾みのり

大石 洋子

緒方美津子

伊藤 良一

高瀬 霜石

伊塚美枝子

片山かずお

石田 孝純

中村 峰子

真島久美子

小野 雅美

山口 不動

折田あきこ

若本 安代

小川 道子

吉道あかね

奈良県

奈良市

土佐清水市

長谷川崇明

大久保眞澄

辻内 次根

後期へと僕も団塊第二幕

仏壇へ幸せ芝居見せておく

劇的な豪雨に負けたマンホール

悲喜劇を知る珈琲の深い味

筆書きの恋文劇業に指定

劇場の空気が静止するタクト

自叙伝のまだ決めかねるエピソード

どんぶりを混せて吉本新喜劇

人生ドラマ最終章で笑えたら

隈取りを押し両眼が演じる

よう生きた自分を褒めて幕降ろす

吹っ切った女が見得を切る舞台

雁首を三つ謝罪の茶番劇

劇業と聞けば何だか効いてきた

茶番劇だと蛍光灯がちらつく

哀しみの涙を知っている喜劇

劇業になるかも知れぬ投げキッス

悲喜劇の断片演じつつ生きる

秀句

エンストが人情劇を生み落とす

ラ・フランスのくびれが秘めているドラマ

煮崩れの鍋が知ってる茶番劇

堺市

大阪市

鳥取市

岐阜県

佐賀県

寝屋川市

河内長野市

松江市

堺市

橿原市

河内長野市

富田林市

富田林市

奈良市

松山市

大阪市

枚方市

美作市

内藤 憲彦

小野 雅美

上山 一平

喜多村正儀

真島久美子

伊達 郁夫

村上 直樹

石橋 芳山

今井万紗子

居谷真理子

穂口 正子

中村 恵

山野 寿之

米田 恭昌

大内せつ子

平井美智子

藤田 武人

岡本 余光

宮崎県

松山市

男鹿市

恵利 菊江

栗田 忠士

伊藤のぶよし

「もたもた」

(投句 221名)

酒 井 健 二 選



気が急くと余計もたまして転ぶ
椅子取りゲーム一度も勝ったことが無い
焦ったらよいもたつく深呼吸吸
もたもたをシャキッと見せるサンクラス
もたもたを急かしています支払い機
もたもたをやり合っている二人
一段落したら涙がわいてきた
もたもたと鮮度も回る寿司レーン
楽屋でもたもた舞台では堂々
もたもたと歩く亭主の指図顔
バカンスへ待ったがかかる第七波
バスが来た足がもつれて走れない
もたもたとしてのゴキブリ叩かれる
もたもたが性に合ってる揃い踏み
もたもたを故意にしていると勘ぐられ
もたもたとしての間に人の妻
帽子鍵マスクと出たり入ったり
揉んで叩いてそれでも開かぬボリ袋
耳も目も連係プレー鈍くなり
民主主義もたもたするがいい制度

三田市	尾崎 一子	三田市	尾崎 一子
鳥取市	福西 茶子	鳥取市	福西 茶子
香芝市	大内 朝子	香芝市	大内 朝子
寝屋川市	長尾 千賀	寝屋川市	長尾 千賀
貝塚市	吉道あかね	貝塚市	吉道あかね
塩竈市	木田比呂朗	塩竈市	木田比呂朗
橿原市	居谷真理子	橿原市	居谷真理子
鳥取市	奥田 由美	鳥取市	奥田 由美
羽曳野市	吉村久仁雄	羽曳野市	吉村久仁雄
横浜市	加藤 佳子	横浜市	加藤 佳子
堺市	内藤 憲彦	堺市	内藤 憲彦
大阪市	江島谷勝弘	大阪市	江島谷勝弘
唐津市	山口 高明	唐津市	山口 高明
吹田市	西沢 司郎	吹田市	西沢 司郎
明石市	穂谷 和郎	明石市	穂谷 和郎
奈良県	中堀 優	奈良県	中堀 優
加西市	山端なつみ	加西市	山端なつみ
大阪市	島田 明美	大阪市	島田 明美
三田市	上田ひとみ	三田市	上田ひとみ
大阪市	平賀 国和	大阪市	平賀 国和

手や足はもたもたなの口達者
想い出が断捨離はばみ今日も暮れ
IT社会年寄だけが置いてかれ
ウエストの秋のホックが寄り添わぬ
一人旅もたもたしても気兼ね無く
雨ふってきたし布団は干してるし
どちらともビデオ判定決めかねる
レジへ来て財布まさぐる一円貨
おばちゃんがペイペイ使いレジが混み
意の如くならぬ手足がいとおしい
哲学の森で行ったり来たりする
生き急がぬように亀を飼っている

佳 句

河内長野市	辻村 ヒロ	河内長野市	辻村 ヒロ
奈良県	渡辺 富子	奈良県	渡辺 富子
大山市	関本かつ子	大山市	関本かつ子
富田林市	中村 恵	富田林市	中村 恵
高槻市	松岡 篤	高槻市	松岡 篤
大阪市	平井美智子	大阪市	平井美智子
宝塚市	岸田 万彩	宝塚市	岸田 万彩
三田市	北野 哲男	三田市	北野 哲男
越谷市	久保田千代	越谷市	久保田千代
生駒市	饗庭 風鈴	生駒市	饗庭 風鈴
弘前市	福士 慕情	弘前市	福士 慕情
青森県	月波 与生	青森県	月波 与生
大阪市	小野 雅美	大阪市	小野 雅美
河内長野市	中島 一彌	河内長野市	中島 一彌
岡山市	永見 心咲	岡山市	永見 心咲
豊中市	水野 黒兎	豊中市	水野 黒兎
和歌山市	まつもとこ	和歌山市	まつもとこ
黒石市	北山まみどり	黒石市	北山まみどり
弘前市	高瀬 霜石	弘前市	高瀬 霜石
奈良市	大久保真澄	奈良市	大久保真澄

通園の子は虫を追ひ犬を撫で
いい話しても長いと嫌われる
天 地
軸
もたつくとマネー資本が蹴つとばす

「折る」

多 久 和 敬 子 選

(投句 219名)



しならず折れた柳のグチを聞く
地図を折り君との距離が近くなる
労りが折れた心を接木する
折れ合った所に咲いた二輪草
指折れば数え切れない母の愛
青年に正しい折り目についている
ポケットにボクの翼を折り畳む
「グメンネ」と折れて人間丸くなる
話の腰折って割り込む待てぬ口
骨折りをいとわぬ母の背の丸さ
風を読み逸る心を折り畳む
二つ折りになった背骨が知るドラマ
A Iの世にも折ります千羽鶴
残月が折り合いつかぬ背を宥め
折り畳む心の綾は嬬やかに
ユビ折りを苦笑している電子辞書
不祥事の謝罪角度は90度
話題のトップ骨折ばかりなぜモテる
折り曲げた腰を忘れる当選後
角折って仲良く暮らす三世代

大坂市	古今堂蕉子	大坂市	古
倉吉市	牧野 芳光	大坂市	今
神戸市	横田 次郎	大坂市	堂
岐阜県	喜多村正儀	大坂市	蕉
富士見市	中島 通則	大坂市	子
榎原市	居谷真理子	大坂市	
富田林市	中村 恵	大坂市	
横濱市	川島 良子	大坂市	
大山市	金子美千代	大坂市	
河内長野市	木見谷孝代	大坂市	
篠屋川市	川本 信子	大坂市	
大坂市	津村志華子	大坂市	
岡山市	大石 洋子	大坂市	
明石市	瀬島流れ星	大坂市	
岡山県	藤澤 照代	大坂市	
塩竈市	木田比呂朗	大坂市	
三田市	村田 博	大坂市	
河内長野市	大島ともこ	大坂市	
大山市	関本かつ子	大坂市	
西宮市	緒方美津子	大坂市	

金賞の折り紙が付く米の出来
遠ざかる平和ひたすら鶴を折る
隣家留守越境の枝そつと折る
自惚れをボキンと折られ目が覚めた
赴任地に妻のくる日の指を折る
千羽目の鶴は心を込めて折る
割り込んで話の腰を折る天狗
青い地球早く戻れと鶴を折る
貯金残調べ指折るわが余命
ここまでとほつと一息ページ折る
大望も挫折大地へ歟を振る
千羽目の鶴は特別願ひ込め

佳 句

人

地

天

軸

挫折するたび強くなる骨密度
子の巣立ちしずかに羽根を折りたたむ
折り入った話は青空の下で
心残りのまま折り畳む亡母の服
悩んだら戻る折り目のあるページ

恋は未完 相合傘を折り畳む

折り返し地点で見た過去未来

骨折った分だけでかくなる器

I Tの森で翼を折り畳む

大阪府	米澤 俣子	大阪府	米
大阪府	高杉 力	大阪府	澤
神戸市	松倉 正美	大阪府	高
大阪府	若本 安代	大阪府	杉
奈良県	中堀 優	大阪府	力
横濱市	菊地 政勝	大阪府	
米子市	中原 章子	大阪府	
岩国市	上村 夢香	大阪府	
奈良市	宇賀 史郎	大阪府	
堺市	今井万紗子	大阪府	
香南市	桑名 孝雄	大阪府	
弘前市	稲見 則彦	大阪府	
岡山市	丹下 凱夫	大阪府	
三田市	稲角 優子	大阪府	
大阪市	田中ゆみ子	大阪府	
津山市	高橋由紀女	大阪府	
東京都	川本真理子	大阪府	
大阪府	島田 明美	大阪府	
高槻市	島田千鶴子	大阪府	
香芝市	大内 朝子	大阪府	

初しよ教室

題 — 塩

高瀬霜石

これを書いているのが7月上旬。

世間はなんだか浮かれ気味。感染者も減ってホッとして、ちよつと気を抜くと増え、また減り、また増える。まったく先が見えない。

同じく、ウクライナ。こつちも一進一退。プーチンがんに雇っているだとか。ロシア経済は破綻寸前とか。プーチンを追い詰めてはイケナイ。核ボタンを押すかも——とか。

これが活字になる8月上旬。参議院選挙は終わっているが、物価は以前高騰中。コロナも、戦争も、終息の気配はない。

この際、もうちよつと長生きして、この結末を見届けようではありませんか。ご同輩。

①まずは、上と下と入れ替えてみる。その方が、よりドラマチックになるから。

(▽は原句。▽が参考句)

▽塩、砂糖どじな失敗新婚時 厚子

新婚時の「どじな失敗」は一体何だったのか？読者も知りたい。「落ち」は最後に。

▽新婚時どじな失敗塩砂糖

▽塩恋し病院食の一週間 双葉

この句も一緒。上が重くなつたけれど、▽一週間の病院食よ塩恋し

②もつと適切な表現はないか。もつと適切な言葉はないか。

▽曖昧な男料理の塩加減 一平

「曖昧」が、いかにもアイマイでねえ。ここはズバリ豪快に。

▽豪快な男料理の塩加減

▽アンデスの高嶺不思議な塩の湖 蟻日路

アンデスが出れば「高嶺」はいらない。アンデスが高い山なのは、皆知っている。なので、ここは素直に。

▽アンデスの世にも不思議な塩の湖

▽バブル後の塩漬け株にまだ未練 行久

株で随分儲けた(らしい)作者。だが、あのバブル。分かるけど「未練」は言い過ぎ。

▽バブル後の株は塩漬けされたまま

▽バブル後の株塩漬けにされたまま
▽新米におかずはいらぬ塩にぎり 義明

「おむすび」「おにぎり」が登場したら、「塩」はいらないでしょう。シンブルに。

▽新米のおにぎりおかずいりません

③あえて大袈裟にしたり、立場を変えたりして、よりドラマチックにする。

▽塩漬けになつてしまった拉致被害 通則

これはこれでOKなのだが、句としては弱い。ここはあえて固有名詞でインパクトを。

▽塩漬けにされてしまっためぐみちゃん

▽傷に塩塗られたようなアドバイス

作者は、ちよつときつめのアドバイスに戸惑っているようだ。でもね、言う方もツライはず、だから、ここは立場を代えて。

▽傷に塩あえて塗りますアドバイス

▽末吉が良い塩梅の暮らしかな 和夫

作者の言いたいこと、よく分かります。大吉なんかいいらない。老後資金の2千万円も手元にはないが、子どもはすでに巣立ち、隣近所とは仲良し、夫婦仲もまあそれなり。酒は少々、趣味は川柳。だから、末吉で充分。いや、末吉こそが望み——となれば、

▽末吉万歳 良い塩梅の暮らしです

僕が、津軽地方に流れるFMラジオで「霜

石のやじうま川柳」なる番組を持って、早23年の月日が過ぎた。

僕が50歳からスタートして、70歳になった時に、八木千代さんのおっしゃる「川柳さん」に恩返しをしなければならぬと思いついた。

とくかく、川柳の楽しさ、面白さを素人さんに伝えたい。その一心で「新人教室」を企画した。生徒は20人限定。なのに、それ以上集まって驚いた。そこに、コロナの野郎だ。

それから、3年。ようやく、この9月から、再開しようと密かに企んでいるが、さて、吉と出るか、凶と出るか。大吉なんていない。和夫さん同様、末吉でいい。いや、末吉こそが僕の望み。

▼三時です塩まんじゅうに茶で過す 照枝
これでは、そのまんま。少し、川柳味を加えたい。こは、主役に「塩まんじゅう」を擬人化して（お客さまとして迎えて）、

▽三時です塩まんじゅうに茶を入れる
種々の塩各地産地の味がする ひとみ

これでOKだが、やっぱり弱いので、
▽種々の塩産地産地の味がする

▼夏日和塩分補給身体呼ぶ (澤)良子

「身体呼ぶ」が、あまりにぎこちない。こはサラ一っつ。

▽塩分補給忘れちゃならぬ夏日和

▼退院し臆病になる塩加減 次郎

これでOKだがこれではどうか。僕も悩む。

▽退院し慎重になる塩加減

▼少々で味決める塩は魔術師 誓子

「塩は魔術師」は、魅力的なフレーズだが、なにせリズムが悪すぎる。さて、どうしたものかと思つたら。隣にこの句があつた。

▼海の味ドラマチックな泪味 誓子

同じ作者のことをばを借りて、上が重くなるが、

▽塩は魔術師ドラマチックな味になる

(○)は佳句。◎優秀句)

○そうだよねくやし涙はしょっぱいね

不二夫

優しく語りかけてくれると、ますます涙は止まらなくなるんだよねえ。

○塩出しと煮付け加減の鯨蕎麦 閑

鯨蕎麦は、関西のメニューですよ。青森県では馴染みがない分、関西に行ったら一度はと思うが、関西に行ったらやっぱり「うどん」食っちゃうもんなあ。

○心配をしても息子は塩対応 のぞみ

「塩対応」は、新しい言葉。「広辞苑」には載っていないが、川柳人たるもの、好奇心旺盛。世間に敏感でいたいものだ。

○見えぬふり聞こえぬふりの蝸牛 えみこ
カタツムリの大敵は塩——ということだろうが、それは連想ゲーム。「塩」の題で、この句は取らないという選者もきつという。ただ、僕は、題より句。いい句は、いい句。

○減塩が頭の隅に座つてる 百合
笑った。減塩の擬人法？が面白い。

今月の卒業生は、尾道市の村上和子さん。和子さんの3句は、それぞれが個性的——つまり、視点が違っていて——素晴らしい。そして、字もきれいだ。これもいつも言うことだが、これ結構大事。読み手が読みやすいことは勿論だが、それ以上に、作者が丁寧に書くことで、句を大事にしていることが読み手（選者）に伝わるからだ。

◎薄塩に慣れて気弱になつてゆく 和子
薄塩と気弱の組み合わせがユニーク。傑作。

○塩飴と水で乗り切る熱中症 和子

○盛り塩がお久しぶりと招き入れ 和子

川柳塔鑑賞

同人吟 早川 遡行

— 8月号から

良心を試す無人の販売所

中 島 一 彌

橋の名を想う八つ橋食べながら

栗 原 道 夫

京都へ行けば必ず買つて帰る八つ橋、
琴の形をしたせんべいのようなもので一
説には江戸初期、近代^{そうきよ}箏曲の開祖八橋^{やっはしけん}檢
校に由来する。「雲井の曲」「六段の調」
などよくし、中でも琴の調べとしては激
しい「乱」があり、好きな曲である。

眉間の皺まだ人間ができてない

大久保 眞 澄

すぐ感情が面に出て、人を不快にして
しまう。そのうえ一言が多い。ひと呼吸
おいて人間大きくなってほしい。

百均でいらぬ物を三つ買う

平 井 美智子

百均で無駄買いした句は沢山あるが、
この句の面白さは、三つ買う、にある。
どうして三つなのか、二つでは当たり前
すぎるし、四つでは作りすぎ。となる
と三つは動かない三だといえる。

幸せを装い友へ出す手紙

小 野 雅 美

幸せを装う、ということとは幸せでは無
いということでしょうか。まあいいでしょ
う。親しい友には、いい主人であり子供
たちであると知らせておこう。

生きている合図カーテン全開に

福 西 茶 子

独居老人とは、一人で日常の生活をし
ている高齢者を指し、六人に一人いると
言われている。行政、地域、で見守り支
援やサービスを積極的にやっているが、
まだ利用しない高齢者が多い。これ等の
支援を積極的に活用することが望まれる。

ブチトマト産地は庭のプランター

木 田 比呂朗

コ罗纳自粛の折、プランターでの野菜
作りが流行っている。ペランダで大した
世話もなく育てられるブチトマトなど
人気があり、収穫が楽しみである。

監視カメラには財布を出すところだけ
見せ、あとは背で隠し、商品を持ち去っ
ていく犯罪が後を絶たない。こうした常
習犯を黙って見過ごす訳にはいかない。
農園では、高級マスカットや収穫間近
の桃が大量に盗まれるという事件も多発
している。悲しいが、人間を決して信じ
てはならない。

かわいいと植えたドクダミ今 仇

稲 見 則 彦

時に茶花として使われるドクダミ、別
名十葉、その名に似合わず可憐な花を咲
かせる夏草。じめじめした家境などに叢
生。半夏生、ホオズキなどと同じ地下茎
を伸ばし、いったん植えると手に負えな
い植物。植えるときは特性を充分理解し
てないと後で後悔することになる。

いい汗を掻いた男の力瘤

太 田 昭

男はたくましくなければいけない。一
連の男の句、どれも力強いものがある。
いい汗を掻いた後飲む冷えたビールの
旨いこと。男の特権でもある。

居酒屋の前で嬉しいにわか雨

内藤 憲彦

雨で飲み、雪で飲み、付き合ひも仕事だと言つては飲んで帰る。雨宿りのため居酒屋へ駆け込んだ、なんて見え透いた嘘も平気で言えるようになれば相似の夫婦。迎えに行かなくてもいいだけ助かる。

墓石が手をだしそうな酒供え

奥村 五月

飲んだくれ? の故人がこよなく愛した銘酒。墓石が手を出しそうな、この見付が面白い。

私が墓主だったら本当に手を出すことだらうよ。それにしても好きな銘酒を忘れずに備えてくれる家族がいるなんて、幸せな男よ。

もう値上げしか無いんですすみません

松岡 篤

高くても買わなきゃならないんです生きるため。売る方も買う方も、もう限界のところまできてしまった。給料も年金も其の儘で、どうやり繰りすればいいのか、日本はこれからどうなっていくのか、どう舵取していく心算なのか、国会議員の皆さんに向かつて問いかけたい。

足踏みで青信号を待つている

廣田 和織

ジョギングの途中ですか。人間は足から弱っていくといひます。ボケ防止の川柳とともに、せいぜい頑張つて長生きしてください。

自肅開けたたんだ羽が開かない

佐々木 満作

もう三年も続いている自肅。開けたと思つたら途端に凄いのが第七波、どうなっているの。元氣なうちに温泉旅行へ行つて死ぬか、このまま自肅して逝くか、二者択一を迫られているような。だったら前者を取つた方が賢い選択かもしれぬ。

仲の良い夫婦が仲の良い喧嘩

嶋田 明紀

わたしの兄夫婦も人前を憚らず年中口喧嘩? していました。傍から見れば喧嘩のようでしたが、夫婦の仲はそれで保たれていたような気がします。

わたくしの森へ年間バスポート

斉尾 くにこ

いい川柳がたくさん作れる森。川柳塔という大きな森があります。同人というバスポートもあります。

フーチンと仲良しだった頃もある

細田 裕花

狂気のフーチンと、かつては親友だった安倍晋三元総理。非業の最期を遂げて帰らぬ人となつてしまった。安倍元総理を嫌いな人も多いが、日本の国際社会での発言力、G7、G20、での影響力を持つようになったのも安倍政権の外交努力の賜である。それを想うと国際社会に及ぼした安倍晋三の功績は大きい。

信仰の神が違つて噛み合い

山口 高明

日本のように信仰の自由が認められ、他宗教が仲良く生活できている国は珍しい。凄惨な戦争はウクライナに限らず世界中で起こっていることを我々は知らないだけで、人間は恐ろしい生き物である。こんな世でも未来があつてまだ死ぬ

こんな世でも未来があつてまだ死ぬ

小畑 定弘

世界を震撼させたコロナウイルス、第三次世界戦争にも発展しかねないウクライナ情勢、安倍晋三襲撃事件、追い打ちをかけるように物価高と、お先真つ暗。芋を齧つてでも生きようとした敗戦の苦しみを思い出す。戦後七十余年、日本の平和はそういつまでも続く訳がない。

水煙抄鑑賞

— 8月号から

斉 尾 くにこ

一行だけ蛍光ペンを引く手紙

滝 井 えみこ

お手紙を開いたとき一行にだけ蛍光ペンが引かれていたら、うっ? と読むとき一瞬迷うでしょう。時効の挨拶から読むか。蛍光ペンから読むか。さて

サマーカット犬のついでに私も

山 野 双 葉

夏本番を迎える前に愛犬のカット、その爽やかになった姿を見て、では、私もと美容室。「サマーカット」の清々しさと「ついでに私も」の微笑ましさと。

こんなにやくが教える箸の使い方

中 島 通 則

確かに「こんなにやく」は掴みどころがないように思いますが、箸の使い方を教えるとは普通思わない。ちよつと笑えてなんかペイソスもあります。

雨の町口を閉ざした家はかり

今 村 和 男

ふる里のテールランプは仄暗く

原 徳 利

雨の町も「街」ではなく「町」なので高齢化の進む活気のないけれど穏やかな暮らしのある町なのでしょう。また、テールランプの仄暗いふる里も「雨の町」とそう変わらない営みがあるのでしょう。都会の華やかさとは違う人としての暮らし。

土日祝退屈ですというポスト

吉 道 あかね

納得の一句です。土日のポストは確かに退屈そうにお口を開けたまま立っています。郵便受けを通りすがりに覗いても一言「ひま」と言います。

スクワット筋肉貯金に励む日日

穂 口 正 子

「筋肉貯金」がいいですね。筋肉も貯金ができるんだ。「励む日日」の前向きな姿勢にも励まされます。

ナイシヨ話ホタルブクロに詰めておく

郷 田 み や

蛍袋に収まるくらいの内緒話はお喋りのスパイスでしょう。

美しい海の底にもあるバトル

岡 本 余 光

海は春夏秋冬、青の色、波の音を変え私たちを魅了してくれます。でも見ているのは海の表面のみ。その中では生きものたちの命の攻防が昼夜を問わず繰り返されているのです。人間界もあるいは。

鸛鵲飼うひとり芝居のエピローグ

月 波 与 生

オウムはものまね上手で人の言葉も話せます。でも理解をして話している訳ではないので会話は成立しないでしょう。「ひとり芝居の終章」にはオウムがお手頃なのか。社会的役割を果たした後は、異論反論言わないオウム返しのためのペットがいいのでしょうか。でもそれはきっと作者のアイロニー。

真つ直ぐな愛を持つている子のミット

喜 多 村 正 儀

「持つている子」はミットを持つている子か「真つ直ぐな愛を」持つている子かで微妙に違いますが、前者の方だと思いたい。全力でミットを構えている子へ大人として「真つ直ぐな愛」を投げ込みたい。ストレートでストライクを。



昭和という時代(3)

歴代の元号の中で一番長かったのが「昭和」の62年ですから、単純に「昭和生まれ」と言いましても、現在96歳から33歳まで、実に祖父と孫という世代の違いがあります。

そのようなことから、第二次世界大戦に対する思い出も、「満蒙開拓青少年義勇軍に加わった」という人から、「戦争のことは教科書で習った」という人まで様々です。

人間魚雷あゝ昭和史のすすり泣き

昭和史の中ほどにある海ゆかば

昭和史が墨絵のようにぼかされる

昭和史を語ると沈めない夕陽

昭和史の大きな傷がまだ痛む

かたくなな僕に残っている昭和

脳みそに昭和の名残留めてる

第二次世界大戦の局面の一つ「太平洋戦争」は、昭和16年

12月8日、日本海軍による真珠湾攻撃から始まりました。そ

して、昭和20年8月15日に無条件降伏。この戦争と敗戦によ

る深手が62年間の昭和史の中でも最も苦しい日々でした。

80歳以上の人でしたら、戦後の食糧難のことが思い出され

るでしょう。いや、それ以上に、召集された父の帰還を待ち

ながら、遂に叶えられなかった人もおられるでしょう。

子等消えてボツリと点る昭和の灯

路地裏に落ちている昭和の名残

栗田 忠士

板垣 孝志

柿花 和夫

太田扶美代

竹治かし

丹下 凱夫

石澤はる子

第二次世界大戦の局面の一つ「太平洋戦争」は、昭和16年

12月8日、日本海軍による真珠湾攻撃から始まりました。そ

して、昭和20年8月15日に無条件降伏。この戦争と敗戦によ

る深手が62年間の昭和史の中でも最も苦しい日々でした。

80歳以上の人でしたら、戦後の食糧難のことが思い出され

るでしょう。いや、それ以上に、召集された父の帰還を待ち

ながら、遂に叶えられなかった人もおられるでしょう。

子等消えてボツリと点る昭和の灯

路地裏に落ちている昭和の名残

昭和が貌を出すふる里の隙間

ジャリジャリ踏めば昭和の砂利の音

押入れに昭和ぎつしり詰めてある

ノスタルジア昭和の匂う水彩画

昭和生まれ「勿体ない」が口に出る

路地裏にボツンと点る街灯を眺めながら、一緒に走り回っ

た幼馴染の声を思い出しているのは高齢になった証でしょう

か。久しぶりに帰省すると、古いアルバムを捲るように、畦

道や氏神様の境内などに懐かしい顔が浮かんできます。

元氣な内に身の回りをスッキリ整理したいと思っています

が、昭和の匂いや思い出が詰まった品々を手にするたびに「勿

体ない」が邪魔をしてなかなか捗りません。

カルピスの響きも味もまだ昭和

昭和一桁計算尺が使えます

断捨離が僕の昭和を消して行く

処分した昭和の服が今流行る

紅白が昭和を遂に切り捨てた

思い出は昭和平成花盛り

堂々昭和のままで生きている

笹重 耕三

石田 孝純

成田 雨奇

門村 幸子

高岡 茂子

カルピスの生みの親は僧侶出身の三島海雲で、大正8年に

発売。まさに昭和と共に歩んできた乳酸菌飲料です。

また、計算尺は昭和38年頃にピークを迎えましたが、電子

計算機が普及してきた昭和45年頃から衰退。「計算尺が使え

る」というだけで年齢が推定できそうです。

昭和の終焉から今年で33年になります。昭和の思い出が

いっぱいという人は、55歳から上の中老年でしょうが。

初代 正彦

上田 和宏

堀 正和

富永 恭子

池田 美穂

前田恵美子

宇都宮ちづる



(投句189名)

この原稿を書いている時に四回目のワクチン接種の書類が届き、ウンザリしているところだ。



あと何回こんなことが続くのかと思ひながら、またすごく増えだしたコロナ感染者の数が気になって、仕方ないな、と諦めの境地。
東北をはじめ大雨の被害も続出、関西はこれでもかと言うほどの猛暑が続く、そんな中でテレビから聞こえた風鈴の音に一瞬の涼を頂き、救われた思いでした。
では、ナビを。

和歌山市 定松 宏枝

警戒のアラート真つ赤日本地図

(評) ホント、熱中症やら、降水量やら安全な所ってどこなんでしょう。他人事と思つていたら明日は我が身かも。

大阪市 石田 孝純

そんなんですマスク外せばこんな顔

(評) マスクを付けた顔しか知らない人も

けっこう多くなつてしまいました。こんな顔つて思われるの恥ずかしー！

奈良市 山本 昌代

湧れてくる話へ耳もでかくなる

(評) ン、知つた人の話かな、えー、それつて私のこと言うてるんと違ふの？ ますます耳、大きくなつていきます。

大阪市 岩崎 玲子

考える公衆デング大切と

(評) 震災の時もそうでしたね、携帯が繋がらず公衆電話に行列が出来ていました。今回の通信障害も同じ光景が。

西宮市 西口いわゑ

コツコツがジャンプか君に任せよう

(評) 地味にコツコツやるか、それとも派手にジャンプして人の視線にさらされるか、うーん、どうしましょう。

岡山市 永見 心咲

どうしても左のピアスだけ落とす

(評) ピアスって普通は落ちないはずだけど、何で落ちるの？ それも左だけなんて、でも、ミステリアスでステキ！

明石市 穂谷 和郎

糠床のように掻き混ぜたい頭

(評) 出来る事なら掻き混ぜればスツキリするでしょうねえ、ア・タ・マ。その上に発酵が進めばもつと賢くなれそう。

神戸市 上田 和宏

捨てたいと勿体ないの分かれ道

(評) 断捨離に励んでいるお方からよく聞

くお言葉です。育つた時代に邪魔されてなかなか捨てられませーん。

大阪府 大浦 福子

私には過ぎたお方と断わられ

(評) こんな断わられ方、一番キツイですよ。ハッキリ言えよ、好みじゃありませんってね。

米子市 妹能令位子

夕焼に忘れたいことむくむくと

(評) 忘れたいことほど湧き上がつて来るんです、雲のように。夕日の赤さが目に染みそうでセツナイわ。

米子市 八木 千代

夏帽子売り切れました飛ぶように

巻きついたままで半端な足の位置
一生涯わすれませんかよくもまあ
難間が同心円のまま迷路

尾道市 小川 道子

富田林市 山野 寿之

広島市 羽城 裕子

大阪府 榎本 舞夢

夏祭転んで飴が欠けました

大阪市 榎本 舞夢

雨上りデンデン虫と紫陽花と

唐津市 仁部 四郎

貝ガラは捨ててもいいが踏まないで

豊中市 藤井 則彦

待ち人が来ないといつもこんな顔

岡山市 大石 洋子

東大阪市

サザエさん家族を丸く包み込む

佐々木満作

箕面市

わたくしも右往左往と努力する

酒井 紀華

防府市

渦巻の蚊取り線香今どこに

坂本 加代

大坂市

大仏の指導を受けて座り込み

奥村 五月

榎原市

巻き戻しすれば幸せだった頃

居谷真理子

羽曳野市

物価高渦巻きパンは瘦せました

徳山みつこ

堺市

茶柱が毎日立って疲れます

内藤 憲彦

佐賀県

恋という魔物螺旋を深くする

真島久美子

岩国市

草刈りを終えて眠りについたら

上村 夢香

大坂市

全身であなただを守りたいのです

小野 雅美

弘前市

二坪の書斎がばくの太宇宙

高瀬 霜石

香芝市

脱ぎ捨ててとても身軽になりました

大内 朝子

松江市

芳一とゴッホに耳を借りている

石橋 芳山

箕面市

人生の回り道して強くなる

出口セツ子

神戸市

竜宮もコロナ自粛で門閉ざす

みぎわはな

大坂市

お祭りに一度スカートはきたいな

恵美

土佐清水市

また今日も時間の中に迷い込む

次根

大坂市

ひまわりが故障明日は雨でしょう

古今堂蕉子

河内長野市

自分史にヌメヌメ這った跡がある

弘光

大坂市

話声消えて空家の増えました

石橋 直子

枚方市

幸せは螺旋階段下りてくる

栃尾 奏子

大坂市

ボツボツと俺の頭も化石だな

江島谷勝弘

尼崎市

明日こそ明日こそはとかたつむり

藤田 雪菜

大洲市

向日葵にまだ成れなくて少し鬱

花岡 順子

三田市

朝一服味がその日のパロメーター

大西 重男

奈良市

これしきで目を回したらあきまへん

大久保眞澄

箕面市

「えっ大豆」代替肉のハンバーグ

川本 信子

明石市

女子会の閉会までの口達者

瀬島流れ星

三田市

競馬場左回りや右回り

堀 正和

松山市

二億年眠り続けているのです

栗田 忠士

大坂市

私なんかなんかとおつくもバフェ

岡田 恵子

米子市

上向いて夜明けの歌を唄おう

後藤 宏之

大坂市

僕を目がけて矢を放つたら困ります

井丸 昌紀

可見市

そのうちになんとかしたい墓仕舞

板山まみ子

箕面市

同じ人嫌いを知って盛り上がり

長尾 千賀

河内長野市

日時計にしては目盛りが多すぎる

大島ともこ

大坂市

安全な場所はどこかにありますか

高杉 力

三原市

悩むのはよそうよそうとまた悩む

笹重 耕三

宝塚市

高らかにホルンが響くキツネ狩り

岸田 万彩

大坂市

飛鳥人ささやき合っている壁画

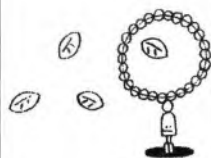
若本 安代

和歌山市

まいまいは右朝顔は左巻

佐藤 まき

11月号発表 (9月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳篋に2句

本社 八月句会

◇八月十日(水)午後一時
アウイーナ大阪

連日の猛暑に加えて、コロナ第七波真つ只中の10日、本社句会は、97名(うち投句者27名)の参加で開催された。初出席は奈良市の東定生さん。

今月のお話は鈴木いさおさん。題は「本社句会に見るユーモア句Ⅲ」。Ⅱから4年、コロナ休会もあり、実質2年、約7000句の本社句会入選句から、この間に故人となられた方の句も含めて、選りすぐりのユーモア句100句余りをご紹介いただいた。ユーモア句を生み出すのは勿論作者だが、入選句の中のユーモア句の割合を見ると、生まれやすい題があるのも現実のようである。

では、いさお選ユーモア句3才を

- ①養毛剤あげたら白髪染呉れた 玄也
- ②ブラをはずすとおかわりができる 千代美
- ③天今のところ妻は一人で足りてます 郁夫
- ④ガラケーのどこが時代遅れです いさお

と、自らのユーモア句で締めくくられた。楽しいひと時でした。

月間賞は片岡加代さん(大阪市)

(司会)隆彦・真理子(協取)恵・勝弘

(受付)旅人・かずお(懸垂幕墨書)耕治

(清記)憲彦・勝弘

席題「間」

内田志津子 選

男女間近いようでも遠い距離

油谷 克己

初盆の母をもてなす畳の間

藤田 雪菜

助けてと叫ぶ間もない土石流

山本加お里

パパママの間取り持つ一人っ子

居谷真理子

仲の良い夫婦も守るディスタンス

鈴木いさお

妹が眠る隙間に母の膝

島田 明美

アスファルト隙間に咲いた白い花

斎藤 隆浩

キミとボク間取り持つお犬様

山野 双葉

旅立ちの荷物の隙にブーメラン

阪井 恵子

冥途まで時間を稼ぐスクワット

山野 寿之

間の抜けた顔がみんなを朗らかに

青木ゆきみ

人生なんてほんの居眠りする間

西出 楓楽

宗教と政治の間揺れ動く

八木 幸彦

ウィルスに間引きをされる高齢者

奥澤洋次郎

つかの間の幸せ 君と日向ぼこ

鈴木 かこ

給食は間隔あけて黙食で

大浦 初音

晴れ間からチラと線状降水帯

吉村久仁雄

隙間風少しずらしてミカン剥く 伊達 郁夫

間を詰めて友と握手のできる日を 坂 裕之

この間と十年前を言う卒寿 水野 黒兎

ばあちゃんとはくの間にミケが居る 山田 耕治

ビルの谷間で意地が暖簾を守ってる 柿花 和夫

もうちょっと離れてほしいディスタンス 江島谷勝弘

手間ひまをかけても不味い男飯 石田 隆彦

五十年仲良し夫婦にもスキ間 片山かずお

女房の得意料理は間に合わせ 青木 隆一

老いの恋命みじかし車間距離 酒井 紀華

閻魔に会う時間稼ぎに飲むクスリ 大久保真澄

鉄壁の三遊間に出たエラー 油谷 克己

間延びした返事に活を入れたいな 青木ゆきみ

束の間のわたしの夏が消えていく 中村 恵

居留守して窓で目が合う間の悪さ 原田すみ子

夫婦の間秘密ないのも味気ない 山下じゅん子

時どきはすき間と喋るおばあちゃん 柴本ばつは

つかの間の平和に飢えるウクライナ 吉村久仁雄

絶妙の間こそ名人芸である 森田 旅人

行間に汗染み出てる父の遺書 稲葉 良岩

佳 出発は六畳一間妻と僕 平賀 国和

君と僕とても素敵な間柄 能勢 良子

釈明の間合いにちよっと咳払い 初代 正彦

行間に母の思いが溢れてる 藤井 宏造

幸せが入る隙間は空けてある 平井美智子

人

どうしても真似が出来ない恩師の間 小島 蘭幸

地

行間に思慕がにじんでいる手紙 平井美智子

天

阿と伝の間に人は喜怒を生き 水野 黒兎

軸

東の間の暑さを凌ぐ富士登山

兼題「お金」 ひとつこみつ 選

駄菓子屋が思案始めのお小遣い 萩原 狸月

お金さえあれば選挙に出てみたい仁部 四郎

孫に出す出世払いでよい学資 北野 哲男

永遠の謎税金というおカネ 仁部 四郎

回りのものらしいがとんと縁がない清水 英旺

借金もお金の内と見栄を張り 松岡 篤

あげたつもりで金を貸す人いませんか 今村 和男

余るほど無いけど今を生きられる 黒田 茂代

日銀といえどもカネに苦勞する 清水 英旺

お金なんてお金なんてと手を出して 上田ひとみ

まあまあ暮し維持する小金持ち 上田ひとみ

人生を狂わす大金は要らぬ 緒方美津子

年金が支給される日よく喋る 伏見 雅明

使いながら貯まるやり方ないものか 今村 和男

口だけの同情いらん金をくれ 八木 幸彦

へそくりも元はと言えばオレのカネ 中岡千代美

タンス預金頼りに老後生きている 平賀 国和

イケメンよりも愛愛よりもお金 鈴木いさお

一円はお金一億円はカネ 居谷真理子

戦争にお金を使うのはやめて 川端 一步

拾おうか通り過ぎよか五円玉 島田 明美

金と寿命同時に尽きる策あれば 山野 双葉

カタカナで書くと汚れたカネになる 片岡 加代

金持ちの苦勞を一度してみたい 西出 楓楽

戻らぬと思つて貸せと亡母の声 桃谷 和郎

困らない程度にあれば良いお足 山野 双葉

千円を返してくれと言えぬまま 島田 明美

寝る前にお金数える癖がある 鈴木いさお

日本はトイレ只ですきれいです 山田 耕治

献金は一億淋しいことです 小島 蘭幸

捨てるにもお金いるから置いたまま 斎藤 隆浩

保険金生きて受ける有難さ 平賀 国和

全財産出して不幸を買う信者 吉村久仁雄

貯まるほど使うの惜しくなるお金 藤田 雪葉

年金日満場一致上にぎり 内田志津子

金は天下のまわりものアレはウソ 江島谷勝弘

逝くときは川柳塔に全部寄付 山崎 武彦

住 神仏も要るらし音のせぬお金 北野 哲男

札束の憎さいとしさ頼もしさ 萩原 狸月

健康もお金の力ちよつと要る 青木ゆきみ

金やない言う君たぶんお金持ち 稲葉 良岩

母ちゃんをちよつと揺ると出るお金 柴本ばつは

人 怖いものなしポケットに五万円 新家 完司

地 めでたい時悲しい時もあるお金 柴本ばつは

天 国民はみなさん自費で葬儀する 江島谷勝弘

軸 年金日焼肉行くと決めている

兼題「いつも」 藤田 武人 選

ヒロシマの時計はいつも止まってる 垣花 和夫

いつだって指を折つては五七五 山野 双葉

台風の日でも散歩をせがむボチ 谷口 東風

おめかしをするといつも吠えるボチ 初代 正彦

夏の昼いつもソーメン食べている 片山かずお

猛暑日が三日続いた日のカレー 石田 孝純

取りあえずいつものように中ジョッキ 東 定生

晩酌はいつも長女が測ります 仁部 四郎

いつも寝るところへ無事に千鳥足 北野 哲男

いつもより抜ける選者と馬が合い 瀬島流れ星

いつもなら気にしないこと気になった 青木ゆきみ

量減らし値上げしません何時もの手
マヨネーズカローリーハーフ倍使う
始発駅いつも隔つこ座る人

内藤 憲彦
藤田 雪菜

いつもよりきょうのあなたは美しい坂
佳
ハイポーズいつも遺影を意識する
宴会の帰りはいつも人の靴

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

川端 六点
山下じゅん子

伊達 郁夫
木嶋 盛隆

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

上田 和宏
石田 孝純

宇賀 史郎
山崎 武彦

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

桃谷 和郎
親父ギヤグ受けたらいつも同じネタ

高杉 力
逆転の発想脳はまだ若い

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

長谷川崇明
父の日はいつも素通りされている

小野 雅美
若くないけれどU・S・Jが好き

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

村田 博
気が付けば噂の二人姿消す

木本 朱夏
逆境に燃えた若き日の無謀

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

松岡 篤
女房にはいつも白旗あげるボク

伏見 雅明
寝るときもスマホ握ったままである

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

内藤 憲彦
悩んだらいつも初心に帰る僕

萩原 狸月
おはようといつもが通るランドセル

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

中村 恵
目指すのはいつも無難な平均値

津守 柳伸
若人の意気熱闘の甲子園

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

山野 寿之
下がり眉いつも笑顔のお人好し

青木 隆一
若者の言葉通訳要るくらい

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

斎藤 隆浩
おばあちゃんいつも最後に知らんけど

奥水 弘
若いなあ素直にハイがすぐ言える

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

山田 耕治
ときどきをいつもと言って叱られる

小野 雅美
若い頃描いた未来図を探す

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

藤村 亜成
いつもならここで必ず助け舟

山野 双葉
若い頃描いた未来図を探す

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

川本 信子
いい知らせいつもと違う靴の音

阪井 恵子
若い日があどけてきます甲子園

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

川端 六点
どんぐりはいつもストレスためている

鈴木 いさお
若い証握り背筋がピンと伸びている

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

吉村久仁雄
好奇心いつも寄り道して困る

片山 かずお
若い証握り背筋がピンと伸びている

お若いと言われスマホが放せない
老人を立たせる若いスマホ族
若いからとおだてられては役を持つ

とれとれのはやはやですと若夫婦 澤井 敏治
若造と言われた頃が成長期 青木ゆきみ

タコヤキもビールも旨いまだ苦い 新家 完司
六十年差がある孫とケンカする 江島谷勝弘

佳

まだ若い若いと呪文かけている 平井美智子

若葉マーク孫の車に白寿のる 酒井 紀華

老眼じやないと眉間の皺で読む 大久保真澄

あなたにはまだ分らない白湯の味 居谷真理子

噴火する揺れるこの星まだ若い 新家 完司

人

年金も欲しいが若い血もつと欲し 山崎 武彦

地

八月六日若い二人の宣誓文 加藤江里子

天

今が旬ふたびの無い今を生き 桃谷 和郎

軸

若返るエキスが詰まる灘の酒

兼題「ところ」

兼原 道夫 選

ところと居眠りさせる過疎のバス 恵利 菊江

水道がところとろ政府怪しいぞ 仁部 四郎

ところとろ煮詰めちゃんらぬ老いの恋 柿花 和夫

渋滞の先頭老いのマイペース 山野 寿之

片栗粉ところのために生きている 青木ゆきみ

亀よりもところとろ精一杯です 大久保真澄

毛糸玉ころころおあばちゃんところとろ 小島 蘭幸

ところとろに煮込んで夫手なづける 八木 幸彦

ところとろときびきび仲の良い親子 森松まつお

ところとろとやるから疲れ倍になる 油谷 克己

夫との散歩とろくで嫌になる 谷口 東風

ところとろに溶かし飲みこむ妻のぐち 古今堂蕉子

正解は三日遅れてやつてくる 石田 孝純

赤提灯脳ところとろにして帰る 内藤 憲彦

飯食うとやがてまどろむ至福時 石田 隆彦

ところとろと眠けを誘うシューベルト 能勢 良子

ところとろとするとき天国に居るとき 藤村 亜成

ところとろと喉を潤すところとろでん水野 黒兎

誤嚥せぬようにうどんとところとろと 新家 完司

口の端からところとろとろしみ出る野心 藤井 宏造

水蜜桃ところとろと熟れて愛になる 鈴木 かこ

東の間の眠りの中で逢えた君 島田 明美

ところとろに溶けてあなたを困らせる 木嶋 盛隆

煮崩れる手前で恋のところとろ火切る 小野 雅美

本命のチョコふところとろで溶けている 川端 六次

立ち話土産にアイス提げていた 大久保真澄

子が飽いたソフトクリーム持たされる 山田 耕治

別れましょ溶けたアイスは戻れない 宇都満知子

強火弱火母の火加減オムライス 石田 孝純

ところとろのオムレッツにエイツと完食 立蔵 信子

退屈がところとろしるる昼の月 伊達 郁夫

悠久の時ところとろと煮つめられ 宇賀 史郎

のどかな街をところとろボンコッ車で走る 藤村 亜成

ところとろと行こう轢き逃げせぬように 新家 完司

大阪の歩道でおばちゃんが煽る 藤田 武人

海治いを普通列車でしよう旅 立蔵 信子

半熟の月を肴に秋を酌む 中村 恵

佳

猛暑日にところとろ影が溶けている 水野 黒兎

ポタージュが好きで甘えるのが上手 高杉 力

ところとろでいいから燃えていてほしい 奥澤洋次郎

間違っではないないゆつくり進む道 居谷真理子

濁り酒独りで生きたと決めました 中岡千代美

人

納豆とオクラ山芋夏の恋 平井美智子

地

ところとろと平仮名ばかり書く日記 上田 和宏

天

各駅でところとろ進む私小説 鈴木 かこ

軸

ところとろになるまで猫を抱こうかな

兼題「自由吟」

新家 完司 選

一人だと鍋もお皿も乾いている 恵利 菊江

徘徊に忘れてならぬ保険証 仁部 四郎

ぼつちやりとぶよぶよとだけ連う
 としよりになつた私を影で知る
 百日紅咲いて誘う彬句碑
 今もなお刻む名のある原爆忌
 千羽鶴声を揃えて反戦歌
 反戦叫ぶステキを食べながら
 七夕の願いは二文字だけ平和
 発砲をバンクと思う平和ボケ
 滝の音ごめんなさいが掻き消され
 助けての声もかき消す蟬時雨
 アナログで生きた呼吸が楽だから
 膝のごきげん片足立ちで確かめる
 胡蝶蘭レンタルですが届けます
 紙めて見て初めて分かる蜜の味
 正直者となさに出ないおべんちゃら
 迷つてはいない顔だけしておこう
 目的の音が反対車線側にある
 組板の音もしつとり孫コナ
 罹らないためなら何度でも接種
 観光客大仏よりも事故現場
 月曜日待つ楽しみがあるポスト
 情けない男の句ならたんとある
 太陽もおひとりさまに耐えている
 泡盛の古酒をいただき神棚に
 肝心なところはかして今日の酒
 うれしいな術後五年も異状なし

上田ひとみ 川本 信子 谷口 東風 上田 和宏 村田 博 鈴木 かこ 山野 寿之 藤田 武人 斎藤 隆浩 宇都満知子 石田 孝純 山下じゅん子 伊達 郁夫 木嶋 盛隆 東 定生 立蔵 信子 大久保真澄 宇賀 史郎 鈴木いさお 山下じゅん子 酒井 紀華 高杉 力 居谷真理子 鈴木いさお 森田 旅人 江島谷勝弘

'22 きょうと川柳大会

日 時 11月12日(土) 午前9時30分開場
午前11時開会

会 場 京都労働総合会館 (ラポール京都)
2階 大ホール

参加費 2000円 (事前投句時に支払い済
みの方は、大会当日は不要)

事前投句 「雑詠」2句 (但し、未発表句に限る)
コピー用紙または原稿用紙等、1枚
の用紙に雑詠2句を縦書きで列記し、
郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、
電話番号を明記の上、参加費2000
円(現金または定額小為替に限定。
切手は不可)を添え、下記の大件事
務局あてに郵送のこと。
(FAXによる投句は不可)

事前投句締切 9月16日(金)必着。

事前投句選者 岩田多佳子 笠川 嘉一
富山やよい 井上 一簡

当日課題 (宿題) 各題2句・席題なし)

「時 々」	寺島 洋子	選
「父 々」	濱邊稲佐嶽	選
「入 る」	竹内ゆみこ	選
「ご ろん」	平井美智子	選
「油 断」	こうだひでお	選

当日課題の欠席投句締切 10月14日(金)必着。

欠席投句要領 上記の「事前投句」と同様に、
1枚の用紙に必須項目を記入し、作
品5題×各2句を(計10句)を縦書
きで列記すること。

◎事前投句及び欠席投句の郵送先 (お問い合わせもこちらへ)

〒606-8306
京都市左京区吉田中阿達町18 シオン6
'22 きょうと川柳大会事務局
中野 六助 宛
TEL 090-7107-2006

主 催 京都川柳作家協会

長男は二ト次男はバラサイト

佳

八木 幸彦

猛暑日も句会があつて起き上がる

軸

何もかも過ぎ去るまではダンゴムシ

中岡千代美

もう悪女には戻れない腰まわり

片岡 加代

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

手相みる易者人相恵かった

青木ゆきみ

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

ドア閉める音でもベントッドと分かる

高杉 力

炭鉱の跡地のような落選者

東 定生

白髪染めやめたら皺が魅力的

炎天下狭い日陰を譲り合う

伊達 郁夫

ばあちゃんにピンクの髭が生えてきた

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

居谷真理子

初盆の朝もトースト齧つてる

山野 双葉

山田 耕治

堂々と夜爪を切つて一周忌

島田 明美

柴本ばつは

仏壇の奥まで拭いて赦される

稲葉 良岩

平井美智子

炎天下狭い日陰を譲り合う

伊達 郁夫

居谷真理子

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

平井美智子

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

高杉 力

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

青木ゆきみ

何もかも過ぎ去るまではダンゴムシ

中岡千代美

片岡 加代

長男は二ト次男はバラサイト

八木 幸彦

猛暑日も句会があつて起き上がる

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

青木ゆきみ

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

高杉 力

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

平井美智子

炎天下狭い日陰を譲り合う

伊達 郁夫

居谷真理子

初盆の朝もトースト齧つてる

山野 双葉

山田 耕治

堂々と夜爪を切つて一周忌

島田 明美

柴本ばつは

仏壇の奥まで拭いて赦される

稲葉 良岩

平井美智子

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

平井美智子

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

高杉 力

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

青木ゆきみ

何もかも過ぎ去るまではダンゴムシ

中岡千代美

片岡 加代

長男は二ト次男はバラサイト

八木 幸彦

猛暑日も句会があつて起き上がる

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

青木ゆきみ

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

高杉 力

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

平井美智子

炎天下狭い日陰を譲り合う

伊達 郁夫

居谷真理子

初盆の朝もトースト齧つてる

山野 双葉

山田 耕治

堂々と夜爪を切つて一周忌

島田 明美

柴本ばつは

仏壇の奥まで拭いて赦される

稲葉 良岩

平井美智子

炭鉱の跡地のような落選者

稲葉 良岩

平井美智子

ここが好きリッチな街の裏通り

内田志津子

高杉 力

壁障子すり抜け陰口が届く

大久保真澄

青木ゆきみ

何もかも過ぎ去るまではダンゴムシ

中岡千代美

片岡 加代

わんぱく

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

一片に土器から卑弥呼話し出す
甲子園の土を踏むのが夢だった
土紙めてもう来年の菊づくり
シベリヤの凍土に今も眠る叔父
泥んこで笑顔さらさら土だんご
腐葉土のベッドは地球の命生む
自慢げに土付きを売る道の駅
春が来て土から命顔を出す
汚染土が袋の中で処分待つ
コロナ禍で商売ならず土俵際
通学の遠い思い出土の道
魂が眠る焦土の待つ平和
我が家には土と遊べる庭がある
土壇場で逆転をする粘り腰
ガキ大将の匂いを撒き散らせ
手と足の一句に賭けていた命

香代 珠一 歩 みつ江 昌代 はこべ 眞澄 喜代志 義泰 裕之 達彦 恵子 彦弘 康信 ふさゑ ダン吉

定年後遊ぶつもりが医者通い
野仏が好きな子供の遊ぶ声
遊び上手嘘も上手についている
年金で遊び暮らしている平和
浮雲に遊んでもらう失意の日
遊ぶ子の声の聞こえぬ五連休
定年後土の匂いを嗅いで生き
鼻唄で動き出す朝米を研ぐ
さわやかな青空ハミングも弾む
コロナ禍と戦ハミング影潜め
ハミングの後が恐そう妻を見る
ハミングをしている心地よい風に
群青の空へハミングして帰る
ハミングをすれば笑顔がついてくる
花むしろ大の字になり空見上ぐ
三振で試合終了天仰ぐ
八村と立ち話して痛い首
巣ごもりにハミング交え庭いじり
夕焼けと遊ぶ子供らしい子供

翠洋会(大阪)

原田すみ子報

はつたりの中に気弱が見え隠れ
旅の友マスクにスマホあと地酒
もろ手あげ賛成出来ぬ軍拡費
キムタクもいいがやっぱお父さん
念願に苦が生えたが諦めず
コロナ禍で勤務の在り方が変わる
その場所に行けば友おり歩が弾む

和美 穂夫 理恵 世紀子 航太郎 敏治 玄也 睦子 いさお 朝子 常男 信子 扶美代 恭子 節子 繁 万彩 勝久 ひろ子

若い頃寸暇惜しんでツカ通い
コンサート熱い余韻のファンレター
念願叶い有頂天なり転んでる
百円の念願に神頼まれる
マスク無し食べて喋ってクシヤミして
婆友揃い湿布貼つてる旅の朝
円高で両替すれば損をする
畏れ多くも上皇后様のファンです
押し車労るように青い風
家柄や学歴コロナ遠慮せず
あと少し翔べる翼を縫い合わせず
大物は小さいことで威張らない
エゴとエゴぶつけた戦エンドレス
八十路の迷路やさしい風に導かれ
猛暑日も日の入り待つて散歩する
苦勞話聞いていっそうファンになる
憧れのスターと共に老いていく
両手両耳フェイクニュースを見極める

川柳塔みちのく(青森)

稲見 則彦報

靴揃え嫁の値段を上げておく
三つ揃いで初出勤し大人顔
蟬しぐれ揃い過ぎですうるさ過ぎ
足並みが揃っているかアリの兵
足並みが揃ってほしい平和です
お揃いはカップル親子どちらでも
クラス会女子は全員まだ元気
気に入って揃えた食器箱の中

廣子 舞夢 弘子 眞澄 敬子 善之 理恵 志華子 行久 弘昭 富子 希久子 げんえい 江里子 義 すみ子 柳子 初枝 のぶよし 龍馬 真由美 久美子 規子 ふさゑ

五体満足あとは不平を申しません
 お数など揃わなくてもまず一杯
 八〇二〇揃う幸せ囁み締める
 久しぶりコロナ乗り越えハグしましょ
 和洋中揃い踏みするバイキング
 元旦にやっと揃った親子孫
 借りた金に耳があるとは知らなんだ
 梅雨寒に豆の発芽が揃わない
 絵つこり孫モホモと手札見る
 兵隊の足並揃う嫌な世だ
 揃う迄薔薇酒の夜は続きます
 バスツアーあいつが居れば皆揃う
 欧・米・中揃ってこそ包囲網
 ラインダンス今夜はレタスナストマト
 白發中揃ったところで目がさめる
 イブの夜息子と二人鍋つづく
 義理少し斜めに入れる熨斗袋
 支えあうてる葉っぱは根根は葉っぱ
 夢という不老長寿の飲み葉

城北川柳会(大阪) 近藤

美鈴 重虎 洋子 孝子 風来坊 義明 英子 隆樹 ひろ ひとし 和香子 慕情 霜石 吹喜 澄彦 花峯 一呑 正報 万紗子 福貴子 郁夫 一步 捷二 野鶴 北舟

値上げせず量を減らしてすまし顔
 白黒をつけない人の思いやり
 シヤカコライニエスカシコミ人救う
 どん底を救ってくれた妻の笑み
 老後です節約止めて無駄遣い
 白じらしい嘘も見透かしでも夫婦
 ブーチンに一番遠い色は白
 減税論国家予算に触れもせず
 メールには真つ赤なハートひとつだけ
 救いようないバカだから放つとけぬ
 み仏の慈悲に魂救われる
 前向きに生きよう今朝も紅をひく
 コロナ禍の無聊を救う趣味ひとつ
 コスタマイズされて白無垢七色に
 妻の留守豆ビールで生き延びる
 蛸壺を我が家と思っている蛸
 文通費いっせ無くしてさっぱりと
 樟脳に昭和を偲ぶ衣更え
 子等の声頭のでっぺんから夏
 やぶの中はつぼつ出ねば老けていく
 名人の一味違ふ所作と形
 さくらんぼ摘まみ少女に戻る妻
 孫からのメール絵文字の花ざかり
 告白も別れもメールなんだって
 進化進化人は姑息に堕ちてゆく
 日日修業墓への道を掃いている
 人道回路うたつておびきだすサタン
 何時までも痛み忘れぬウクライナ

実 杵香 隆一 廣光 峰子 千恵子 満知子 正彦 克己 朝子 賢子 俊雄 榮子 和夫 宏造 義明 黒兎 千賀 恭子 満作 星雨 かずお ゆきみ 志華子 信子 隆子 ルイ子

栗田忠士選

シベリアは飛ばず迂回の渡り鳥 武人
 踏み出してみよう今しかない今に(久) 千代
 無駄と書く延命措置の遺言書 寿之
 仕事に行ってるの呑みに行ってるの 意彦
 履歴書に興味は仕事と書く無趣味 武人
 門灯が点いてる待ってくれている 雄大
 絶対に例外はない命の灯 祥昭
 聞いてきた話へちよつとふくらし粉 邦男
 ふてくされ蹴った小石が跳ね返る 千鶴子
 週三日元気を植えてある畠 哲男

佳句地十選

(8月号から)

藤井寿代選

さとうきび畑が揺れた五十年 芳光
 戦争のニュース桜は満開で 貞子
 バンジーをつぶして戦車ひた走る 德利
 風船はチャンスとばかり空を飛ぶ すみれ
 反戦を詠うエンピツ涙ぐむ 優子
 妻の留守もうそれだけで胸躍る かずお
 半分は私のもとの妻の乱 正博
 妻と言う危険な地雷今日も踏む 晋一
 太陽は背を押す月は聞き上手 美津子
 電子音に囲まれ風は無表情 (沢)和子

今日は西明日は東散歩道

坂上り出来るが出来ぬ逆上がり

夫唱婦随が婦唱夫随になつてきた

小心で臆病者が凶器もつ

心持ち今年はずんだお年玉

父の背は越せたが心越せられぬ

本心を聞き出すまでに要るお酒

能天気細かなことは知らんぶり

心中に風穴開けた友の計よ

安心に眠れる夜を待つ地球

ウイルスが狙うしよほんととした心

花畑でした心の一区画

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

石花葉 照彦 芳光 岳人 龍枝 美知江 紀の治 大鯨 節子 紀子 完司 くにこ

夕焼けを仕舞い忘れた浜の小屋
赤信号完全無視の独裁者
赤パンツ力が湧いてくるそうで
鯉のぼり三万人の赤に酔う
花育や三万鉢の平和の祈り
同級生とばつたりあらま杖と杖
運動会我が子間違えビデオ撮る
戦争よコロナよ事故よと生きている
四年振りつばめ夫婦の里帰り
迷つてもいいよ自分で開くドア
たべてすぐねたら牛になるんだよ

小一沙 弥 史子 初音 貞子 歩美 厚子 寿子 白狐 夢香 敬子

富柳会(大阪)

山野寿之報

小一 央

茂る程頭を垂れていく矜持
いやいやと言わずニッコリ出来
風ぎの海群青に待つ戦後処理
個から孤へこことさ深い真夜の月
自画像はバーツの欠けた自信作
突然の宣告足が震え出す
徳積んで積んで築いた人間味
トンネルをいつきに抜けて夏の顔
二年ぶるかすかに聞こえ宮太鼓
ママもイヤババもイヤイヤブリン好き
初孫にすりすり顔をそむけられ
作句する前頭葉のストレッチ

富柳会(大阪)

山野寿之報

渾身の声振り絞り反戦歌
雑草が勝手気ままな休耕田
母を看る微笑み返し平和な日
夕焼けは戦禍の如く車椅子
シャキシャキと取り立て野菜喋る卓
幽玄に揺れる炎が月を裂く
言の葉を生い茂らせる広辞苑

涼子 隆充 和雪 きよみ 章子 勝矢 寿之

欣之 一文 常男 あかり 和子 由夏 壽峰 かこ 正義 高鷺 武人 惠

年会費無料で増えてゆくカード
無料と言う裏で出してる赤い舌
無料には訳あり潜む深い意味
無料券ゲット想定外を買う
天国はきつとどこでも無料パス
針に糸通すの止めてミシン縫う
終章でびつたり合つた赤い糸
糸くずを取つてお喋り弾み出す
絡み合う糸をばつさり削除する
口元のチャームングなる糸切り歯
たくさんの糸で私も操られ
糸を紡いだ野麦峠の娘たち
しがらみと言う厄介な糸がある
スプレーをする程あつた我が頭
スプレーアートシャッター街がカラフルに
スプレーの落書きの字がすねている
スプレーのように飛び散る滝しぶき
スプレーが私のほうに向いている
噴霧してあなたのアリのバイを崩す

保州 和宏 信勝 紀子 よしこ 富美子 佳子 晶子 節子 小雪 敦巳 大輪 光

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

わかやま吟社 小谷 小雪報

知香

少しずつ派手に変心我八十路
若返り派手に赤着て娘と勝負
施設でも心に派手さ生きている
負けても負けても応援団の派手
駆け落ち婚そんな先祖の墓守る
戦争はしてはならぬと忠魂碑
日本の歴史を誇る竹の町
ふる里に母の歴史を刻む墓
千年の歴史を刻む御神木
寄りたいね赤提灯を通り過ぎ
お役所の財布は赤字ばかり増え
わたくしも結ばれている赤い糸
赤ちゃんのほつてよ未来安らかに
オールマイティー赤チン塗っていた昭和

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

宣之 弘子 節生 蘭幸 輝恵 慶子 笑子 栄香 和子 日出夫 節夫 千代美 比呂子 昭紀

知香

川柳さんだ(兵庫) 酒井 健二報

もしかしてわたしと思いときめいて ヨシエ
 もしかしてそれはいいわねタイガース 徹
 もしかしてここで終わるかラブゲーム 和郎
 缶詰の頃が懐かしてレレワーク (高) 千賀子
 一ダース缶詰置いて妻の旅 敏夫
 缶ばかりたまに呑みたい生ビール 正和
 ドロップの缶が奏でる反戦歌 宏造
 柔らかい言葉で上手く断られ 紀恵
 募金した朝の空気は柔らかい 勝正
 語りかければ柔らかな笑み石地蔵 廣光
 堅物も押されりや凹む箇所がある 洋一
 人間の始め終わりの離乳食 修平
 ジャンプジャンプ若さあふるる少年期 敏子
 走る飛ぶ孫が我が家をかき廻す 裕康
 三途川ジャンプし損ね生き返る 三ツ代
 古希になり諦めました二重跳び 利子
 ジャンプする子の助走路を均らす親 哲男
 突き抜ける青空ジャンプ背を伸ばす 直美
 負けた悔しさ左脳にしかとインプット 美津子
 値切り方知って得する処世術 雅尚
 敗者には再選に秘む面構え 正彦
 小さくても負けるものとチワワ吠え 登志子
 勝ち目なし敵は学卒正社員 おさむ
 白旗をかかげる癖が治らない 哲夫
 負けまっせ商店街の量り売り 耕治
 僕折れて我が家はうまくいっている 宗鉄

その声で甘えられたらもうアカン
 男生が真つ赤なマスク負けました
 にらめっこ鏡にいつも負けてます
 AIに笑顔負けないアルバイト
 久し振り会った友もしわくぢゃに
 我が街にロシアにはないマツクあり
 三百万のメロシ届いて目が覚めた
 米寿前未だ死ぬような気がしない
 万全な明日の備えに爪を切る

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

蟻一匹巨木をのぼることく生き
 父という大樹にいただいた木陰
 売るために手塩にかけた木を倒す
 木造の世界最古の法隆寺
 金のなる木も預金も金を生みません
 神様の幾人おわす千年樹
 木が2本で林3本なら森
 怠け者に金の成る木は育たない
 まあるい顔にまあるい笑顔こけしさん
 温もりを子等に伝える木のおもちゃ
 不本意にも流木になりにくい木
 木陰にも小さな恋が落ちていた
 ありがたもう戦火耐えてきた巨木
 社の品がふるさと返礼品の誉れ
 嘘一つつかず生きたの我が誇り
 孫ヒ孫元氣なことが誇りです
 十五年入選数が一万句

大子報

ひとみ 勝弘 義徳 健二 喜久子 俊朗 野薫 高志 迪
 専平 扶美代 フジ 正義 みつこ 理恵 いさお 泰子 こみつ ちづる 宏造 一步 ダン吉 冬のト 一文 シルク 勝弘

長柳会(大阪)

大浦 福子報

友多く我が人生の誇りとす
 誇りある人生生きよ子に言うが
 川柳は世界に誇る日本製
 読む書くを歳を忘れていまでも尚
 雑草の誇りはきつと根の強さ
 正直に生きた誇りの小さい家
 誇らずに全てにリリス太公望
 母になる誇り競べるものがない
 前向きな汗をいっつも流してる

福子 隆彦 正美 ともこ おくみ 光弘 淳司 幸子 澄子 靖博 孝代 純風 正博 ヒロ 孝 千代 洋二

夏祭り浴衣美人になる親子
羽ばたこう今老春を助走中
夏帽子頑張る父の野良の汗
白い花山梔子が庭の隅
マスク取る勇氣出せ出せわが素顔
手袋にみんな戻れと熊ワメく

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

鏡見てこれじゃいかんとスクワット
命にはリセットボタンないのです
子育ては包容力と忍耐力
優秀な頭脳支える細い首
越えなさい神様に壁贈られる
あれからの私を包む鎮魂歌
母のない子にも天使が包む羽
子の心やさしく包むママの声
夢まくらリセットボタン探してる
リセットなどしない失敗も我が人生
まだまだと日々でかくなる父の壁
昭和世代包装紙すら捨てられず
壁の耳樂しみだった若かった
頭では整理できても片付かぬ
朝の風リセットさせる血の巡り
記者席で雁首そろえまず謝罪
里がえり好きも嫌いも包みこむ
過ぎ去った昭和の匂い壁のキズ
輪の中の小さな壁が立てる波

たけし
和子
由夏
由子
秀子
邦夫

篤
満知子
満作
真理子
雅美
真桜子
里子
直子
雄次
久仁雄
克己
福貴子
たかこ
廣子
ふりこ
行兵衛
ばつは
志津子
宏造

頭に拜啓あとは方言母の文
人生の壁幾つハードル越えたやら
遠花火リセットしようか迷いぬく
都会ぐらし夢がこわれたUターン
風呂敷に夕日を包む帰り道
俺たちの子だ頭のことは言うな
軍事同盟また高くつく頭金
天才と頭の形なら似てる

幸せがあなたの胸に包まれる
何度でもリセット夕焼けがきれい
人生がリセット出来ても今がいい
人の世にリセット出来ぬ傷を抱く
頑張れと壁から母の声がする
陽気だが見かけと違う石頭
壁伝う百足に冴えた眼と頭
何事もリセットできる酒二合

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

晴れもあり雨もあるから育つ稲
車椅子助ける子等に心晴れ
晴れ女雨子報まで覆す
一人去り二人去りして老いていく
考えておきますと気のない返事

川柳塔鹿野みか月(鳥取) 福西

長いもの巻かれてみたら損をした
留守番が仕事になった老いふたり
番犬がベットになって家の中

(矢)五月
万紗子
美籠
俊雄
寿之
いさお
憲彦
さくら
あや子
ゆみ子
友子
萌
芳香
民子
史郎
まつお

まみ子
かつ子
三樹夫
遡行
美千代
茶子報
甚緑
宏章
孝子

番犬の役目はできぬ男だった
ばらばらになっても僕は生きていく
我が子でも長逗留は嫌われる
長寿にも孫の数だけお小遣い
流行はなんと目障り耳障り
ばらばらの骨一致したDNA
流行と無縁敵だらけの野良着
にわか雨手櫛で直すばらけ髪
飲み過ぎというクレームを聞き流す
お寺では長い読経で熟睡だ
長い老後で友がそろそろ欠けだした
クレームもいつもの人とマークする
若き頃流行追って無駄遣い
独り居をいやす昭和の流行歌
クレームがつかない様に仕事する
見張り番席取なんて嫌ですよ
クレームはモリカケサクラマスクまで
番犬も育ちが良い尻尾振り
クレームをつけてロシアは正当化
クレームを誰につければこの暑さ

川柳ふうもん吟社(鳥取) 山下 凱柳報

とじもない道も信じて前進む
犬に逆立ちとじもないことするな
とじもない世論の風に渡される
とじもない場所で見つかる探し物
とじもない地球だ人が殺し合う
(因幡方言 とじもないとんでもない的外れ)

茶子
小鹿
弘六
一平
孔美子
弘子
盛桜
白周
完司
文道
ゆたか
瑞子
慎一
蟹郎
かおる
大鯨
草文
静恵
恒
金祥
蟹郎
月満
回春子
無限

人間を返せ私も叫びたい
 節穴を塞ぐころのせまい事
 株を買うお金があれば貯金する
 調べたら何が出るやら我が家系
 経験に裏打ちされたぶれぬ恋
 手を繋ごうやさしい風が吹くように
 四面楚歌出口は愛の一里塚
 出口とそここの癖もどんと増え
 出口の灯りまだまだ見えぬウクライナ
 玄関で迷い子のつばめ「出口どこ」
 貧乏のトンネル出口まだ見えぬ
 言い訳の嘘が出口でまだ迷う
 煩惱の出口さがして組む座禪
 衣食住足りてよろこび家族愛
 出来るならみなが喜ぶ句を創る
 よろこびは君へ絵手紙描けること
 ゼロ歳児よろこぶ顔ができている
 よろこびも悲しみもまた人生だ
 退院日カーテン広く広く開け
 苦勞の先に浮かぶ歓喜の笑い声
 よろこびの汗と涙はよく光る
 鯛はブリみんな同じ出世願
 価値観で人それぞれ出世欲
 出世した割に孤独な定年後
 真鯛が横目で見てる出世魚
 子は無欲親は出世を願う春
 付度と孤独の臭う社長室
 渡されて名刺に「二元」と書いてある

桐子 一 樟 宏 章 昌 鼓 紫 陽 一 平 龍 枝 房 江 鐘 植 拓 治 一 瑞 千 代 高 明 善 平 日 暮 勲 章 八 千 代 振 作 節 子 厚 子 茶 人 哲 子 洋 子 真 理 子 久 代

出世魚で祝う長寿の誕生日
 体力知力落ちて人生曲がり角

川柳花の輪(大阪)

川本

信子報

重 忠 凱 柳

見えかくれ雲間にならぶ七つ星
 あやしげな雲間の空気をつけて
 昭和期は雲間に干した布おしめ
 三度目も断り云えぬお人好し
 じれったい当確のバラまだ付かん
 アバウトで生きているのに罰もなし
 アバウトで良いと医者に聞く余命
 雲間から月が二人を追いかける

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

宏之報

信 子

強い日差し日傘の老女エレガント
 仕切り線踏み込みません嫁のあし
 試されているなと思う微妙な間
 渡り廊下のところどころに置く机
 空梅雨に庭の花木がしよげ返る
 雨降って咲き誇るのはあじさい花
 再稼働二県で決めているのかな
 紛争地よく見るマーク日本製
 新緑と花々が咲く通り道
 攻めるより守りに入る預金帳
 本当の自分を無理しないで出す
 お見舞いに顔見て同じ話し聞く
 できぬこと増えてはきたがまだ飲める
 山陰は自然が豊かだから好き

瑞 枝 宣 子 雨 奇 千 代 菜 々 ひろし 美 穂 美 緒 治 代 紀 の 治 宏 之 恵 子 俊 久 久 直

言いたい事呑み込む喉が疲れ気味

ブラザ川柳(大阪)

藤塚

克三報

多美子

耳揃えやつと返済義理が立つ
 岩井会ハップ物言ひ鼻高し
 尻からげひよつとこ踊り人の山
 明日は晴西空染める赤い玉
 旨い昼口に運びつ一句詠む
 ポスターのビールが誘う休肝日
 近頃は連絡帳がいる二人
 三日前やつと出てきた銀行印
 踊らされ風評に泣くおらが海
 チークダンスしたら責任取らされた
 巣ごもり中連絡網はスイスイと
 のびのびと育てるのにもいるお金
 凄い結果をさらりと告げていくJAXA
 川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

克 三 園 子 五 月 政 夫 靖 子 悦 夫 景 子 和 代 一 彌 清 乃 弘 光 正 子 淳 司 時 雄 志 津 子 廣 子 史 郎 い さ お 尚 邦 俣 子 禮 子 ひ さ 子 勝 弘

プーチンにタブーの意味を教えねば

美津子

AIはタブーの世界こじあける

敬子

真実は狭いところにジツという

ばつは

セイルスマンタブー用語を心得る

世紀子

肥った人に肥えたのと言うタブー

蕉子

デモ参加だけで逮捕のお国柄

玄也

神殿のこの奥カメラ入れません

みつこ

銀幕に残した寅さんの素顔

満作

飾らない素顔涼しい大谷君

満知子

化けすぎて自分の素顔つい忘れ

雅明

三次会平も課長も素顔です

和夫

式終えて新妻素顔また魅力

光雄

優しさがあふれる素顔真似できぬ

さくら

男です素顔晒して勝負する

五月

キャリアウーマン夜は素顔の二兄のママ

ひろ子

大阪の人みんな素顔で喋り出す

万紗子

享楽の街の素顔をみる夜明け

敏治

孫十九素顔のままで夢語る

萌

影法師ついで来たのはお前だけ

扶美代

神さまに次の世までもお願いし

瑠美子

神さまは尽きぬ戦を怒ってる

憲

買い溜めに使わぬいまま押入れに

育子

還厝に痛感してる親の思

淑子

カード社会通信系の落とし穴

憲彦

母さんが蔓を優しく折るホーム

佳子

六甲川柳会(兵庫)

梶谷 和郎 報

見てるだけチャンスの場合すぐ消える 次郎

腹が減る正確無比な腹時計

義明

主義主張異なるだけで命とる

忠志

戦争の終るニュースを待ちこがれ

克美

飽食が世界の飢餓を忘れてる

正彦

歩いて歩かなくても腹が減る

武彦

安倍氏逝くテレビドラマのようにして

盛夫

ネクタイを外せばすぐに俺お前

博

とんとんと六甲道に着きました

勝弘

好きなんだ努力した甲斐見える日は

和宏

くらくらする契約金が五十億

弘

ばあちゃんに怯む片言減らず口

栄

愛よりもダイヤに眩むのはお宮

和郎

背負うもの減って気楽と寂しさと

恭子

火傷せぬ距離で悩みを聴いてやる

利恵子

負けてても帰れないのが甲子園

崇史

「腹減った」あいさつ代わり成長期

隆浩

相槌が調子に乗せる長話

狸月

終末を夢見た矢先に第七波

美恵子

合掌をしてる両手は素直です

哲男

ハートから熱い想いが消えていく

ひとみ

コロナ禍でなかなか減らぬ靴の底

利子

今年の梅雨ショパンがお気に召さないの

道子

ねじ少し緩めぐらいが調子よい

千賀子

朝刊がコーヒーを飲むパン食べる

美津子

今日もまた靴音高く生きてます

廣光

くらくらとしても絶対さわらない

健二

散髪代頭禿けても同じまま

正和

陽の恵土が応えて秋の米

(讀) 洋一

寝転んで明日の風を待っている

光久

幸運の扉我が家の現在地

公輔

薄味になって長生きするわたし

みのる

あつたてこつちもたてて立ち回る

慎之

物価高珈琲減らし番茶にす

敦子

倉吉川柳会(鳥取)

大羽 雄大 報

家の乱れみんなおいらのせいなのか

隆昌

万札を壊した途端羽根が生え

智恵子

羊追う人にも勝る犬しつけ

日出子

東京でお金めいでは通じない

けいこ

泥んこに成って植え継ぎ笑い合い

佑子

そもそが貴方の要らぬ御せつかい

凱柳

聞き耳を立てた呼吸が乱れだす

麦青

コロナ禍で支援の給付乱れ飛ぶ

道春

遺産分けそもそも君が何故そこに

由紀子

成るならばピンピンコロリ逝きたいな

完司

梅雨明けたそもそも梅雨一夜だけ

醉美蓉

治療成り老木の生命力に活

照彦

何処に居ても溶けそうに成るこの猛暑

萩江

貴方なあ酒の飲みすぎ胃壊すよ

龍枝

芝売りはそもそも靈感のおつけ

紀美恵

思想違い乱れる同居今と昔

重忠

プーチンは平和乱した悪人だ

恭子

そもそにも途中で気づく綱渡り

風露

雄大

川柳ささやま(兵庫)

北澤

親民報

猫の手も借りず農繁期が終る

豊かすぎ微妙な不安忍び寄る

刻一刻減るもの命に気付くなかれ

だんだんと背骨曲がつて空見えぬ

豆植えた後から鳥が豆拾う

日々励む趣味が八十路の糧となり

梅雨が明け一人前に啼く蛙

ケーキよりのこ焼き祝う古い誕生日

引いの三味線響く沖繩に

おでん汁つかる大根ちよつと焦げ

やっぱりね恵みの雨がありがたい

おかあさん頑張ったよねあの夏も

川柳ねやがわ(大阪)

籠島

恵子報

ライバルはだあれも居ない青い空

人間のルール違反に泣く地球

繕いつつまだ役に立つ知恵袋

初産の親子うれしご対面

反戦を叫んでひまわりが咲いた

親友でいいライバルの古い友

ライバルは試合終われば無二の友

ライバルがそつと差し出す助け舟

ライバルのおかげで今のボクがある

違反ラインすれすれ気味の好プレー

乾杯の前に飲んでる奴がいる

頑固一徹法に背かず生きた父

違反キップ切るのが僕の大仕事

古女房足は立たぬが口が立ち

古民家の心落ち着く黒ばしら

古カバン開けて飛び出す青春期

古くてもいいのわたしの恋だから

十円を握り走った貸本屋

息子からお古を貰う老いの冬

古すぎる言葉並べてお説教

被災地に無事な姿の友がいた

感激はこれ以上ない富士登山

感激の極み十年目の逢瀬

三食がうまい確かに生きている

折り折りの花たち心慰める

ひと息ハアッふた息フウフウ上り坂

煩惱を打つ警策の温い喝

苦も楽もあつて大河のひと滴

遠い耳オレオレ詐欺が諦める

うつうつと思ひ晴らして青い天

ありふれた毎日でよい平和なら

光差す方へ導く白い地図

なんたつて平和が一番の願い

あぶないなア想い出話ばかりする

ぼたる川柳同好会(大阪)水野

おじいちゃんルール破つて叱られる

ルール破り逆縁という親不孝

かすみ

博泉

順子

武人

美砂子

弘子

郁夫

秀雄

高志

一文

壽峰

仁

ルイ子

亜成

欣之

星雨

泰子

賢子

弘一

かこ

朝子

恵子

契子

農作業に就業規則などはない

若者が昭和のルール変えている

妻の留守ルール違反の休肝日

日に三度おやつのように飲む薬

立ち飲みのもつりか脚に蚊が2匹

昼の酒小瓶ひとつでよく回る

井戸水で冷やす昭和のトコロテン

枝豆がビチビチ跳ねてさあビール

川柳あまがさき(兵庫)大浦

野の蟬と耳住む蟬が二重奏

DIY廃材使いボチの家

犬小屋に入らぬ犬を木に繋ぐ

蟬の声やっぱり梅雨あけ実感す

祇園囃子に暑い京都の身がさわぐ

天の川半月に乗り逢瀬の日

沈黙が言葉を超える時がある

襲撃の現場に見える平和はけ

戦争がいともたやすく始まった

雨音もシヨパンも同じ二日酔い

雨宿り軒先よりもコンビニへ

てるてるぼうず逆さに吊つて初デート

倒される日はいつか来る子と相撲

横綱を倒す小兵の隠し技

ころんだらあかんあかん靴がなる

八十歳力ぬいたら倒れます

宏造

直子

奈津子

順子

蟻日路

一弥

春代

黒兔

修平

千賀子

柳明

れい香

佐和子

初音

紀恵

こみつ

健二

雄次

ゆきみ

真桜子

菊江

幸彦

楓華

耕治

英坊

庭の樹が水・水・水とさげびだす
水を買うそんなまさかを生きている
絶好調かかつてこいやジャイアンツ
母さんがあなたどなたと問いかける
慌てるなもう二年待て借りの金
慌てる靴を抱えて走ってる
レジの前慌てて探す一円貨
慌てるな九回裏がまだあるよ
七転びしたら七起きしか出来ん
先生も待ち焦がれる夏休み
かわいがウルサイ園児達の声
花よりも葉が自慢ですお茶畑
かあさんの思い出に酔うナフタリン

川柳塔まつえ吟社(島根) 相見 柳歩報

河川敷郷愁誘うお蔵ごころ
田舎には河の字知らぬ川がある
栄光も挫折も抱いたまま大河
流れ星いいえ銀河の暴れん坊
アラジンもランブも後期高齢者
片言で笑顔が魔法かけにくる
獣道消えて高速道喰る
二つ三つ胸にある傷海に消す
シミシワを消すとは過去を消すことじゃ
消したって想い出残る永遠に
消しゴムで消すにも消せぬ慣用句
失跡七年自由になれたかな

紀 華 雪 菜 祐 康 廣 光 隆 一 正 彦 新 録 正 和 和 子 久 仁 雄 かずお 哲 男 宏 造

以下削除むかしに多数悪事あり
そこそこの共感弾く孤独感
パチンコもそこそこにして仕事しろ
そこそこと痒い背中を指図する
そこそこの夜遊び月を蒼くする

川柳藤井寺(大阪) 鈴木いさお報

大ロシアにもいてほしい鶴彬
親になる覚悟を貰う岩田帯
夏登山湧き水見つけ一休み
ボツボツと覚悟する日が近くなる
神よ居るならウクライナの地に降りよ
立ち直れ美しい国ウクライナ
民主主義の楯になってるウクライナ
メビウスの輪を抜けれぬウクライナ
自然体ちよろちよろ邪魔をする野心
ちよろちよろと未だに過ぎる色と金
ウクライナ惨状見るも耐えられぬ
この女と覚悟決めたがまた喧嘩
ブーチンをズドンと一発いませんか
茶碗二ついつか独りという覚悟
平和の日ちよろちよろ燃やし消しはせぬ
ウクライナへ届け反戦の叫び

川柳de遊ぼう会(大阪) 小野 雅美報

梅雨入りに洒落た傘買い雨季雨季と
選ぶのは勝手でしょうと売り言葉
ブーチンは五右衛門風呂でくらくらと
さつまいも詰め放題に前のめり
母さんの遺影の前に止まる蝶
ログインシアマゾンの森迷い込む
早起きし前髪セットする娘
並んでる前もわからず列につく
咳払い優先席の前に立つ
ボスターの笑顔こつちを覗んでる
目の前にあるのに見えぬ探し物
居酒屋で鏝を落とした脳回路
はやまったピピッと決めたばかりに
さよならの美学 あなたの前をゆく
長い階段琴平さんの罪深さ
徹夜明け目に染み渡る空の青
あんばんば木村屋だけと決めている
告白の君の瞳に酔っている

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

ざわざわと心に波が立つ嫉妬
恋なんて脳波のちよつとした異状

波風の立たぬ会議に義理参加
サーフィンに北斎の波丁度良く

飲食店波間の息も絶え絶えに
名前まだ覚えています笠智衆

くたびれた男洪いと言つて褒め
易易と洪い男は笑わない

高齡の洪い財布を開ける孫
父の日に息子から酒届くとは

新茶なら少し洪目のほうが良い
うどん屋の七味は実に合っている

波風も立てない様に控え目に
大波小波浮世の波にしがみつく

老いたつて恋のさざ波あつていい
採みほぐすつもりが採みおこしとはね

頑な心ほぐした墓参り
さすがですスパイス利いた名講師

今日の風呂癒しの薬湯生き返る
塩胡椒利かせておこう物忘れ

家ごもりスパイスカレーはまり込み
洪面は地ですとブルドックが言う

洪いお茶後に甘さを残します
悔い少し波乱万丈生きた道

時間と手間かけて洪柿甘くする
大波も小波もあつて今日がある

老夫婦スパイスにする小旅行

穩夫 江久 勝代 恵子 義泰 万彩 朝子 常男 和美 扶美代 信子 三成 裕之 航太郎 康信 世紀子 恭子 隆雄 進彦 昌代 勝久 眞澄 麻子 規子 昭勝 ひろ子

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

脇道が近道だとは異だった

(近) 正

脇道へそれそうになる甘い声

裕之

抜け道を知り過ぎ人の道外す

麻也

脇道が本道になる芸術家

冬のト

脇道が教えてくれた人の情

遊

パイパス手術生きよと神の声

ゆうこ

脇道も知つて深まる人間味

夕胡

脇道で出会つた縁君と僕

みつ江

脇道で学んで帰るランドセル

鉄心

人間を磨く脇道回り道

欣之

火遊びに何時もあわやが付きまとう

北朗

あおられてあわや大事故大惨事

佐知

助け舟すんでのところ母の勘

昌代

神さまにあわやのどこを救われる

朝子

振込みの寸前気づく詐欺の罠

壽峰

子や孫へ軍靴はかせてなるものか

敏子

ラストランへ結び直した靴の紐

紀子

靴紐を結び直して終の道

恵美子

どこまでも行ける気がしたこの靴で

文吉

磨り減つた靴底じつと見て思う

ダン吉

欲のない振りつて靴を履き替える

千代

ホームラン打つたことない父の靴

楓楽

逢いに行くニューバランスのスニーカー

一筒

もう誰も好きにならないう重い靴

穩夫

小学生戦争恐いとメッセーじ

かつ美

核禁会議何故参加せぬ被爆国
鶴彬どう生きますかこの日本

光子 峯二

軍事費が伸びて下がるは暮し向き

則男

魂の叫び戦のない世界

克己

軍拡いつか来た道国債へ

穴道

革新に入れた選挙に悔いはない

一歩

手間賃を嘲笑つてる物価高

征之

わたし達武器よさらばといかぬのか

和

報道の自由度ほどの民主主義

鈍行

踏み切りでああ車椅子立往生

福貴子

川柳塔なら

大久保眞澄報

ガラケーとスマホぶれたままの父子

恭昌

ブレない人を選びたいけど見当たらず

げんえい

暑さいきなり右脳左脳もぶれまくる

すみえ

しなやかにぶれて世渡り風見鶏

薫

DNAぶれず娘も酒が好き

崇明

三枚目で当たり二枚目よりモテる

かずお

ナイーブな心かくして三枚目

もと子

淋しくはないつとぶやく帰り路

良岩

毎日が三枚目です老いの日々

美智代

三枚目主役引き立て燻し銀

寿之

研究者ですが家では三枚目

希久子

二枚目が入れ歯外して三枚目

則彦

三枚目も上手にこなす芸達者

亜成

チャップリン三枚目でも平和主義

一歩

道化師になつて場を持つ宮仕え

行久

出て来ただけで舞台を沸かす三枚目

敬子

いさかいを笑いでほぐす三枚目
ヒトラーと聞いたぬいたチャップリン
浪花の矜持笑うより笑われよ
めきめきといくと思つたが穴ドボン

みつこ
勝弘
眞澄

脳トレで腕上げ呆けが小休止
次々と最少年を塗り変える
めきめきと私の五感太らせる

和夫
貫一
昭

神童が天才なのか迫り越す児
定年後料理ビアノに腕を上げ
身と心悲鳴上げてるブレッツシャー

比呂志
江里子
史郎

幸運の女神掴むと逃げてゆく
アイメイクととも上達したコロナ
逃げ口上いつも並べて雲隠れ

すみれ
ふりこ
満作

子育てに逃げ道ひとつ開けてある
蜜絶えて一目散に逃げる蟻
赤い舌出してやる気が逃げていく

成子
富子
定生

夜逃げでも出来るぐらいの旅支度
座禅組むわたしの闇の逃げるまで
逃げないと決めたたとんに光射す

弘子
じゅん子

大山滝句座(鳥取)

新家 完司 報

生ビール二杯で受けたプロポーズ
ああでもないこうでもない試験管
どなたでもおいしくできるカレールー

美智子
芳光
幸子

肉ジャガの残りドリアにかえて昼
簡単に結ばた筈の靴の紐
規則規則規則ガラスが割れていく

風露
紀の治
くにこ

行け行け突つ込め信号は黄色だ
モラルという骨格を持ち人である
門限が私の恋の邪魔をする
戦争はどこでも規則破壊する

芳山
紫陽
八千代

工夫など止して素のまま生きて
暑いのに財布の中は大寒波
暑い日は日本海に飛び込もう
所狭しと便利グッズが百均に

雄大
ゆたか
石花菜

簡単にあの世に行ける筈がない
暑い日をお化け屋敷に放り込む
海が暑くてクジラの熱中症
折り畳み傘が羨むジャンプ傘

美人
美ツ千
麦青

簡単に手に入らない物に価値
和紙工芸工夫の結果体験す
午前さま鍵は自分で開けること
簡単に済まぬ隣の痴話喧嘩

順子
富隆
けいこ

同じ工夫大イガグリとハリネズミ
《前号》あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子 報

久子
重忠
完司

認語で赤木ファイルに蓋をする
権力へ胸算用のイエスマン
何の打算もないみどり児のにこり
風を読み妥協するのも生きる知恵

つよし
ゆうこ
美晴日

それなりの打算もありのお付き合
人間の打算ぶつかり合う浮世
支援する裏に隠している打算
老いてなおこころの隅に棲む打算

佐知
文聡
敏治

純粋な愛に打算はあり得ない
縛り上げの議員パッチをつける朝
ラッキーマンはこの世に生をうけたこと
うんだ子が優しい花に咲きました

珠子
志津子
鈍甲

不幸だと気付かないままあの世逝く
懐の心配せずに逝く冥途
金植も泳ぎきったぞこの浮き世
お金にはいまだ困ったことがない

和郎
高鷺
昌芳

ラッキーマンと母さんとの出会い
打てば響く君と出合えて今がある
出会いたい人がホームに立っている
獣さえ恐れています人間を

一步
誠
信子

殺し合うヒト科をわらう獣たち
人間の愚か獣を呼び寄せる
夫という珍獣と暮しています
獣もこんな非道はやれませんが

千鶴子
なずな
古池蛙

老いの首真綿で締め物価高
国連に発破がきかぬ焦れつたさ
老いてゆく子らに背中を見せながら
ガラボンの特別賞は介護券

眞澄
万作
まさあき

玉葱が居ないと淋しがるバスタ
日が流れハীগ事件も齢をとる
5グラムの砂から見つかった命
待ちかねているブーチンの死亡記事

美和子
昌代
りゅうこ

日本の針路を決める浮動票
人間を鳥獣戯画が嘲笑う
子育てに存在しない打算など

心平太
一筒
北朗

常男
福貴子

第71回 東北川柳大会

日時 9月25日(日)午前9時30分開場
会場 東京エレクトロンホール宮城6階
参加費 2500円(昼食・発表誌呈)
柳話 木本 朱夏氏
宿題 (各題2句・自由吟は2人選で同一句禁)
「文房具」 駒木 香苑 選
「スパイス」 片倉 卯月 選
「声」 熊谷 岳朗 選
「折る」 長谷川 醉月 選
「うずうず」 高瀬 霜石 選
「自由吟」 木本 朱夏 選
「自由吟」 零石 隆子 選
席題 (1題 2句・3人選)
出句締切 午前11時30分
欠席投句 所定の用紙に投句料1000円(切手不可)を添えて下記へ投句してください。
締切 9月10日必着
〒981-8007 仙台市泉区虹の丘1-6-3
田村 富夫 宛
投句用紙必要の方は大会事務局にご一報願います。
大会事務局 川柳宮城野社
TEL/FAX 022-227-0575

第53回 奈良新聞川柳大会(紙上大会)

昨年度に引き続き紙上大会として実施いたします。

宿題及び選者(各題2句)

「ニュース川柳」 大西 将文 選
「もしも」 居谷真理子 選
「転ぶ」 大久保真澄 選
「とほける」 更谷 風見 選
「空」 米田 恭昌 選
「ハート」 阪本 高士 選
「飛鳥」 田中 薫 選
「しみじみ」 田中 新一 選

締切 10月10日(月)消印有効

投句料 1000円(小為替等・切手不可)
発表誌呈(令和5年1月下旬発送予定)

投句用紙 所定の用紙

申込・問い合わせ先

〒630-8686 奈良市法華寺町2番地4
奈良新聞社 企画部 事業ユニット
「川柳大会事務局」係

TEL 0742-32-2115 FAX 742-32-2774

主催 奈良新聞社

後援 奈良県教育委員会・奈良市教育委員会・奈良県川柳連盟

富田林市民文化祭

富柳会 第72回川柳大会

とき 9月24日(土) 正午 開場

ところ 富田林すばるホール2階

小ホール

(近鉄長野線 川西駅下車

徒歩8分)

お話し 「川柳とユーモア」

菱木 誠氏

兼題と選者 各題2句 席題なし

「乱」 穂山 常男 選

「ずばら」 江島谷勝弘 選

「擦る」 大久保真澄 選

「指導」 久世 高鷲 選

「凭れる」 中岡千代美 選

「余裕」 山野 寿之 選

出句締切 午後1時

お問合せ 山野 寿之

(電話090-4308-8339)

主催 富柳会・富田林市川柳協会

令和4年度 奈良県大芸術祭・奈良県障害者大芸術祭 参加

第93回 奈良県川柳大会(誌上大会)

昨年度に引き続き誌上大会として実施いたします。

宿題及び選者(各題2句)

「残る」 平井美智子 選

「玉」 秋田あかり 選

「気まぐれ」 安福 和夫 選

「旅」 稲葉 良岩 選

「水」 北谷 敦美 選

「伸ばす」 田中 薫 選

「ジョーカー」 長尾 三幸 選

締切 10月11日(火)必着

会費 1000円(切手不可) 発表誌呈

投句用紙 所定の用紙(コピー可)

送付先 〒634-0831

橿原市曾我町729-18

西澤 知子 宛

問い合わせ 植野美津江まで

TEL 090-7969-9799

主催: 奈良県川柳連盟 担当: やまと番傘川柳社

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
岸 和 田 川 柳 会	17日(土)14時締切 時計・染める・よもや・ソフト	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 投句先変更 〒597-0082 貝塚市石才25-3 石田ひろ子
川 柳 塔 みちのく	17日(土) 17時締切 痛い・トス・弾む	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 たちばな	17日(土) 13時45分締切 席題・声・さわやか・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 藤 井 寺	18日(日) 14時締切 ムード・がんじがらめ 席題共撰	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	19日(月) 14時締切 リズム・秋・情報・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	19日(月) 13時50分締切 知恵・飽きる・じりじり 自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 さ ン だ	20日(火) 13時 30分締切 (誌上句会に変更あり) 突破・重い・サロン・育つ・自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先変更 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
川 柳 塔 すみよし	24日(土) 14時締切 息・誉める・そわそわ	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	24日(土) 大会	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
和 歌 山 三 幸 柳 会	24日(土) 13時15分締切 パン・ゆっくり・ニュース	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川 柳 ねやがわ	25日(日) 解決・マスク・粘る・貯金 自由吟	投句・25日締切 投句先: 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
はびきの 市 民 会 川 柳 会	25日(日) 14時締切 宿・鍛える・アドリブ・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷺」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	25日(日) 13時～ 自由吟・分ける・抜け道 バトル	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	1 日(木) 投句締め切り 影(字結び可)・さらさら 実る・席題	誌上句会 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城 北 川 柳 会	3 日(土) 14時締切 上の空・スマホ・先生・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
倉 吉 川 柳 会	3 日(土) 14時締切 やかん・隣り・宥める 席題一題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡湯梨浜町545-16 竹信照彦
川 柳 塔 ま つ え 吟 社	3 日(土) 13時30分締切 球・窓・村・安	投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館
川 柳 塔 さ か い	7 日(火) 締切 誌上句会 穏やか・癖・野菜 折句:ひ・ら・め	投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(水)必着 つなひき・カサカサ・仮装	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
あかつき 川 柳 会	9 日(金) 14時締切 豪華・こってり・耐・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六 甲 川 柳 会	10 日(土) 14時締切 原点・太い・読む・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 わかやま 吟 社	10 日(土) 14時10分締切 兼 題=底辺・蛙・ワゴン・公園 課題吟=葉	JAビル1 1階(J R和歌山駅前) 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫
川 柳 塔 打 吹	10 日(土) 13時30分締切 穴・天然・ゆらゆら・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
西宮北口 川 柳 会	12 日(月)14時締切 席題・デマ・覗く・ふつふつ 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須根2-1-31-830 福田正彦
ほ たる 川 柳 同 好 会	13 日(火) 13時30分締切 椅子・続く・やれやれ	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川 柳 あまがさき	13 日(火) 14時締切 乱れる・欲・持て余す・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園町3-49-5 藤井宏造

柳界展望

★令和4年早春龍ヶ崎川柳誌上大会。同人成績。高得点句(2位)

天 位 平井美智子

付度はせぬと孤高を通す虎

★第三十六回岐阜県川柳作家協会川柳誌上大会。同人成績。

特 1 竹村紀の治

膨らんでくると触ってみたくなる

▽出版△

○ほたる川柳同好会創立三十周年記念合同句集(第6句集)「川柳 ほたる」B6判81頁。

○「因幡方言川柳集」川柳ふうもん吟社発行。A5判95頁。

▽同人の動向△

○7月9日、麻生路郎師

を偲ぶ「句碑まつり」が、4年ぶりに尾道市の志賀直哉旧居下の文学公園で行われた。今回は「おのみち川柳会」ではなく、「尾道市立中央図書館の川柳教室」としてはじめて実施され、小島蘭幸主幹が「路郎忌の余韻の中の句碑まつり」を句碑の前で披露されたことなどが翌10日の尾道新聞で紹介された。

▽訂正とお詫び△

○7月号P46下段10行目 城戸誓子さんの句、亡姉の名を呼ぶ姉になってみる→亡姉の名を呼ぶ母姉になってみる。P90上段5行目、田吹未鉄→田吹宗鉄。8行目、山東日出夫→山東日出男。中段3行目、司会→理子→司会

○7月号P31下段1行目の句、「一緒にには逝けないけれどそこらまで」は先行句があり取り消し。それに伴い、8月号P72下段21行目から25行目まで削除。

▽新誌友紹介△
出雲市 阿部 幸江
紹介者 竹治ちかし
藤井寺市 松井 正義
紹介者 鈴木いさお
三田市 野口 雄次
紹介者 長浜 美籠

○7月号P63下段21行目、仲筋弘充→中筋弘充。P74中断1行目、あいだみつおに→相田みつをに。P83中段「列」10行目、松浦秀夫→松浦英夫。P84上段1行目、宇賀四郎→宇賀史郎。10行目、人の句 最前列にいないのは味方ではない↓最前列にいないのは味方で

○7月号P7行目、青木みゆき→青木みゆき。P102上段1行目、時の川柳交換川柳大会→時の川柳交歓川柳大会。

常任理事会(8月10日)出席16名①次年度役員補充について②「川柳塔まつり」の具体化③「春の川柳塔まつり誌上大会」について④会計収支報告⑤同人誌友拡大の具体化⑥高野山合祀について⑦定例確認事項。

柳界展望募集

各地句会・同人・誌友の活動・動向などをお寄せください。採否は編集部に一任の事。

新 同 人 紹 介

妹 能 令 位 子 — 千代・紀の治・宏之推薦		北 山 ま み ど り — 完司・朱夏・霜石推薦		石 澤 は る 子 — 完司・朱夏・霜石推薦	
新 阜 義 明 — 和郎・廣光推薦		阪 井 恵 子 — 完司・朱夏・美智子推薦		大 沢 の り 子 — 完司・朱夏・美智子推薦	
松 田 蟻 日 路 — 蘭幸・完司・黒兎推薦		櫻 井 崇 史 — 和郎・廣光推薦		折 田 あ き こ — 完司・朱夏・美智子推薦	

編集後記

★本号から編集人を務める柴原道夫です。木本朱夏編集人の時と同様、編集への御協力の程よろしくお願いいたします。

★私の趣味は劇場通いだ

が、6月27日から1月間

で12の劇場に行った。コ

ロナによる規制はだいぶ

緩和されたが、座席制限

をしている歌舞伎座・

松竹座は花道の両側、国

立文楽劇場は太夫が語る

床の近辺、鈴木演芸場・

本多劇場は最前列は座れ

ない。歌舞伎座は、横並

び2席の次の席や、幕見

席も販売していない。

★すべての劇場で、客席

やロビーでの飲食・飲酒

は禁止。客席の階以外で

飲食スペースを設けてい

るのが、松竹座・国立文

楽劇場・鈴木演芸場。

★重要な禁止事項を忘れ

ていた。大向うからの「松

嶋屋」「高麗屋」や、寄

席の主任が出てきた時の

「待つてました、たっぶ

り」の掛声は未だ不可。

コロナ禍の2年余りの間

に、掛声のかからない歌

舞伎や寄席に馴れてし

まった感覚が怖い。

(道夫)

○その身にならないと解

らない事がいっぱいある。

○マスク生活になったと

き、保育士さんと園児と

の顔と顔の会話が難しく

なり、聲啞の方が相手の

方の口元の動きを読めな

くなった。テレビで見る

まで全然気付かなかった。

○脊柱管狭窄症が悪化し

て、杖を突いて外出し

ていた時期がある。駅で

はエスカレーターやエレ

ベーターを探し歩いた。

文明の利器は、杖で辿り

着くこと自体が大変な、

ひとこと

かまし会

コロナ禍で休会して三年目。新聞社の柳壇、東かが市広報誌、白鳥神社社報誌への投句は欠かせません。初恵さん、よしみさんと女三人月一回我家で勉強会を開いています。かまし会で作句した句の意図を聞き、どの言葉で表現すれば生きた句になるのか等、三人で推敲に推敲を重ねる時間が楽しく、素晴らしい五七五の世界が広

がり川柳愛に目覚める感じでした。昨年年度重会長が他界し5名の細々とした会ですが、小さいなりの運営方法で葉先生、薫風先生の句碑の建つ白鳥の地から川柳塔への灯りを消してはなりません。これは会員全員の強い思いと使命感です。コロナが終息したら新会員加入に全力を注ぎ、川柳塔の灯を点し続けたいと思います。

(川崎ひかり)

設置されていた。自身が杖を突くまで気付かなかった。

○知らないが、遅ればせながらの気付きで許してもら

えるだろうが。

○原爆を知る日本が核共有論を、チエルノブイリ

を経験したロシアが核使用をちらつかせる。エラ

イ人は経験しても重大さに気付かないらしい。

○不明にして皆さんの句が理解できなくてもお許し願えますか。

(眞澄)

▲8月29日から狭山市立公民館で「川柳勉強会」

をスタートさせます。メンバーは初心者ばかり約10名です。

▲きっかけは、公民館から、「初歩の川柳講座を

お願いしたい」との問い

合わせの電話からです。ヤフーで公民館スタッフが「川柳・堺市」で検索

した偶然のご縁です。

▲19名応募があり抽選し15名の生徒で、齋藤さく

らさんと2人で入門講座を6回実施。「川柳しま

せんか」の全編通読及び個人別添削指導をメインに互選会、模擬句会も体験してもらった。

▲生徒も熱心に出席。公民館の丁寧な応援もあり、勉強会の継続となった。コロナ自粛とは逆に、空き時間を「できること

から始める」というニーズが、意外にあるのかも。

▲この「川柳勉強会」をこつこつ続けます。お

川柳塔誌新規購読申込書

きりとらせん

年 月 日

フリガナ

氏名	住所	電話	紹介者
	〒		(無記入でも可)
	ー		

○ ○

年 年

月から半年
月から一年

5000円
9800円

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

作品募集

11月号発表 (9月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭 幸選
水煙抄 (8句) 木本朱夏 選選
愛染帖 (2句) 新家完司 選選
檸檬抄 (2句) 江島谷勝弘 共選
インスピレーションナビ (2句) 永見心咲 選
一路集 (2句) 大西泰世 選
「粒」 成田雨奇 選
「叫ぶ」 奥田由美 選
「鍋」 (3句) 平井美智子 担当
初歩教室「鍋」は12月号発表

12月号
檸檬抄「こってり」
一路集「危ない」「きっちり」
初歩教室「雲」

本社9月句会

とき 9月7日(水) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441
おはなし 「川柳に詠まれた人たち」
兼題 「土壇場」
席題 「まるで」「どっしり」「悔しい」「自由吟」
水野黒兔氏
江島谷勝弘氏
長谷川崇明氏
宇都満知子氏
山崎武彦氏
古今堂蕉子氏
小島蘭幸氏
(各題2句以内)

会費 1000円
投句料 1000円(切手不可)

本社10月句会は第28回川柳塔まつりとして、10月1日(土)に開催します。(本号の表紙裏を参照して下さい。)

本社句会欠席投句のお薦め

- * 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- * 投句料1000円(切手不可)。
- * 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052

大阪府天王寺区大田道一1-14-17
印刷所 美研アート

発行人 小島和幸
編集人 榎原道夫
印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社

電話 (06) 6772-1441
振替 〇〇九八〇一四一 九八四七九番

定価 八百円(送料100円)

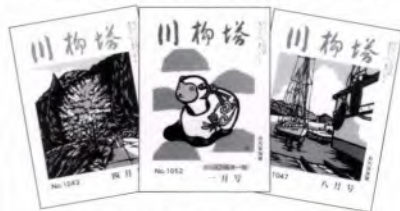
半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

二〇二二年(令和四年)九月一日発行

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ
職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283

川柳ふうもん吟社

「因幡方言川柳集」

因幡地方（鳥取県東部）の方言を兼題とした秀句を収録。
方言と川柳の組み合わせの妙を味わってください。

頒 価 1, 0 0 0 円（消費税・送料込み）

ご注文 〒680-0851 鳥取市大杵383-29 山下凱柳

電話・ファックス 0 8 5 7 - 2 9 - 7 5 7 1

携帯 0 9 0 - 7 8 9 7 - 1 9 0 5